

○證據トシテ提出セラレタルモノハ證據力ノ有無ニ拘ハラズ裁判所ニ於テ之ヲ取調フヘキモノトス

○被告人ニ對スル訊問及ヒ其供述ハ證據調ノ手續ニ屬セサルカ故ニ共同被告人中甲ノ供述ヲ乙ノ不利益ナル證據ニ供セントスル場合ニ於テモ其供述ニ付キ乙ノ意見ヲ求ムルノ要ナキモノトス

○判決書ハ之ヲ書證ト稱スルコトヲ得サルモノナレハ原審公判始末書中各記録ノ書證一切ニ付キ證據調ヲ爲シタル旨ノ記載アルモ原判決ニ援用セル判決書ニ付キ證據調ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

○公判廷ニ於テ被告人ノ利益ノ爲メニ辯護人ヨリ提出セル證據物件ニ付キ其説明ヲ聽キタル以上ハ證據調ノ手續ハ完了セルモノトス而シテ其種類點數ノ如キハ之ヲ公判始末書ニ記載セサルモ違法ニ非ス

○裁判長カ證人ノ訊問ヲ終了シタル場合ニ於テ刑事訴訟法第九十八條第一項ニ依リ證人ノ供述ニ付キ被告人ニ對シ意見ノ有無ヲ問フニ先チ證人ヲシテ退廷セシムルモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法上證據調ハ犯罪事實認定ノ爲メ必要ナル證據及ヒ證據物件ニ付キ之ヲ爲スモノニシテ被告ノ前科ノ如キハ罪トナルヘキ事實ニ非サレハ其認定資料タル前科調書ニ付テハ右手續ヲ履踐スルノ要ナキモノトス

○公判ニ於テ訊問シタル證人又ハ參考人ノ供述ニ付キ被告人ノ意見ノ有無ヲ問ハサルモ其公判始末書ハ有效ナルノミナラス該供述モ無効ニ非ス止タ其訊問ヲ爲シタル裁判所ニ於テハ證據調手續ニ違法ノ點アルヲ以テ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得サルモノトス

○第一審公判始末書ニ裁判長カ豫審終結決定書ヲ讀聞カセ同書記載ノ犯罪事實ニ付キ其有無ヲ問ヒ被告ハ其事實相違ナシト答ヘタル旨ノ記載アルトキハ豫審終結決定書記載ノ犯罪事實ヲ自認シタルモノナルヲ以テ第二審裁判所カ之ヲ援用セントスルニハ其公判ニ於テ前示公判始末書ノ外尙ホ豫審終結決定書ヲモ被告ニ讀聞ケ意見及ヒ反證ノ有無ヲ問フコトヲ要スルモノトス

○證人ノ供述ニ付キ一旦被告人ノ意見辯解ヲ求メタル以上ハ其後更ニ該證人ノ訊問供述アル場合ト雖モ被告人ニ對シ再ヒ意見辯解ヲ求ムルコトヲ要セサルモノトス

○公判裁判所ノ證據決定ニ基キ受命判事カ檢證ヲ爲シタル結果檢證調書竝ニ檢證圖面ヲ作成シタル場合ニ於テ調書ト圖面ト相違テ檢證ノ顛末ヲ明カニシタルトキハ公判ニ於テハ單ニ檢證調書ヲ讀聞カシムルヲ以

テ之ヲ要スルモノトス

テ之ヲ要スルモノトス

三 一三五

四 一四五九

四 一九九〇

五 一二七

五 一二三

六 一

六 四五七

七 二八

七 二七五

- テ足レトセス必スヤ其圖面ニ付テモ證據調ヲ爲スニ非サレハ證據決定ハ完全ニ施行セラレタルモノト謂フヲ得ス
- 沒收スヘキ物件ハ證據物件ト異ナリ或ハ記録ニ依リテ其存在ノ確定セルモノアリ或ハ法廷ニ提出スルコトヲ得サルモノアリ從テ必スシモ法廷ニ於テ逐一之ヲ被告人ニ示スノ要ナシ
- 證據物件ヲ總括シテ被告人ニ示シ其辯解ヲ徵スルハ不法ニ非ス
- 押收ニ係ル證據書類ノ全部ヲ證據トシテ採用シ乍ラ單ニ一部ノミヲ示シテ辯解ヲ徵シタルニ止マリ全部ニ及ハサルハ證據調ノ法則ヲ適用セサル不法アリ
- 檢事ヨリ參考トシテ送致シタル書類ハ之ヲ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメタル上ハ斷罪ノ資料ニ供スルモ不法ニ非ス
- 刑事訴訟法第九十八條第二項ノ規定ハ被告人ニ對シ不利ナル證據ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムヘキ旨趣ナリトス從テ利益ノ證據ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムルノ必要ナシ(本條三年二五三四頁參照)
- 鑑定書ヲ被告人ニ示シ他ニ尙ホ反證アラハ提出シ得ル旨ヲ告知シタルトキハ特ニ意見ヲ促ササルモ違法ニ非ス
- 偽造ノ告訴狀及ヒ告發狀ハ證據物件ナリトス從テ證據調ヲ爲スニ當リ

三五	三七	三〇	三〇	七
四	二	六	四	
三七	六	三	四〇	五八九
	一六	六		

テハ被告人ニ之ヲ示スヲ當然トス

- 證據金品目錄ハ人ノ供述又ハ意見ヲ記載シタル調書ト異ナリ單ニ手續上金圓若クハ物品ノ存否ヲ表示セルモノニ過キサレハ證據調ヲ行フ場合ニハ之ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシムルヲ以テ足レリトス
- 繪圖面ノ如キ朗讀ノ方法ヲ以テ證據調ノ手續ヲ爲スコト能ハサル證據ハ該圖面カ他ノ文書ニ附屬シテ存在スル場合ト否トヲ問ハス之ヲ被告ニ示シテ辯解セシムルノ手續ヲ履行スルニ非サレハ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得ス

(同主旨)

圖畫筆蹟若クハ印影等ノ如キ朗讀シ得ヘカラサルモノ又ハ朗讀スルモ證據ノ旨趣ヲ了解シ得ヘカラサルモノハ之ヲ被告人ニ示スヲ以テ適當ノ方法トス

- 警察官ノ作成シタル素行調書ヲ證據ト爲スニハ之ヲ朗讀シテ被告ノ辯解ヲ聽カサルヘカラス

- 鑑定書ヲ被告人ニ示スト之ヲ朗讀スルトハ其書面ノ如何ニ因リテ定マルヘキモノトス

(同主旨)

鑑定書ヲ朗讀スルト被告人ニ示ストハ其鑑定書ノ如何ニ因ルモノトス從テ筆跡ニ關スル場合ニ於テ朗讀ヲ爲サスシテ之ヲ被告人ニ示シタルハ相當ナリ

三五	四	四	三九	四	三九	三五
四						五
三七	七六	六六九	一九七	一八七	三六九	三八

○民事訴訟事件ノ爲メニ證據トシテ作成セラレタル調書ハ縱令當該刑事被告事件ト密接ノ關係ヲ有スルモ證據書類ニ非スシテ證據物件ナルカ故ニ唯之ヲ被告ニ示スノミヲ以テ足レリトス

四二

一〇七三

○刑事訴訟法第九十八條第二項ノ規定ハ被告人ヲシテ或證據物件カ如何ナル點ニ於テ犯罪ノ證據タルヘキカヲ知ラシメ此點ニ付キ辯解ヲ爲サシメントスル旨趣ニ外ナラス

四三

一〇九二

○或文書ノ内容記載ヲ證據ト爲ス場合ニ於テハ必スシモ其文書自體ヲ被告人ノ面前ニ展開査閲セシムルコトヲ要セス當該官吏之ヲ朗讀シ其記載事項如何ヲ知ラシムルヲ以テ法定ノ手續ヲ履踐シタルモノトス

四四

一〇九二

(同主旨)

證據物タル證書ハ之ヲ被告ノ面前ニ提示シ被告ヲシテ自ら朗讀セシメサルモ書記ノ朗讀ニ依リ其記載事項如何ヲ知ラシムルハ足ルモノトス

四三

一〇九二

○領置ハ刑事訴訟法上差押ノ一種ナリトス從テ公判始末書ニ差押書類ヲ示シタルトアル以上ハ領置書面ヲモ示シタルモノト認メサルヲ得ス

四三

一〇九二

○登記簿ノ認證謄本ハ犯罪證明ノ具トシテ作成セラレタル場合ト雖モ特種ノ證明方法ニ屬シ人ノ供述ニ代ヘテ之ヲ錄取シ其效用ヲ爲サシムルモノニ非サルヲ以テ證據物件トシテ之ヲ被告ニ示セハ足ルモノトス

四三

一〇九二

○被告人カ法廷ニ於テ筆記シタル書面ヲ筆跡對照ノ資料ト爲ス場合ニハ特ニ辯解ヲ爲サシムル爲メ之ヲ被告人ニ開示シ又ハ讀聞クルコトヲ要セス

四三

一〇九二

○告訴狀ノ欄外ニ押捺シアル區裁判所檢事局ノ受付印ハ告訴狀ノ内容ヲ成スモノニ非サルヲ以テ之ヲ罪證ニ供セントセハ公廷ニ於テ該告訴狀若クハ右印影自體ヲ被告ニ示スカ否ラサレハ右印文ヲ讀聞ケ被告ヲシテ之カ辯解ヲ爲サシムルコトヲ要ス

四五

九二

○證人ノ筆記カ手蹟對照ノ資料ニ供センカ爲メ之ヲ徵シタルモノナルトキハ縱令同證人ノ訊問調書ニ添附セラレタル書類ナルモ證人ノ供述ヲ錄取シタル書面ニ非サルヲ以テ證據書類ニ非ス性質上一箇ノ證據物件ナリトス

二

八七四

○沒收スヘキ物ト雖モ之ヲ罪證ニ供セサル限ハ刑事訴訟法第九十八條第二項ニ所謂證據物件ト云フコトヲ得サルヲ以テ必スシモ之ヲ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムルノ要ナシ

三

五

○公判ニ於テ各證據取調濟ノ上利益ト爲ル證據ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ノ告知ニ基キ被告又ハ其辯護人ヨリ反證トシテ公廷ニ提出シタル物件ニ付テハ縱令裁判所カ提出者ト意見ヲ異ニシ之ヲ斷罪ノ資料ト爲ス場

合ト雖モ特ニ被告ニ示シテ其辯解ヲ聽クノ要ナキモノトス

三

三五四

○刑事訴訟法第二百四十一條第二項ノ規定ニ依リ受命判事ノ爲シタル一切ノ處分ハ之ヲ續行公判ノ辯論ニ現出セシムヘキコトヲ命シタル法文ナキヲ以テ裁判所カ其職權ニ因リ該報告書其他受命判事ノ取調ノ結果ヲ以テ被告ノ罪責ノ有無輕重ヲ判斷スルニ必要ナラスト認メタルトキハ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハサルモメトス

三

四五〇

○詐欺被告事件ニ付キ豫審判事カ便宜上作成シタル詐欺額調査表ハ其自體ニ於テ證據力ヲ具有スルモノニ非ス該文書ヲ被告人ニ示シ記載ノ内容ニ付キ其承認ヲ得ルニ因リ始メテ之ヲ證據ニ供シ得ヘキモノトス
○證據物件カ公判ニ顯出セラレタル以上ハ被告人其他訴訟關係人ニ於テ之ヲ實驗シ得ヘキ狀態ニ措カレタルモノナレハ該物件ノ特殊ナル徵候ヲ罪證ニ供スル場合ト雖モ特ニ其徵候ヲ指摘シ被告人ニ示ササレハトテ證據調ヲ爲シタルモノト謂フニ妨ナシ

三

二〇〇一

○押收文書ノ形狀筆蹟印影等ヲ罪證ニ供スルトキハ之ヲ被告ニ展示シテ辯解ヲ爲サシメサルヘカラス

三

二四二四

○證據調ニ於テ記名下ニ押印アルコトハ何某印ト讀下シ以テ之ヲ告示ス

ルコトヲ得ヘケレハ特ニ之ヲ被告ニ展示セサルモ該證據調ノ手續ハ違法ニ非ス

四

一一一

○印影ヲ證據ニ援用センニハ之ヲ被告ニ展示シ辯解ヲ爲サシメサルヘカラス

四

四九四

○親告罪ニ於ケル告訴ハ訴追條件タルニ止マリ犯罪構成事實ニ非サルカ故ニ裁判所カ親告罪ニ付キ告訴アリタル事實ヲ證明スルカ爲メニ告訴狀ヲ援用スルニ當リテハ必スシモ證據調ノ手續ヲ爲スノ要アルコトナシ

四

八七五

(同主旨)

告訴ヲ待テ論スヘキ罪ニ於テハ告訴ニ關スル書類ハ必スシモ之ヲ被告ニ讀聞ケ其意見ヲ聽クノ要ナキモノトス

四

二〇九

○受託判事ノ作成シタル證人訊問證書ヲ受訴裁判所ノ公判ニ於テ被告人ニ讀聞ケス又其意見辯解ヲ徵セスシテ結審シタルハ違法ナリ

四

二〇七三

○犯罪證明ノ具トシテ押收シタルモノハ縱令被告事件ニ密接ノ關係アル他事件ニ付キ作成セラレタル文書ト雖モ證據物件ニ外ナラサレハ其證據調ノ方法ハ之ヲ被告ニ示シ辯解ヲ求ムルヲ以テ足り特ニ朗讀ノ要ナキモノトス

五

二九〇

私訴判決ニ於テ公訴判決ノ證據理由ヲ援用スルハ不法ニ非ス

○商標主カ商標侵害ノ犯罪ヲ原因ト爲シ損害賠償ノ私訴ヲ提起シタル場合ニ裁判所カ被告ニ商標公報ノ公示ヲ知ラサル過失アリトシ損害ノ賠償ヲ命スルモ之ヲ以テ請求ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス

○公訴判決ノ認メタル犯罪事實カ私訴請求ノ原因タル以上ハ其事實ニ付テハ唯公訴判決ヲ援用スルノミヲ以テ足り私訴判決ニ於テ特ニ之ヲ確定スルノ要ナシ

○私訴ノ判決ニ必要ナル事實カ公訴判決ニ於テ既ニ確定セラレタル場合ニハ裁判所ハ原告人ノ立證ヲ竣タス其公訴事實ヲ以テ私訴判決ノ基本ト爲スコトヲ得

○私訴ヲ審理スルニ當リ特ニ關係人ニ讀聞ケ又ハ示ササル證據ト雖モ公訴審理ノ際適法ニ其取調ヲ爲シタルモノナル以上ハ直ニ之ヲ私訴判決ノ證據トシテ採用スルモ不法ニ非ス

(同主旨)

○公訴ノ審理ニ際シ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ規定ニ從ヒ既ニ證據調ノ手續ヲ踐ミタルモノハ私訴ノ審理ニ付キ別ニ證據調ヲ爲ササルモノ之ヲ私訴判決ノ證據ト爲シ得ヘキモノトス

三九	二六
三九	七二〇
四〇	七五〇
四〇	九八八
四三	四三二
三八	五一

○被害物件ノ轉得者ニ對シ其物件ノ返還ヲ求ムルト直ニ犯罪人ニ對シテ損害賠償ヲ要ムルトハ被害者ノ選擇ニ一任スヘキモノナルヲ以テ犯罪人ニ對シ損害賠償ヲ命スル判決ニハ轉得者ノ善意ナルヤ否ヲ說示スルノ要ナキモノトス

○殺害行爲ニ基ク損害賠償額ニ付テハ被害者ノ員數身分年齢相續人ノ身分加害者ノ不行爲ヲ爲スニ至リタル動機及ヒ其行爲ノ狀態等ヲ參酌シテ相當ト認メタル數額ヲ包括的ニ判示スルモ妨ナシ

○刑事訴訟法中公訴附帶ノ私訴判決ニ對シ假執行ノ宣言ヲ許容シタル規定ナキヲ以テ私訴判決ニハ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (同主旨)

刑事訴訟法中公訴附帶ノ私訴判決ニ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ許シタル規定ナク又該宣言ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ命シタル規定ナシ

○公訴ニ於テ法律上其效力ヲ是認セラルル證據ハ附帶私訴ニ於テモ亦等シク其效力ヲ有スルモノトス

○公訴事件ニ在テハ民事原告人ト雖モ參考人トシテ之ヲ訊問シ其供述ヲ證據ト爲スコトハ固ヨリ法律ノ認許スル所ナルヲ以テ該公訴ニ附帶セ私訴ノ判決ニ於テモ亦之ヲ證據トシテ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得

四三	二二五
四四	五六九
四五	一〇六七
四三	六三三
三	二四〇八

○私訴判決ニ於テ或書證ヲ事實認定ノ資料ニ供スルニハ其内容ヲ明示スルノ要ナシト雖モ其事實認定ノ資料ニ供シタル證據ノ如何ナルモノナリヤハ之ヲ特定のニ明示スルヲ要スルモノトス

(同主旨)

私訴判決ニ付テハ採用シタル證據ノ内容ヲ判文ニ明示スルヲ要セス
私訴ノ判決ニハ證據ノ内容ヲ明記スルコトヲ要セス

○私訴カ公訴事實ニ基因シテ刑事裁判所ニ提起セラレタル以上ハ公訴私訴ノ判決カ該事實ノ何レノ點ヲ以テ其基礎事實ト爲スモ是レ唯公訴事實ニ付キ其觀察ヲ異ニスルニ過キサレハ之カ爲メニ私訴判決ノ不法ヲ來スモノニ非ス

○私訴判決理由ノ判示方法ニ付キ刑事訴訟法中別段ノ規定ナケレハ第二審判決ニ於テ自ラ當事者ノ陳述ヲ記載スルニ代ヘテ第一審判決所掲當事者ノ陳述ヲ援用スルカ如キハ之ヲ有效ト認ムルヲ相當トス

(同主旨)

公訴ニ附帶スル私訴ハ其性質竝ニ刑事訴訟法ノ規定上反對ノ結果ヲ生セサル限リ民事訴訟ノ手續ニ依ルコトヲ妨ケス從テ控訴裁判所カ第一審判決ノ記載ヲ援用シテ當事者ノ事實ノ摘示ニ代ヘタルハ相當ナリ

○刑事附帶ノ私訴ニ在リテハ民事訴訟ト異ナリ裁判所ハ事實ノ真相ヲ知ル爲メニ必要アルトキハ當事者ノ提出シタル證據方法ニ制限セラルルコトナク自ラ進テ諸般ノ證據ヲ蒐集シ因テ以テ請求ノ當否ヲ判斷スヘキモノトス

(同主旨)

私訴ノ審判ニ付テハ民事訴訟法ニ則ルヲ要セス從テ相手方ニ於テ申立テサル證據ト雖モ之ヲ採用シテ判決ノ資料ニ供スルコトヲ得

公訴附帶ノ私訴ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從テ審理スヘキモノナレハ公訴ノ審判ト同シク裁判所ノ職權ヲ以テ諸般ノ證據ヲ示シ之ヲ採テ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得從テ必スシモ當事者ノ提出若クハ援用ヲ待ツノ要ナシ

(參照)

共犯ヨリ生シタル損害ハ職權ヲ以テ連帶ノ賠償ヲ命スルコトヲ得ス

『第二百一條』

○有罪ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴ノ理由アリタルト否トニ拘ハラヌ訴訟費用ハ其全部ヲ負擔セシム

○證人ノ旅費日當ハ其證言ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルト否トニ拘ハラヌ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告人ヲシテ裁判費用トシテ全部若クハ幾分ヲ負擔セシム

六	三三	三六	二四	二六	二九
一	五	一	一	二	一
二八	八〇	七四五	二〇	五九	一

三	四	三二	四一	五	四一
二四〇八	二〇三五	一七	四五三	一九九二	八九一
二二九七					

- 共犯人公判前ニ死亡シ公訴消滅シタルトキハ公訴裁判費用ハ生存者ニ於テ其全部ヲ負擔スヘキモノトス
- 裁判所自ラ爲シタル手續ノ不法ヨリ生シタル費用ハ之ヲ相手方ニ負擔セシムルコトヲ得ス
- 被告人數名アル場合ニ於テ公訴裁判費用ニ關シ其負擔ノ割合ヲ定ムルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス
- 第二審判決ノ一部ヲ破毀スル場合ニハ單ニ割合ヲ以テ分擔ヲ命シタル訴訟費用ハ大審院ニ於テ之ヲ分割スルコトヲ得ス
- 共犯事件ノ訴訟費用ヲ以テ共犯者中ノ一名ニ全部ノ負擔ヲ命スルモ不法ナリトセス
- 訴訟費用ノ幾部ヲ負擔セシムヘキ旨ノ言渡ナキ以上ハ其負擔ハ全部ナリトス
- 控訴セサル相被告ハ一審判決確定ト共ニ該判決ニ基キ當然一審ニ於テ生シタル裁判費用ヲ負擔ス故ニ二審判決カ一審ノ相被告ニ對シ裁判費用ノ負擔ヲ定メサルモ控訴被告ニ何等利害ヲ生スルコトナシ從テ控訴判決ニ於テ控訴被告ニ對シ公訴裁判費用全部ノ負擔ヲ言渡スモ不法ニ非ス

二九	一〇	六〇
三〇	八	一〇
三一	八	一五
三二	五	八四
三三	二	五一
三四	四	二九
三四	一〇	五

- 相被告ニ對スル事件名ヲ併記シタル呼出狀ニ依リ召喚シタル證人ノ費用ト雖モ其證人ノ審問ニシテ相被告ノ事件ニ關係ナカリシトキハ其費用ハ審問ヲ必要トセシ事件ノ被告ノミニ於テ負擔スヘキモノトス
- 相被告ト連帶負擔セシムヘキ裁判費用ナルモ相被告ニ其半額ノ負擔ヲ命シタル第一審判決ノ確定シタル場合ニ於テ他ノ被告ニ對シ他ノ半額ノ單獨負擔ヲ命シタル第二審判決ハ相當ナリ
- 公訴裁判費用ノ數額ハ民事ニ於ケルカ如ク費用額確定決定ヲ待テ之ヲ定ムヘキモノニ非スシテ訴訟記録ニ依リ自ラ明確ナレハ判決ニ之ヲ明示スルコトヲ要セス

(同主旨)

公訴裁判費用ノ負擔ヲ言渡スニハ其金額ヲ明示スルノ必要ナシ
 訴訟費用額ハ判決執行ニ至リ訴訟記録ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得從テ判決ニ於テ其額ヲ明示スルノ要ナシ

- 證人タル資格ナキ者ヲ證人トシテ訊問シタルトキト雖モ其訴訟費用ハ之ヲ有罪ト爲リタル被告人ニ負擔セシムルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

證人タル資格ナキ者ニ對シ證人トシテ宣誓ヲ爲サシムルモ其供述ハ罪證ニ供スルコトヲ得ス然レトモ其者ノ旅費自當ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告人チシテ全部若クハ幾分ノ負擔ヲ爲サ

三五	五	一五二
三六	六	三三
三九	九	四七
四〇	二〇	二〇
四一	四	二九
四二	六	六八一

○第二審裁判所ノ公判ニ付キ生シタル證人ノ旅費日當ニ關スル費用ハ即チ訴訟費用ナレハ縱令右判決カ上告ニ因リ破毀セラレ更ニ事件ヲ他ノ裁判所ニ移送シ第二審トシテ判決ヲ爲スニ至リタリトスルモ其性質ヲ變スル謂レナキヲ以テ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ヲシテ之ヲ負擔セシメ得ルモノトス

(同主旨)

控訴審ノ判決ハ上告審ノ破毀移送ニ因リ消滅スト雖モ適法ニ行ハレタル證據調ハ無効ニ歸スヘキモノニ非ス從テ有罪ノ判決ヲ受ケタル以上ハ該證據調ニ關シテ生シタル訴訟費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

○被告ノ爲メニ要シタル裁判費用ハ當該關係者ニ於テ之ヲ請求スル以上之ヲ支給シタルト否トニ拘ハラズ被告ノ負擔タルヘキモノトス

○同一被告人ニ對スル甲乙二事件カ相共ニ一箇ノ連續犯ヲ構成スル場合ニ於テハ縱令甲事件無罪ト爲ルモ他ノ構成部分タル乙事件ニ付キ有罪ノ判決アリタル以上ハ其甲事件ノ訊問ニ關シテ生シタル訴訟費用ヲモ被告ニ負擔セシムルヲ相當トス

(同主旨)

證據調ノ結果被告事件ノ一部無罪ト爲ルモ其證據調ニシテ有罪ト爲リシ部分ニモ關係ヲ有ス

○ル場合ニ於テハ被告人ニ其費用ノ全部ヲ負擔セシムルト一部ヲ負擔セシムルトハ事實承審官ノ職權ニ屬ス

被告事件カ一部無罪ト爲リ一部ハ有罪ト爲リタル場合ニ於テ訴訟費用ノ全部ヲ被告人ニ負擔セシムルト其一部ヲ負擔セシムルトハ裁判所カ事情ニ從ヒテ定メ得ヘキ所ナリトス
被告事件ノ一部分ニ對シ無罪ヲ言渡シタル場合ト雖モ有罪ヲ言渡シタル他ノ一部分ト共ニ一事件トシテ取調ヲ爲シタルモノナルトキハ被告人ヲシテ其裁判費用ノ全部ヲ負擔セシムルモ違法ニ非ス

○第一審タルト第二審タルトヲ問ハス裁判所ニ於テ數名ノ共同被告人ニ對スル辯論ヲ分離シ其中ノ一人ニ對シ先ツ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ公訴訴訟費用ノ負擔ヲ言渡スニハ其者ノ負擔スヘキ公訴訴訟費用ニ付テノミ言渡ヲ爲スヘキモノニシテ他ノ共同被告人ト連帶負擔スヘキコトノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

○訴訟費用ノ連帶負擔ヲ言渡サレタル者ハ一人ニテ全部ノ支拂ヲ爲スヘキ責務アリ又連帶ナル判示ナキニ於テハ單ニ一人ニテ全部ヲ負擔スヘキモノナルニ止マリ之カ爲メ其負擔ヲ輕減スルモノニ非サレハ連帶ノ判示ニ付キ違法アリトスルモ第二審判決ヲ破毀スルノ瑕疵トスルニ足ラス

○裁判所ノ執行シタル證據調ノ結果カ或ハ被告ノ利益ニ歸シ或ハ證據決

三	四	三	四
一〇一六	一〇一四	一〇一六	一〇一四
一〇一七	一〇一四	一〇一七	一〇一四
一〇一八	一〇一四	一〇一八	一〇一四

三	三	四	二	三	二	一	五
一九八〇	一七六〇	一四九五	九七四	一九八〇	一七六〇	一四九五	九七四

○定ノ目的ヲ達シ得サルカ如キコトアリトスルモ其費用ハ當該被告事件ノ審理ノ必要上生シタルモノナレハ刑事訴訟法第二百一條第一項ノ適用アルヘキモノトス

(同主旨)

裁判所カ必要ヲ認メテ施行シタル證據調ノ結果カ後日ニ違ヒ或ハ不必要ト認メラレ若クハ被告ノ利益ニ歸シタリトスルモ其證據調ニ因リ生シタル費用ハ被告事件ノ審理上必要ニ出テタルモノニ外ナラサルヲ以テ苟モ被告ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケタル以上ハ其全部ノ負擔ヲ命セラルルモ違法ト云フヲ得ス

○刑事訴訟法第二百一條第一項及ヒ刑法施行法第六十七條ハ共同被告人中ノ或者カ第一審ノ確定判決ニ因リ連帶負擔ヲ命セラレタル公訴訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ納付シタル場合ニ於テモ第二審ニ繫屬セル他ノ共同被告ニ對シテ其適用ヲ制限セラルヘキモノニ非ス

(同主旨)

刑事訴訟法第二百一條第一項及ヒ刑法施行法第六十七條ハ有罪ト爲リタル各被告人ニ對シ一様ニ之ヲ適用スヘキモノトス從テ共犯者中或者カ確定判決ニ依リ連帶負擔ヲ命セラレタル公訴訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ納付シタル爲メ判決未確定ノ共犯者ニ對シテ其適用ヲ制限セラルルコトナシ

○私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノニシ

テ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス(同一判例二八年二卷一三頁)

○公訴ノ被告人トシテ呼出ヲ受ケ裁判所ニ出頭スヘキ地位ニ在ル者ハ自ラ往復旅費ヲ支辨セサルヘカラス從テ其被告人ニ對シ私訴ヲ提起シタル者ハ縱令敗訴スルモ往復旅費ヲ賠償スルノ責ナシ

○裁判所カ私訴ニ付キ特ニ審問ヲ開始セル場合ニ於テ當事者在廷シタルトキハ敗訴者ハ勝訴者ニ對シ毎回ノ出廷ニ付キ私訴事件ニ要セシ日當トシテ法定ノ金額ヲ支拂フノ義務ヲ負フモノトス而シテ其審問ハ公訴ノ審理ニ引續キテ之ヲ開キタルヤ若クハ更ニ期日ヲ定メテ之ヲ開キタルヤハ問フ所ニ非ス

○被告人カ民事原告人ニ對シ期日ニ出廷シタルコトヲ主張シ之ヲ基礎トシテ賠償ノ請求ヲ爲ストキハ證據法ノ原則ニ從ヒ先ツ其事實ヲ疏明セサルヘカラス從テ裁判所ハ其事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキ憑據ナケレハ原告人ニ不利ナル事實ヲ認定シ得サルモノトス

○第二審ニ於テ第一審ノ判決作成ノ方式ニ缺點アリト爲シ之ヲ取消シタル場合ト雖モ其取消カ民事原告人ノ過失ニ基因セルモノニ非サルトキハ私訴ニ關スル費用ハ敗訴ノ被告ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス

二九	三	二
三七	二四五	
三七		
三八	三〇一	

四	一七五九
四	
六	六六四
四	二〇〇一
三	一六二七

(參照)

茲 甲乙ノ被告人アリ甲ハ有罪ニ決シ乙ハ無罪ニ決ス此場合ノ公訴費用ハ總テ甲ノ事件ニ對シ生シタルモノナレハ甲ニ於テ其全部ヲ負擔セサルヘカラス決シテ其一半ヲ國庫ニ於テ負擔スヘキモノニ非ス
重キ前發ノ罪ニ付キ既ニ刑ノ言渡ヲ受ケ居ルカ爲メ後發ノ餘罪ヲ論セサルニ過キサルトキハ刑事訴訟法第二百一條ニ所謂被告人有罪トナリタル場合ニ該當ス從テ公訴裁判費用負擔ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス
裁判所カ刑法附則ノ規定ニ依リ證人ニ支給スヘキ旅費日當額ヲ定メ實際之ヲ支給シタル以上ハ被告ニ對シ其費用ノ負擔ヲ命スルコトヲ得而シテ其支給費額ヲ定メタル手續若クハ之ヲ受領シタル手續ノ如キハ必スシモ記錄ニ於テ之ヲ明確ニスルノ要ナシ

第二百二條

『第二百二條』

- 沒收又ハ還付ノ言渡ハ現存セサル物件ニ對シ爲スヘキモノニ非ス
- 凡ソ拾得シタル物件ハ所有者ノ不詳ナル場合ニ在リテモ仍ホ且所有者ニ還付スルノ言渡ヲ爲スモ不法ニ非ス
- 假下ハ假ノ下付ニシテ保管ヲ命シタルモノナリ
- 手形ノ裏書ノ一部カ騙取ニ係ル場合ト雖モ手形其物ハ不可分のモノナルヲ以テ一通ノ手形ヲ分割シテ各自ニ還付スルカ如キハ執行上到底不能ノ事ナリトス從テ手形ノ裏書ノ部分ハ甲ニ其他ノ部分ハ乙ニ還付

三七	二七
三五	一
三六	三六
二六	三四
二元	五
三	一

スト言渡シタル判決ハ不法タルヲ免レス

- 沒收ニ係ラサル押收品アルトキハ裁判所ハ刑事訴訟法第二百二條ニ從ヒ還付ノ言渡ヲ爲スヘク司法警察官ノ爲シタル假還付處分ノ有無ニ拘ハルヘキモノニ非ス
- 裁判所カ被告事件ニ關シ押收物件ナキニ拘ハラズ還付ノ言渡ヲ爲シタル場合ト雖モ被告ノ利害ニ何等ノ關係ナケレハ被告ハ之ヲ以テ止告ノ理由トスルヲ得ス

- 第一審裁判所カ甲乙二名ノ共同被告ニ對シ甲者闕席ノ儘有罪ノ判決ヲ下シ同時ニ押收品ヲ還付スルノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ乙者上訴セサルトキハ押收品還付ノ裁判ハ同人ニ關シテ確定スルモノトス從テ甲者ニ對スル第一審ノ對席判決及ヒ第二審判決ニ於テハ更ニ還付ノ裁判ヲ掲クルノ要ナシ

- 事實裁判所カ被告事件ノ證據物トシテ領置シタル民事訴訟記錄ハ之ヲ押收ノ證據書類若クハ物件ト稱スルモ不當ニ非ス
- 刑事裁判所カ其裁判所ニ繫屬スル被告事件ニ付キ也事件ヲ訴訟記錄ヲ取寄セ之ヲ斷罪ノ證ニ供スル場合ニ被告事件ノ審理終結シテ本案ノ裁判ヲ爲ストキハ縱令取寄書類カ該裁判所ノ保管ニ係ル場合ト雖モ公訴

刑事訴訟法 公判 通則

三三	一三五
三六	六五五
三元	七九
三元	一一三
三元	一九九

裁判所自ラ保管スルモノニ非サル限ハ其記録ニ付キ還付ノ言渡ヲ爲ス
ヲ以テ相當トス

○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ所有權者ノミナラス占有者ヲ
モ包含セルモノトス

(同主旨)

刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者ニハ正當ノ占有者ヲモ包含ス

刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ物件ノ所有者ノミナラス其差出人ヲモ指シタルモノ
トス

刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ汎ク押收物件ノ所持者ヲ指稱スルモノニシテ眞ノ所
有者ノミニ限定シタル法意ニ非ス從テ沒收ニ係ラサル押收品ニ付キ差出人ニ還付スト判決シ
タルハ相當ナリ

刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ所有權者及ヒ占有者ヲ指示セルモノトス從テ發信人
受取人等不明ナル郵便物信書等ノ押收品ニ付キ之ヲ所有者ニ還付スト判決シタルハ相當ナリ

○強迫ニ因ル意思表示ハ全然意思ノ自由ヲ喪失セサル限ハ單ニ之ヲ取消
シ得ヘキニ止マリ當然無効ニ非サルヲ以テ被強迫者カ取消ノ意思表示
ヲ爲ササル以上ハ恐喝ニ因テ得タル證書ト雖モ被告人ニ還付ノ言渡ヲ
爲スヘキモノトス

(同主旨)

○人ヲ恐喝シテ金圓ノ贈與ヲ受ケタル者カ其占有中之ヲ押收セラレタル場合ト雖モ被害者ニ於
テ贈與ノ意思表示ヲ取消ササル以上ハ該金圓ハ差出人タル被告人ニ還付スヘキモノトス

○押收物件ノ處分ニ關スル言渡ハ必スシモ本裁判決ノ言渡ト同時ニ之ヲ
爲スヲ要セサルモノトス

(同主旨)

沒收ニ係ラサル物品ノ處分ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ公訴ノ裁判ト同時ニ言渡ス限ニ在ラス
且其所有者ハ何時ニテモ還付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

沒收ニ係ラサル物件ハ何時ニテモ本人ヨリ還付ノ請求ヲ爲シ得ルモノニ付キ本案ト共ニ還付
ノ言渡ヲ爲ササルモ違法ニ非ス而シテ還付ノ言渡ハ法條ヲ適用セサルモ上告ノ理由ト爲ラス

差押物件ヲ還付スルノ言渡ハ刑罰ニ非サルヲ以テ刑名宣告ト共ニ之ヲ爲ササルモ違法ニ非ス
物件還付ノ言渡ハ必スシモ本案ノ判決ト同時ナルヲ要セス

○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂差押物中ニハ被告事件ノ證據物トシテ領
置シタル物品ヲモ包含スルモノトス

(參照)

司法警察官カ被告ノ手裡ニ存在セル贓物ヲ押收シ假ニ之ヲ被害者ニ下付シタルトキハ裁判所
ハ刑法第四十八條ノ規定ヲ適用シ現在ノ贓品トシテ假下ノ僞被害者ニ還付スル旨ヲ言渡ササ
ルヘカラ、從テ此場合ニ刑事訴訟法第二百二條ヲ適用シタルハ違法ナリ

犯罪ノ用ニ供セラレタル物件ニシテ被告人ノ所有ニ係ルモノト雖モ被害者ニ於テ留置權ヲ有
スル以上ハ該物件ハ之ヲ被害者ニ還付スヘキモノトス
人ヲ誣告スルノ方法トシテ検事局ニ提出セル告發狀ハ犯罪供用ノ物件ニ非サルノミナラス同

三九	二	二四	二四	二七	二六	三	三九
一三六九	一〇一六	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七

四	四〇	三六	三九	四〇	四〇	四〇	四〇
三三四	六五五	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一

- 時ニ債權者ニ歸スヘキモノトス而シテ仍ホ其所有權ノ債務者ニ存スルコトヲ認メシニハ相當ノ理由ヲ付スルヲ要ス
- 初更トハ十二支ノ成ノ時ヲ云フ
- 其謀ノ事實ヲ判示シタル以上ハ其手續ニ及フヲ要セス
- 繼續犯ノ時効ハ最終ノ日ヲ以テ起算點トス從テ其日時ヲ判示スルヲ以テ足ル
- 物品ノ假下ハ犯罪事件ニ對スル贓物ノ假處分ナリ而シテ此等ノ事實ハ判文ニ明記スルヲ要セス
- 豫審終結決定以後ニ於テ豫審判事ノ作成シタル調書ハ豫審終結ニ關係アル調書ト認ムルヲ得ス從テ斷罪ノ資料トシテ表示シタル豫審調書トハ其決定以前ニ係ル部分ヲ指シタルモノトス
- 第二審廷ニ於テ第一審判決ノ刑ヨリ重ク處斷スルコトアルモ其一審ノ刑輕キニ失シタリトノ理由ハ之ヲ明示スルヲ要セス
- 沒收ノ刑ヲ宣告スルニ當リ符號ヲ用ヒテ物體ノ明示ヲ缺如スルモ押收目錄ニ依リ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニ在リテハ之ヲ以テ沒收ノ物體ヲ明示セサルモノトスルヲ得ス
- 犯罪ノ手段方法ハ犯罪成立ノ要素ニ非スシテ事實認定ノ理由タルニ過

二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四

キス

- 被告人ノ第一審判決ニ服從セサル所以ノ理由ハ之ヲ第二審判決ニ表彰スルヲ要セス
- 判決理由ノ理由ハ之ヲ判文ニ表明スルノ要ナシ
- 判決書ニ「被告人ハ禁錮監視ノ刑ニ處セラレタルニ拘ハラス仍ホ改心セス」ト掲ケタルハ前科ヲ示シタル意義ニシテ被告人ノ品行ヲ材料トシテ有罪ヲ推測シタル語辭ニ非ス
- 移民保護法違反事件ニ付キ移民株式會社ノ社長ヲ處罰スルニ當リ其社長ノ資格ハ業務擔當社員ニ相當スルヤ又ハ取締役ニ相當スルヤ否ノ事實ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ
- 沒收ノ言渡ハ物件ヲ主眼トス
- 實體上證明ノ效力ナキモノヲ以テ形式上證據トシテ列記スルハ適法ノ處措ニ非ス
- 登記取消申請ノ訴訟ニ付キ登記ノ無効ナル旨ヲ判示シタル以上ハ契約ノ效力ニ對シ別ニ理由ヲ説明スルノ必要ナシ
- 刑事ノ判決ニハ原被雙方ノ主張抗辯及ヒ立證方法ヲ表示スルヲ要セス

二九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四

ハ不法ナリ

- 豫審調書ノ意味ヲ解釋スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ判文ニ其解釋シタル理由ヲ付スルヲ要セス
- 鑑定書ニ負傷事實ノ記載アルコトハ自ラ明カナレハ判決書ニ鑑_ル書ヲ援用スルヲ以テ足ルモノニシテ鑑定書記載事項ヲ重記スルヲ要スルモノニ非ス
- 證人ナルヤ將タ參考人ナルヤハ記録ニ依テ自ラ明カナレハ之ヲ判文ニ詳記セサルモ不法ニ非ス

(同旨)

- 判文ニ證人參考人等ノ名稱ヲ記載セサルモ各自ノ豫審調書ニ徴スレハ其區別分明ナルニ依リ之ヲ判示セサルモ違法ニ非ス
- 判決書證憑列記ノ部ニ單ニ某某ノ豫審調書トノミ記載シ證人參考人ノ區別ヲ掲ケサルハ證據ノ明示ヲ欠キタル不法ノ判決ニ非ス
- 證人參考人ノ資格ハ訴訟記録ニ徴シテ明白ナレハ之ヲ判決文ニ明示セサルモ違法ニ非ス
- 被告ノ自白シタル事項カ豫審調書告訴狀ノ旨趣ニ符合スルトキハ其調書告訴狀ノ記載事項ヲ一一摘示セサルモ其記載事項ハ自ラ明瞭ナルヲ以テ證據理由ノ明示ニ欠クル所ナシトス
- 法條掲記ノ位置其當ヲ得サルモ法律ノ適用ヲ誤リタルニ非サル以上ハ

三	二六	二六	三	三	三二	三
九	五二	二	八	六	六	六
一	五五	一〇〇	三三	七九	六五	三〇
		三六〇				

破毀ノ原由ト爲ラス

- 判決ニ犯罪ノ事實ヲ自白スト掲クルトキハ別ニ自白ノ旨趣ヲ掲ケサルモ不法ニ非ス
- 過怠破産ノ決定ニ依リ犯罪ノ當時商人タリシコト確定シタル以上ハ該決定ニ基キ商人ナリトシテ判決スルハ不法ニ非ス
- 年齢ハ罪トナルヘキ事實ニ非ス從テ之ヲ認定シタル證憑ヲ明示スルノ必要ナシ
- 他事件ノ鑑定書ト雖モ事實承審官ニ於テ證據ト爲スニ足ルモノト認ムルトキハ他事件ノ鑑定書ナルコトヲ明示シテ證據ニ供スルコトヲ得
- 證據ノ内容ヲ畧記スル場合ニ在リテハ少クトモ判文上如何ナル認定ヲ其證據ニ依リ爲シタルモノナルカヲ明示スルヲ要ス
- 事蹟ナシトノ判定ヲ爲スハ其事蹟ノ見ルヘキ證據ナキニ因ル而シテ證據ナシトノ説明ハ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス
- 刑ノ言渡ヲ爲スニ當リ證據ニ依リテ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示スルハ其事實カ證據ヲ待テ始メテ明カナルヘキ場合トス從テ證據ヲ待タスシテ當然明カナル公知ノ事實又ハ事件ノ關係上毫末ノ疑ヲ存セスシテ審理ヲ經過シタル事項ニ付テハ特ニ其明示ヲ要セス

三	三	三	三	三	三	三
九	四	三	二	一〇	七	六
一	七	二六	四	一九	一八	三

○判文上收賄ノ金員現存ノ事實ヲ認メスシテ單ニ追徴ヲ言渡シアル以上ハ被告カ既ニ該金員ヲ費用セシコト自ラ明カナリトス從テ特ニ費用ノ事實ヲ示スノ要ナシ

○刑事訴訟法第二百三條ハ證據ニ依リテ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示スヘキモノニシテ其證據タル所以ヲ證據ニ依リテ説明スルノ意義ニ非ス

○「チーバー」ト稱スル賭博開張ノ所爲アリト判示シ「チーバー」ノ何タルヤヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

○一審判決ニ誤記アルコトヲ判示スルニ當リ其理由ハ之ヲ明示スルヲ要セス

○合併審理ノ結果同時ニ數事件ヲ判決スル場合ニ其判文ヲ彼此引用シ再掲ノ煩ヲ避クルモノ二者相待テ犯罪ノ事實明確ナルトキハ事實理由ノ明示ヲ欠キタルモノニ非ス

○損害賠償請求ノ私訴ヲ受ケタル被告人カ其賠償ノ金額ニ付キ毫モ之ヲ争ヒタル形蹟ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ證據ニ依リテ之ヲ相當ト認メタル理由ヲ説明セサルモ不當ニ非ス

○器物等ヲ毀壞シタル被告事件ニ付キ何人カ如何ナルモノヲ毀壞シタル

三四	九
三四	二
三五	二
三五	二
三五	二
三五	三
三五	八
三五	九

カノ事實ヲ説明セスシテ共謀ヲ以テ論斷シタル裁判ハ不法ナリ

○酒造税法第三十一條ハ刑ノ併科ヲ規定シタル法條ナリトス從テ併科スヘキ案件ニ同條ヲ適用セサルトキハ法律ノ明示ヲ欠ク不法アリ

○私訴判決ニ在リテハ必スシモ法律ノ條文ヲ明示スルヲ要セス從テ其責任ノ有無ニ付キ相當ノ理由ヲ説明スルヲ以テ足ルモノトス

○他人ヨリ委託セラレタル契約證書ヲ横領シ委託物ヲ費消シタリトノ案件ニ於テ判文ニ證書横領ノ事實ノミヲ說示シ其證書ノ内容ヲ明示セサルトキハ該證書カ果シテ其犯罪ノ物體ト爲リ得ヘキモノナリヤ否ヤヲ確認スルヲ得ス從テ該判決ハ事實理由ニ不備アルモノトス

○他人ノ特許ヲ得タル物品ヲ製造販賣シ特許權ヲ侵害シタル場合ニ於テハ反證ナキ限ハ製造販賣人ニ過失ノ責アリト推定スヘキモノトス從テ其過失ノ責任アリヤ否ヤノ事實ヲ確定スルニ當リ單ニ過失ノ認ムヘキモノナシト判示シ其理由ヲ判示セサル判決ハ理由不備ナリトス

○詐欺取財ノ事實ヲ認定スルニ當リ既ニ時効ニ罹リタル偽造證書行使ノ事實ヲ認メタルモ其偽造證書行使ノ點ニ對シ法律ヲ適用シタルニ非サル以上ハ不法ニ非ス

○衆議院議員候補者ノ爲メ投票ヲ得ルノ周旋方ヲ依囑シ運動費トシテ金

三五	五
三五	五
三五	九
三五	九
三五	九
三五	一〇
三五	一〇
三六	七

○ 錢ヲ供與シタル事實アルモ其金員ニシテ實際運動ノ爲メ要スル費用ヲ支拂フモノナリトセハ犯罪ヲ構成セス之ニ反シテ運動費ノ名稱ヲ以テ運動行爲ノ報酬トシテ授受シタルモノトセハ衆議院議員選舉法第八十七條ニ該當ス從テ此點ヲ説明セスシテ同法條ヲ適用シタル判決ハ理由不備ナリトス

○ 前科ハ刑事訴訟法第二百三條ノ所謂罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要セス

○ 第二審裁判所カ豫審調書又ハ第一審公判始末書ノ證人ノ供述ヲ證據トシテ援用スル場合ニ於テハ其供述ヲ錄取シタル豫審調書又ハ公判始末書ヲ證據トスル旨ヲ判示スヘキモノナルモ直接ニ其證人ノ供述ヲ證據トスル旨ヲ判示スルモ敢テ違法ニ非ス

○ 數人共犯ノ場合ニ在テハ其一人ノ行爲ニ對シ證據ヲ舉示スルハ即チ他ノ共犯者ニ對スル證據ヲ舉示スルモノナリトス從テ他ノ共犯者ニ對シ特ニ證據ヲ舉示セサルモ不法ニ非ス

○ 受訴裁判所ハ常ニ必スシモ其訴訟ニ於テ當事者間ニ爭ト爲リタル總テノ點ニ對シテ判斷ヲ爲スノ職責ヲ有スルモノニ非ス從テ其事件ノ判決ニ必要ナラサル爭點ニ對シ一判斷ヲ爲スノ要ナシ

三六	三六	三六	三六	三六
七五九	六〇三	四五六	三三二	二二七

○ 或職務ノ官職又ハ公職ナルヤ否ヤハ事實裁判所ノ認定ヲ竣テ確定スヘキ事實問題ニ非スシテ國ノ行政組織上自ラ定マルヘキ法律上ノ問題ナリトス從テ裁判所カ犯人ノ官公吏タル資格ヲ明示シタル以上ハ如何ナル理由ニ基キテ其職務ヲ官職又ハ公職ト認メタルヤハ之ヲ明示スルノ必要ナシ

○ 被告カ警察署ニ不實ノ告訴狀ヲ差出シタル旨判示セル以上ハ特ニ其告訴狀ヲ受理シタル司法警察官ノ何人ナリシヤヲ説明セサルモ理由不備ノ違法アリト謂フヲ得ス

○ 衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ハ選舉ニ關シ金錢物品等ノ供與ヲ受ケタル者カ選舉人又ハ選舉運動者ナル場合ニ限り之ヲ處罰スルモノトス故ニ供與ヲ受ケタル者ノ資格如何ハ犯罪構成ノ一要素ナルヲ以テ判決ニ其事實ヲ明示セサルヘカラス

○ 第一審判決ニ認定セラレタル事實ハ毫モ相違ナキ旨ノ自白ハ單獨ニテ何等ノ證明力ヲ有スルモノニ非ス故ニ控訴裁判所カ之ヲ證據トシテ事實ヲ認定スルニハ第一審判決ニ認定セラレタル事實ノ何タルヤヲ明示セサルヘカラス

○ 損害賠償ノ訴ニ關シテハ損害ノ發生及ヒ其程度ハ證據ニ依リ之ヲ確定

三七	三七	三七	三六
二五七	一八五	五一	一四九五

スルコトヲ要スト雖モ被害者ニ給付スヘキ數額ノ多少即チ評價ノ點ノ
ミニ付テハ裁判所ノ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ評定シ得ヘキモノトス
○戶籍ハ身分上ノ關係ヲ公示スヘキ公簿ナリトス故ニ裁判所ニ於テ之ニ
反スル認定ヲ爲スニハ相當ノ理由ヲ明示セサルヘカラス

三七 八七六

○刑事訴訟法第二百三條ニ所謂證據ニ依リテ罪トナルヘキ事實ヲ認メタ
ル理由ヲ明示スヘシトノ規定ハ必スシモ證據書類ノ文詞ノ全部又ハ一
部ノ記載ヲ要スルノ法意ニ非ス從テ裁判所カ證據ニ付キ解釋シ得タル
旨趣ヲ揭ケ之ニ依リテ犯罪事實ヲ認定シタル所以ヲ明カニスルモ同條
ノ法意ニ背反スル所ナシ

三七 一九七七

○移民保護法違犯事件ニ於テ被告ノ渡航地ノ北米合衆國ナルコトヲ判文
ニ明示シタル以上ハ同國中何レノ地ナルヤヲ詳示セサルモ不法ニ非ス
○免許ヲ受ケスシテ製造シタル酒精ノ數量明確ナラサルカ爲メ法定ノ最
低額ノ罰金ニ處スヘキ場合ニハ其酒精分ノ多寡ハ罰金ノ數額ニ何等ノ
影響ヲ及ボササルヲ以テ特ニ之ヲ判示スルノ要ナシ

三七 二二六一

○被告カ往來妨害ノ行爲ニ著手シタルモ他人ノ詰責ニ遇ヒ其犯行ヲ遂ケ
サリシコトヲ明示シタル以上ハ其詰責カ犯行ヲ續行シ能ハサラシムヘ
キモノナルコトヲ詳示セサルモ理由不備ト云フヲ得ス

三七 二二九五

○移民取扱人タル許可ヲ受ケスシテ他人ノ渡航周旋ノ依頼ニ應ジ若干ノ
報酬ヲ得テ目的地ニ密航セシムヘキコトヲ承諾シ船員手帖ノ下付ヲ受
ケ各外國汽船ニ乗込マシムヘキ手續ヲ爲シタルコトヲ判示セル以上ハ
移民保護法第二十三條ニ所謂移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル事實理由ニ
不備アリト云フヲ得ス

三六 一一三〇

○犯罪ノ場所ハ其犯罪ニ適用スヘキ法律ヲ定ムルノ標準ト爲ルト同時ニ
其犯罪ノ裁判管轄ヲ定ムルノ作用ヲ爲スモノナレハ犯罪事實ノ摘示ニ
於テ全然場所ニ關スル記載ヲ缺如シタル判決ハ理由不備ノ違法アルモ
ノトス

三六 二二五

○裁判所カ有罪ノ心證ヲ採リタル根據ヲ判文ニ掲ケタル以上ハ犯罪ノ手
段ニ過キサル事實ニ付キ特ニ之ヲ認メタル證據理由ヲ明示セサルモ違
法ニ非ス

三六 二八九

○邸トハ家屋其他建造物ノ存スル構内ノ土地ヲ云フ從テ邸内ナル文字ハ
建造物内ナル文字ト同義ニ解スルコトヲ得ス

三六 四四二

○請求ノ目的物ニ付キ第三者ノ生シタルコトノミヲ説明シ其第三者ノ所
有者ナルヤ將タ抵當權者ナルヤヲ明確ニ説明セサル判決ハ不法ナリ
○檢事カ一罪ヲ構成スル數箇ノ所爲ヲ分割シ數箇ノ犯罪アリトシテ公訴

三六 一三九九

ヲ提起シタル場合又一ノ犯罪ト其結果トシテ別罪ヲ構成セサル犯人ノ所爲トヲ指摘シ數箇ノ犯罪アリトシテ起訴ヲ爲シタル場合ト雖モ公訴裁判所ハ其現ニ認メタル犯罪行爲ヲ基本トシ一ノ判決ヲ以テ刑ヲ言渡セハ足ルモノニシテ各箇ノ所爲ニ付キ別別ニ判決ヲ爲シ且之ニ理由ヲ付スルノ必要ナキモノトス

三元

一六一

○村役場カ印鑑ヲ保管シ且村長之ヲ證明スルコトノ慣例ニシテ一般ニ認メラレタル以上ハ裁判所ハ其慣例ノ存在ヲ判決ニ明示スルノ要ナシ

三元

四九三

○明治三十七年勅令第七十七號同三十八年法律第六十六號第一條ハ執レモ偽造變造物體ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シタル事實ヲ犯罪構成ノ一要素ト爲スカ故ニ其第四條ヲ以テ處斷スル場合ニ於テモ亦被告ノ目的ハ偽造變造物體ヲ流通セシムルニ在リシコトヲ認定セサルヘカラス

三元

五四九

○或文書カ町村役場備付ノ公文書ナルヤ否ヤハ法律上ノ問題ナリトス故ニ事實裁判所カ或文書ヲ以テ公文書ナリト認メタル場合ニハ其證據上ノ理由ヲ説示スルノ必要ナシ

三元

八八八

○從犯ハ正犯ノ管轄裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナレハ正犯行爲ノ行ハレタル場所ヲ判示スルニ於テハ別ニ從犯行爲ノ場所ヲ示スノ要ナシ

三元

一一五九

(同法旨)

正犯ノ實行シタル場所ヲ判示シタル以上ハ從犯ノ器具ヲ給與シタル場所ヲ判示スルノ要ナシ

三元

八

○日本勸業銀行以外ノ銀行カ割増金附債券ヲ發行シ得ルヤ否ヤハ犯罪構成ノ要件タル事實ニ非サレハ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ依リ法令ヲ指示シテ之ヲ斷定スルノ要ナキモノトス

三元

一一八六

○犯人カ被害者ヲ威嚇シ金圓ヲ交付セシメタル事件ニ付キ其威嚇ニ係ル危害切迫セルモノト認ムル場合ニ於テハ犯人ノ用キタル手段カ其性質上被害者ノ意思ノ自由ヲ束縛スヘキモノナルヤ將タ單ニ之ヲ畏怖セシムヘキモノタルニ止マルヤノ事實關係ハ判文上具體的ニ之ヲ明示セサルヘカラス

四〇

三七〇

○他事件ニ屬スル參考人豫審調書ヲ援用スルニ當リ單ニ參考人某ノ豫審調書ト掲ケ恰モ直接ニ當該事件ノ參考人トシテ訊問シタル調書ナルカ如ク記載シタル判決ハ不當ナリ

四〇

八四〇

○數人共謀シ金圓ヲ騙取センカ爲メニ偽造證書ヲ行使シタル事件ニ付キ裁判所カ共謀者中ノ行使者ヲ誤認シ又ハ行使者ノ或者ニ對シテ其行使ニ關スル證據説明ヲ缺如スルモ之ヲ以テ理由不備ノ違法アリト云フヲ得ス

四〇

一一九四

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第二號ニハ選舉ニ關シ酒食遊覽等其方法及ヒ名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シタル者トノミアリテ饗應接待ヲ受ケタル人ノ誰ナルヤハ饗應者ノ罪トナルヘキ事實ニ何等ノ影響ヲ及ホササルヲ以テ其氏名ヲ一一判文ニ明示セサルモ不法ニ非ス

○刑法第二百三十六條ノ犯罪ニ付キ被告カ村會議員選舉掛ナルコトヲ判示シテ其職務如何ヲ明カニシタル以上ハ特ニ調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スルノ任ニ在リシ者ナルコトヲ説示セサルモ不法ニ非ス

○事實裁判所カ不法行爲ヲ爲シタル加害者ニ對シ損害ノ賠償ヲ命スルニ當リ加害者ノ行爲ト損害トノ間ニ因果ノ關係アルコトヲ證據ニ依リテ説明シタル以上ハ其損害ノ數額ニ付キ特ニ證據ヲ舉示セサルモ違法ニ非ス

(反對)

財産權ニ對スル損害ノ事實ヲ確定スルニハ損害ノ原因タル事實ノミナラス損害ノ數額ヲモ明シセサルヘカラス從テ其數額ヲ認メタル理由ヲ證據ニ因テ説示セサル判決ハ不法ナリ
財産權侵害ノ損害賠償ヲ求ムル私訴ニ對シ判決ヲ下スニ當リテハ損害ノ存在及ヒ賠償義務ノ外其要求セル賠償額ノ當否ヲモ證據ニ依リテ認定シ其證據ヲ掲ケテ理由ヲ明示スヘキモノトス

四〇	一三七
四	三三
四二	六九
三六	一五一
三七	一〇五

○裁判所カ或事項ニ付キ法律上ノ判斷ヲ爲スニ當リ其論據ヲ強固ナラシムル爲メ他ノ法令及ヒ訓令等ヲ引説スルハ其職權ニ屬シ何等ノ證據ヲ要スルモノニ非ス

○證據ヲ調査判斷シテ其旨趣ヲ判決ニ摘示スルハ事實裁判所ノ職務ニ屬スルヲ以テ其手續ハ適法且誠實ニ之ヲ履行シタルモノト推定セサルヘカラス從テ控訴裁判所カ其採用シタル證據物件ヲ記録ニ添へ上告裁判所ニ送付セサリシ故ヲ以テ直ニ虛無又ハ不法ノ證據ニ基キ判決ヲ爲シタルモノト斷定スルヲ得ス

○刑事訴訟法中被告ノ辯疏ヲ排斥スルニハ證據ニ依リ其理由ヲ明示スヘキ旨ノ規定ナケレハ苟モ犯罪事實ニ對スル證據ノ明示及ヒ其取調手續ニシテ適法ナル以上ハ縱令被告ノ辯疏ヲ排斥セル證據ノ明示又ハ其取調手續ニ不備ノ點アリトスルモ之ヲ以テ該判決ノ瑕瑾ト爲スヲ得ス

(同主旨)

刑事訴訟法ニハ被告ノ抗辯及ヒ其抗辯ニ關スル證據ヲ排斥スルノ理由ヲ明示スヘシトノ規定ナシ

○偽造文書ハ其性質上何人ニ對シテモ之カ所有ヲ許容セサルモノトス從テ裁判所カ該文書ヲ沒收スルニ當リテハ其犯人以外ノ者ノ所有ニ屬セ

四二	六三一
四	六五三
四	一〇九六
三二	八四
六	

○贓物寄藏罪ヲ處斷スル場合ニ於テ被告カ贓物ナルコトヲ知リ乍ラ之ヲ受取り自宅ニ寄藏シタル旨ヲ判示シタル以上ハ特ニ贓物ヲ藏匿シテ其返還ヲ困難ナラシメタルコトヲ說示スルノ要ナシ

○刑事訴訟法第二百三條第一項ニ「法律ヲ適用シ其理由ヲ付スヘシ」トアルハ罪トナルヘキ事實ニ對シ刑罰法ノ正條ヲ適用シタル理由ヲ示スノ謂ニシテ其之ヲ示スニハ判示ノ犯罪事實ヲ處罰スルニ付キ適用スヘキ正條ヲ掲クレハ足ルモノトス

○刑法第八十六條ハ舊刑法第二百六十一條ノ如ク現ニ賭博ヲ行ヒタルコトヲ以テ犯罪成立ノ要件ト爲ササルカ故ニ賭博罪ヲ斷スルニ付キ其現行犯ナルヤ否ヤヲ判示セサルモ不法ニ非ス

○偽證罪ヲ斷スルニ當リ證人ノ爲シタル陳述カ虛偽ナル事實ヲ認メ其理由ヲ說示シタル以上ハ證人トシテ當然陳述スヘキ眞實ノ事實ヲ判示セサルモ違法ニ非ス

○裁判所カ判決理由中ニ於テ主文ノ刑期ヲ量定シタル以上ハ特ニ之ヲ明示セサルモ不法ニ非ス

○裁判所カ人夫賃金表ヲ採テ證據ニ供スルニ當リ單ニ賃金表トノミ掲記シ其内容如何ヲ明示セサルハ不法ナリ

四二	九二
四三	一一七
四四	一一八
四五	一一九
四六	一二〇
四七	一二一
四八	一二二
四九	一二三
五〇	一二四

○公判裁判所カ甲乙二箇ノ被告事件ヲ併合審理シタル場合ニ於テ甲號事件ノ犯罪事實ヲ認定スル證據トシテ乙號事件ノ證人豫審調書ヲ援用スルニハ單ニ證人某ノ豫審調書ト掲クルヲ以テ足り必スシモ其別事件ニ付キ作成セラレタル調書ナルコトヲ明示スルノ要ナシ

○控訴裁判所カ控訴ヲ理由ナシトシテ之ヲ棄却シ又ハ控訴ヲ理由アリトシテ原判決ヲ取消シ更ニ裁判ヲ爲スニ當リ其準據シタル法條ヲ明示セサルモ違法ニ非ス

○前科ノ執行ヲ終リタルコトハ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ニ非サレハ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルノ要ナシ

○牽聯シタル文書偽造ノ行爲カ數箇併發スル場合ニ於テ其間ニ手段結果ノ關係アルヤ否ヤハ併合罪ノ規定ヲ適用スルト否トニ關スル重要ノ事項ナレハ判決ニハ其關係ノ有無ヲ知ルニ足ルヘキ程度ニ於テ事實理由ヲ明示セサルヘカラス

○裁判所カ被告人ニ對シ累犯ノ適用ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ前發刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日時ハ勿論其前科アル事實ヲモ判示スルノ要ナキモノトス

○刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル數罪トニ付キ同時

四二	一五九
四三	一六〇
四四	一六一
四五	一六二
四六	一六三
四七	一六四
四八	一六五
四九	一六六
五〇	一六七

○裁判ヲ爲スニ當リ其施行前ノ犯罪ニ舊刑法ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ縱シヤ同犯罪ト刑法施行後ノ數罪トニ付キ刑法ノ併合罪ニ關スル規定ヲ準用シ重キ後者中ノ一罪ニ從ヒテ處斷スヘキトキト雖モ前者ニ關スル禁制品ニ付テハ舊刑法ノ適用上之ヲ沒收スヘキモノニ屬スル理由ヲ判示セサルヘカラス

○賄賂收受罪ヲ斷スルニ當リ收賄金カ被告ノ手裡ニ現存セサル事實ニ依據シ被告ニ於テ之ヲ費消シタルモノト判定スルハ不法ニ非ス

(反對)

被告ニ於テ撞ニ受領シタル金錢カ其手裡ニ現存セルコト若クハ他ニ之ヲ使出シタルコトノ確證ナキト被告カ豫審中逃走シ居リタル事トニ因リテ該金錢費消ノ事實ヲ認定シタル判決ハ不法ナリ

○罪ノ未遂ニ關スル事實ハ刑事訴訟法第二百三條ノ所謂罪トナルヘキ事實ニ非サレハ判決ニ證據ヲ舉ケテ之ヲ認メタル理由ヲ説明スルノ要ナシ

(同意)

犯人カ意外ノ障礙ニ因リテ目的ヲ達セザリシ事實ハ罪トナルヘキ事實ニ非サレハ之ニ對シテ一證據ヲ明示スルノ要ナシ

犯罪ノ未遂ニ關スル事實ハ刑事訴訟法第二百三條ノ所謂罪トナルヘキ事實ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ裁判所ハ證據ニ依リテ之ヲ認ムルノ要ナシ

○酒造税法違犯事件ニ付キ被告人カ酒精分二十度以下ノ濁酒若干石ヲ釀造シ他ヨリ移入シタル如ク裝ヒ之ヲ他人ニ販賣シ其査定ヲ免レタルコトヲ判示スルニ於テハ理由不備ノ不法アリト云フヲ得ス

○公務員ノ横領罪ヲ斷スルニ當リ其横領シタル公金ハ被告ノ職務上之ヲ收入保管セシモノナルコトヲ判示シタル以上ハ更ニ如何ナル性質種類ノ公金ナルヤヲ具體的ニ說示セサルモ不法ニ非ス

○仲立人カ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ一方ヨリ受領セル金品ヲ横領シタル所爲ニ對シ刑法第二百五十三條ヲ適用スルニハ其受領行爲ハ商法第三百七條所定ノ見本ニ關スルモノナルカ又ハ當事者ノ意思表示若クハ慣習上之ヲ其業務ニ屬スルモノト爲シタル事實ヲ判定セサルヘカラス

○契約書ハ其内容ノ如何ニ拘ハラヌ刑法上財物ト認メ得ヘキモノナルヲ以テ被告カ他人ヲ恐喝シテ契約書ヲ交付セシメタル事實ヲ判示スルニ當リ其内容ヲ明記セサルモ理由不備ノ違法アリト云フヲ得ス

○刑事訴訟手續ニ關スル規定ハ之ニ準據スレハ足り必スシモ其之ニ準據

三九

二〇一

四二

二〇二

四三

六六

四三

二四五

四三

二八八

四二

一六三

四二

一八四三

三七

五四

四二

二〇六

三七

一六八九

シタルコトヲ判文ニ明示スルノ要ナシ

四三

三三〇

○法律ニ定メタル選擇刑中其何レヲ選擇當行スルヲ相當トスヘキヤヲ判定スルハ裁判所ノ職權ニ屬ス從テ其選擇ニ關スル理由ハ之ヲ説明スルノ要ナシ

四三

三八一

○衆議院議員選舉法違反ノ罪ヲ斷スルニ當リ被告カ選舉ニ關シテ甲者其他ノ有權者ニ利益ヲ供與セシ事實ヲ具體的ニ判示シタル以上ハ其他ノ有權者ノ何人ナルヤヲ明示セサルモ不法ニ非ス

四三

五二

○兇徒ノ嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者カ特別減輕ノ情狀ナキトキハ其犯罪事實ヲ判示スルニ當リ特ニ輕キ情狀ノ存在セサルコトヲ明示スルノ要ナシ

四三

六五七

○墮胎罪(刑法第二百十四條前段)ノ事實ヲ判示スルニ當リテハ被告カ同條列記ノ身分ヲ有シ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ現實ノ墮胎ニ付キ一ノ原因ヲ與ヘタル具體的事實ヲ摘示スレハ足り其原因カ生理學上如何ナル作用ニ依リテ墮胎ノ結果ヲ生シタルヤノ理由ハ之ヲ說示スルノ要ナシ

四三

七二五

○同一物件ニシテ同時ニ數箇ノ沒收ノ理由ヲ具フルトキハ其中一箇ノ理由ニ依リ之ヲ沒收スレハ足ルモノトス

四三

八〇〇

(同主旨)

同一ノ物件ニ付キ沒收ノ理由ニ箇存スル場合ニ在テハ其中一箇ノ理由ヲ說示スレハ足り必スシモ二箇ノ理由ヲ說示スルコトヲ要セス

四二

一三七三

○事實裁判所ハ或事實ヨリ推理シテ間接ニ犯罪事實ヲ認定スルコトヲ得ルモ其前提ト爲リタル事實カ公知ノモノニ非ス又ハ證據ニ依リ之ヲ認メタルニ非サルトキハ此事實ヨリ推理認定シタル犯罪事實ハ證據ニ依ラスシテ架空ニ認定セラレタルモノニ外ナラス

四三

八九八

(同主旨)

裁判官ノ想像ヲ以テ漫ニ事實ヲ認定スルハ法律ノ許容セサル所ナリ
事實裁判所ハ犯罪事實ヲ認定スルニ當リ常ニ必スシモ直接ニ犯罪事實ヲ證スヘキ證據ノミニ依リテ事實ヲ確定スルコトヲ要セス從テ證據ニ依リテ先ツ一ノ事實ヲ確定シ此事實ヨリ推理シテ間接ニ犯罪事實ヲ確定スルコトヲ得然レトモ其事實カ公知ノ事實ニ非ス又證據ニ依リ之ヲ認メタルニ非サルトキハ裁判所ハ架空ニ事實ヲ確定シタルモノニシテ探證ノ法則ニ違背シタルモノトス

三〇

九
一一三

三六

一〇五三

○連續犯ノ場合ニ於ケル數箇ノ行爲カ新舊二法ニ跨ルコトヲ認メ新法ノミヲ適用スルニ當リテハ其行爲ノ新法時代ニ跨ル事實ハ必スヤ證據ニ依リ之ヲ確定セサルヘカラス

四三

一〇九九

○判決ニ犯罪ノ場所ヲ掲クルノ要ハ受訴裁判所カ其犯罪ニ付キ管轄權ヲ

○有スルコトヲ明示スルニ在リ故ニ詐欺取財ノ手段トシテ偽造證書ヲ行使シタル場合ニハ詐欺取財ノ場所ヲ判示スレハ足り特ニ偽造證書行使ノ場所ヲ判示スルノ要ナシ

四三 一一九七

○沒收ノ宣告ヲ爲ス場合ニ於テ其目的物カ被告ノ犯罪ト如何ナル關係ヲ有スルヤヲ說示セサル判決ハ不法ナリ

四三 一五二四

○被告ノ常習賭博犯者タル事實ヲ判定スルニ當リ判文ニ其偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル事實ノ内容ヲ具體的ニ說明セシムル以上ハ其他ニ於テ唯被告カ常習者タルノ判斷ヲ說示スレハ足り必スシモ其判斷ノ基礎タル各事實及ヒ各行爲ヲ詳示スルノ要ナシ

四三 一五四九

(同主旨)

裁判所カ被告ノ常習賭博犯者タルコトヲ判定スルニ方リ其偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル事實ノ内容ヲ具體的ニ說明セル以上ハ其他ニ於テ唯犯人カ常習者タルノ判斷ヲ說示スレハ足り必スシモ其判斷ノ基礎タル各事實ノ内容ヲ具體的ニ詳示スルノ要ナシ

四二 一五〇六

○戸主ノ死亡後其近親カ相續財産ヲ騙取シタル事實ヲ認メ之ニ對シテ刑ヲ科スルニハ家督相續人ノ何人タルヤヲ確定セサルヘカラス

四三 一七五二

○横領罪ノ成立ニ必要ナル占有ノ事實ニ付キ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ說明セサル判決ハ不法ナリ

四三 一八四七

○裁判所カ部員異動ノ爲メ審理ヲ更新シタル場合ト雖モ其更新前ノ公判ニ於ケル證人ノ供述ヲ採テ罪證ニ供スルニ當リテハ證人某ノ當公廷ノ供述ト掲クルヲ以テ足り特ニ其公判始末書ノ供述記載トシテ說示スルノ要ナシ

四三 一九五九

○傷害ノ程度ハ刑ノ量定ニ重要ナル關係ヲ有スレトモ犯罪ノ構成ニ影響ヲ及ボササレハ之ヲ判示セサルモ不法ニ非ス

四三 二〇一六

○裁判所カ被告人ノ會社創立委員長タル資格ヲ冒シテ小切手ヲ偽造シタル事實ヲ認定スルニ當テハ該小切手日附ノ當時被告人ハ現ニ創立委員長長ニシテ其冒稱シタル資格ノ尙ホ存在セル事實ヲ證明セサルヘカラス

四三 二〇三二

○裁判所ハ教唆者ニ對シテ實行者ニ科シタル刑ヨリ重キ刑ヲ量定スル場合ニ於テハ必スシモ其理由ヲ判文ニ說示スルノ要ナシ

四三 二二九

○事實裁判所ハ其心證ノ因テ生シタル證據ヲ明示スレハ足ル從テ其證據ノ何レノ部分ヨリ如何ナル方法ヲ以テ犯罪事實ヲ斷スルニ至リタルヤノ心理判斷ノ作用ハ必スシモ之ヲ判文ニ掲クルコトヲ要セス

四三 二二六八

○犯人カ人ノ住居スル家屋ノ外壁ニ接著シアル藁圍ヲ導火線トシテ之ニ放火シ其住家ヲ燒燬シタル場合ニ在テハ該藁圍ハ住家ト獨立シテ燒燬ノ目的物ト爲ルヘキモノニ非サレハ之ヲ燒燬シタル點ニ付キ特ニ擬律

ヲ爲ササリシハ相當ナリ

○沒收ニ係ラサル差押物ヲ差出人ニ還付スル言渡ヲ爲スニ當リ其沒收ニ係ラサル理由ハ特ニ之ヲ判文ニ説明スルノ要ナシ

四

六

○犯人カ詐欺ノ手段ヲ以テ他人ノ債權ヲ讓受ケタルモノノ如ク假裝シ其債權ノ執行トシテ第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ヲ差押ヘ轉付命令ニ依リ其移付ヲ受ケ不法ニ利益ヲ收得シタル場合ニ於テ該犯罪ノ既遂タル事實ヲ判定スルニハ其轉付命令ノ第三債務者及ヒ債務者ニ送達アリタル事實ヲ説示セサルヘカラス

四

七九

○特定ノ數人ニ對シテ一箇ノ恐喝手段ヲ施シ金圓ヲ交付セシメタル場合ニ在テハ被害者ノ多寡ハ犯罪ノ成立ニ關係ナキヲ以テ其員數ヲ確定セサルモ不法ニ非ス

四

一五七

○町村長カ町村ノ費用トシテ他人ニ支拂フヘキ現金ヲ横領シタル事實ヲ認定シ其職務上保管スル公金ヲ横領セルモノトシテ刑法第二百五十三條ヲ適用スルニ當リテハ町村長カ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル事實ヲ判示セサルヘカラス

四

四九〇

○苟モ常習トシテ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シタル行爲アル以上ハ其行爲カ博戯ナルト賭事ナルトヲ問ハス均シク刑法第八十六條第一項ニ

依リ處分セラレヘキモノナレハ判文上其區別ヲ明示セサルモ理由ノ不備ニ非ス

四

六五九

○連借證書及ヒ公正證書作成ノ委任狀ヲ偽造シテ之ヲ債權者ニ交付シ以テ公正證書ヲ作成セシメタルトキハ刑法第五百十七條ニ於ケル罪ノ間接正犯ヲ以テ論スヘキモノナルニ付キ判文上該公正證書ノ作成ニ加工シタル事實ヲ認示セサルモ理由ノ不備ニ非ス

四

七五三

○刑法第五十五條ヲ援用スル場合ニ於テ其旨趣カ現實適用セラレアルニ於テハ其條文排列ノ順位若クハ場所ノ如キハ之ヲ問フノ要ナシ

四

七九

○大陰曆ハ現行法令上公認セル曆ニ非サルモ廢止後尙ホ民間ニ遵守セラレルモノナルヲ以テ苟モ判文上犯罪ノ時期ニ付キ大陰曆ニ依ル月日ノ説示シアル以上右月日ハ太陽曆ノ某月某日ニ該當スルコト兩曆ノ對照上容易ニ之ヲ推算シ得ヘキヲ以テ犯罪ノ時期ヲ確定セサルノ違法アリト云フヲ得ス

四

九〇一

○新聞紙法第四十一條所定ノ犯罪構成事實ヲ判示スルニ當リテハ何人カ新聞紙ノ發行人又ハ編輯人タルコト及ヒ其掲載事項ノ内容ヲ摘示シ依テ其内容カ社會ノ安寧秩序ヲ紊亂スル事項ニ該當スルコトヲ具體的ニ説示スルヲ以テ足り所謂社會ノ安寧秩序ノ意義實質ノ如キハ特ニ之ヲ

説示スルノ要ナキモノトス

四四

一〇三

○收賄罪ノ成立ニハ必スシモ人ノ請託ヲ受クル事實アルコトヲ要スルモノニ非スト雖モ請託其モノカ公務員ノ職務上ノ事ヲ目的トスル場合ニ於テ其請託ヲ受クルハ即チ其職務ニ關スルモノニシテ收賄罪ノ成立ヲ認ムル上ニ必要ナル事實ナルヲ以テ判文上之ヲ明示スルノ要アルモノトス

四四

一〇五

○一箇ノ連續犯ヲ構成スル各箇ノ行爲カ處罰規定ヲ異ニスル場合ニ於テ其孰レカ重キヤヲ判定スルニハ先ツ各行爲ニ對スル處罰法條ヲ掲ケテテ重ク適用スヘキ法條ヲ定ムル理由ヲ示ササルヘカラス

四四

一〇七

○刑法第十九條第一項ノ各號ニ該當スル押收物件カ被告ノ所有ニ係ルモノナリトノ認定ハ罪トナルヘキ事實ノ認定ニ非サルヲ以テ證據理由ヲ明示スルノ要ナキモノトス從テ裁判所カ會々公廷ニ於テ讀聞ケサリシ證據ニ依リ右ノ認定ヲ爲シタレハトテ之ヲ以テ違法ト爲スヲ得ス
○刑法第五十五條規定ノ旨趣ハ連續シタル二箇以上ノ行爲ニシテ同一罪名ニ觸ルルトキ一罪トシテ之ヲ處斷スルニ在ルカ故ニ判決理由ニ之ヲ判示スルニ當リ苟モ同一罪ニ該ル連續シタル行爲カ二箇以上アルコトヲ認定スル以上ハ必スシモ確的ニ其箇數ヲ明示セサルモ該判示ニ缺ク

四四

一八〇

ル所ナシ

四四

二五五

○同業組合ノ補助金下付ニ關スル事案ニ付テ判決ニ單ニ縣當局トノミアルモ該補助金下付申請ニ關スル事務ヲ處理スルノ權限ヲ有シ犯罪當時現ニ其局ニ當リタル吏員ヲ指稱シタルモノナルコト明カナル以上ハ其氏名ヲ舉示セサルモ不法ニ非ス

四四

二七六

○刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀ノ有無ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ一件記録全部ヲ援用シテ其心證ノ憑據ト爲スモ違法ニ非ス

四四

二七六

○贈賄罪ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束スルコトニ依リ成立スルモノナレハ贈賄罪ノ事實ヲ認定スルニ當リ收賄者ノ公務員又ハ仲裁人タル事實ヲ判示セサル判決ハ理由ニ不備アルモノトス

四五

二

○連續シテ多數人ノ文書ヲ偽造シタル事實ヲ判示スルニハ署名者ノ一人ニ付キ特ニ氏名ヲ掲記シ以テ現在セル人ノ名義ヲ冒用シタル事實ヲ確定シタル以上其他ハ之ヲ省畧スルモ事實理由ノ明示ヲ缺クモノト云フヘカラス

四五

七五

○刑法第五十九條第一項ノ犯罪カ成立スルニハ必スシモ印章ヲ不正ニ使用シタル事實アルコトヲ要セサルモ苟モ印章ヲ不正ニ使用シテ文書ヲ偽造シタル事實ヲ認示シタル以上ハ其印章不正使用ノ所爲ニ付キ證

據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說示セサルヘカラス
 ○縣會議員選舉運動者ニ於テ特定ノ有權者ヲ勸誘シタルコトカ判文上自
 ラ明白ナル限リ其氏名ヲ逐次詳記スルノ要ナキモノトス
 ○告訴ヲ待テ論スヘキ罪ニ在リテハ告訴ハ訴追條件ニシテ處罰條件ニ非
 サルヲ以テ其罪ヲ斷スルニ當リ告訴アリタルコトヲ明示シテ其證據ヲ
 說示スルノ要ナシ

(同主旨)

刑事訴訟法上親告罪ニ付キ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ要スルハ公訴提起ニ關スル一ノ要件タ
 ルニ過キスシテ犯罪構成ニ關スル要件ニ非ス從テ告訴アリタルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ判文ニ掲
 グルノ要ナシトス

親告罪ニ於ケル告訴ハ起訴條件タルニ止マリ犯罪ノ成立要素ニ非サレハ證據ニ依リテ之ヲ說
 明スルノ要ナシ

○刑法第二百五十三條所定ニ係ル業務上ノ占有事實ヲ判示スルニハ法令
 上自明ノ場合ヲ除キ其職務發生ノ原因タル事實ヲ說示スルヲ要スルモ
 其事實ノ内容及ヒ成立ノ淵源ヲ明示スルヲ要セス

○圖面ヲ證據トスルハ即チ其圖面ノ記載全部ヲ證據トスル旨趣ナルヲ以
 テ苟モ之ニ關スル適法ノ證據調ヲ爲シタル以上ハ更ニ之ヲ判決ニ寫出
 スルノ要ナキモノトス

四五	四五	四二	三六	四五	四五	四五
三四七	二四四	九四〇	四三九	二〇九	一八六	一四〇

○漂流物ヲ横領シタルトキハ直ニ刑法第二百五十四條ノ横領罪ヲ構成ス
 ルモノナルヲ以テ判決ノ事實理由トシテハ單ニ漂流物ヲ横領シタル事
 實及ヒ證據ヲ明示スレハ足り更ニ其漂流物ノ所有權ノ所在ニ付キ證據
 說明ヲ爲スノ要ナキモノトス

○判文上單ニ證人トシテ陳述シタル狀態トノミ記載シ如何ナル狀態ナル
 ヤヲ明示セス直ニ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ證據内容ノ明示ヲ缺ク
 違法ノ裁判ナリトス

○競賣得金騙取ノ案件ニ於テ縱令騙取金圓ノ數額ハ判文上明瞭ナラス
 トスルモ苟モ右賣得金ノ幾部ヲ騙取シタル事實明瞭ナル以上ハ詐欺罪
 ノ目的物タル財物ノ明示ニ缺クル所ナシ

○判文上被告ニ無罪ノ判決ヲ受ケシムル目的ヲ以テ證據ヲ偽造シタル旨
 ノ記載アル以上刑法第四百條ノ犯罪構成事實ノ記載トシテハ十分ニシ
 テ尙ホ此以上如何ナル關係ニ於テ其作為シタル證據カ被告事件ノ裁判
 ニ影響ヲ及ホスヤノ點ニ付キ特ニ之ヲ判示スルノ要ナシ

○苟モ多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ騷擾罪ハ成立スルモ
 ノニシテ共同目的ノ有無ハ該犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナキモノトス故
 ニ判文上多衆聚合シテ暴行ヲ爲シタル事實ヲ明示シタル以上ハ共同目

四五	四五	四五	四五
八〇六	七九六	七八	三五〇

的ノ有無ニ付キ之ヲ判示セサルモ理由ノ不備ニ非ス

四五

八一五

○縣會議員ノ選舉ニ關シ數十名ノ選舉人ニ對シ金品ヲ供與シ又ハ供與セ
ンコトヲ申込ミタル場合ニ於テ其數十名中現ニ分配供與ヲ受ケタル者
ト單ニ供與スヘキコトノ申込ヲ受ケタル者トヲ區別シテ其氏名ヲ明示
セサルモ該行為ハ孰レモ同一罪名ニ觸ルルモノナレハ罪トナルヘキ事
實ノ認定トシテ缺クル所ナシ

四五

九〇〇

○既ニ抵當權ヲ設定シタル家屋ヲ未タ斯ル契約ナキモノノ如ク裝ヒ更ニ
該家屋ニ對シ抵當權ヲ設定シ金圓ヲ騙取シタル旨判示シアル以上ハ縱
令其者ハ一番抵當權者タリト雖モ其者ヲ錯誤ニ陷レタルニ外ナラサル
ヲ以テ詐欺罪ヲ構成スヘキ欺罔手段タル事實明示ニ缺クル所ナシ

○刑法第二百五條第二項ハ第一項ノ犯罪事實ヲ承ケタル法文ナルヲ以テ
第二項ヲ適用スルニ於テハ第一項ヲ適用スルノ要アルコトナシ

元

一四三二

○公訴判決ノ事實理由ニ文書ノ署名者詐欺ノ被害者等ヲ判示スルニハ必
スシモ其氏名ヲ用フルコトヲ要セス苟モ一定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲
メ使用スル名稱ナル以上ハ商號雅號等ト雖モ之ヲ用ヒテ其者ヲ指示ス
ルニ妨ナシ

元

一三六

○關稅法違犯罪ニ於ケル追徵金額ニ屬スル到著價格ノ如キハ罪トナルヘ

キ事實ニ非サレハ之ヲ認メタル證據理由ヲ判示セサルモ違法ニ非ス

二

一五一

○郡長ハ町村ノ直接監督者ニシテ郡吏員ハ郡長ノ命ヲ受ケ事務ニ從事ス
ルモノナレハ判決ニ郡吏員トシテ從事シタル里道改修工事ノ測量及ヒ
監督ノ任務カ郡長ノ命ニ依ルコトヲ明示シタル以上ハ其法令ニ依ルモ
ノナルコト自ラ明カナリ

二

一九七

○新聞紙法第四十五條ニ依リ事實證明ノ確立ヲ得サル爲メ名譽毀損罪ト
シテ之ヲ處罰スル場合ニハ其證明ノ確立ヲ得ザリシコトニ付キ特ニ之
ヲ判文ニ説明スルノ要ナシ

二

三〇八

○宣誓書ヲ以テ宣誓ヲ爲スヘキ場合ト雖モ偽證又ハ偽證教唆罪ヲ斷スル
ニ當リテハ證據ニ依リテ證人カ適法ニ宣誓ヲ爲シタルコトヲ判定スル
ヲ以テ足り宣誓書ノ存在セルコトヲ證據ニ依リテ説明スルノ要ナシ

二

三四七

○刑事訴訟法第二百三條ニ依リ適用スヘキ法律トハ罪トナルヘキ事實ニ
對シテ適用スヘキ刑罰法令ノ謂ナルヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲ス判決ニ於テ
ハ犯罪ヲ構成スル事實ニ關涉スル法令ハ之ヲ適用スル必要ナシ

二

七四九

○加害者自ラ殺害行為ヲ中止シタリトノ證據ニ依リ犯人意外ノ障礙ニ因
ル未遂罪ナリト認定セルハ理由不備ノ判決ナリトス

二

七五七

○賭博ノ常習者タル事實ヲ認定スルニハ必スシモ犯人カ從前屢ニ賭博ヲ

爲シタル事實ヲ詳記シ其認定ノ基ク所ヲ示スノ要ナシ
(同旨)

賭博常習ノ事實ヲ認ムル理由ハ證據ニ依リ其常習アルコトヲ説示スルヲ以テ足り必スシモ從
前被告ノ慣行シタル賭博行爲及ヒ其日時場所ヲ詳説スルコトヲ要セス

四

一八八四

○頼母子講ノ組織ニ付テハ組合ノ性質ヲ有スルモノト會主一個ノ事業ト
シテ經營セルモノトノ二様アリテ其孰レニ屬スルカニ因リ講金歸屬ノ
效果ヲ異ニスルヲ以テ會主ニ講金横領ノ所爲アリヤ否ヤヲ判斷スルニ
當リテハ其前提トシテ講ノ性質カ右孰レニ屬スルカヲ明カニセサルヘ
カラス

二

九六五

○刑法第百八十五條ノ罪ノ成立ヲ認ムルニ付テハ其構成事實ヲ判示スル
ヲ以テ足り賭博カ博戯ナリヤ將タ賭事ナリヤヲ區別スルコトヲ要セス
○賭場開張罪ニ在テハ其賭博場ニ於テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者アルコ
トヲ要セサルヲ以テ現ニ博奕ヲ爲シタル者アリト認メタル場合ニ於テ
モ亦各其賭博者及ヒ各賭博者ヨリ獲得シタル手數料ヲ判示スルコトヲ
要セス

二

九八九

○不實ノ記載アル登記簿ノ備付ハ登記官吏ヲシテ登記簿ニ不實ノ記載ヲ
爲サシメタル結果ナルヲ以テ苟モ虛偽ノ申請ヲ爲シ登記ヲ爲サシメタ
ル旨ノ自認アル以上ハ此自認ニハ自ラ登記簿備付ノ事實ヲ包含スルモ

二

一一〇

ト認メサルヘカラス從テ判決ニ於テ右自認ヲ引用シ該事實ヲ認定ス
ルモ不法ニ非ス

二

一〇五二

○株式會社ノ取締役社長又ハ專務取締役ハ必スシモ常ニ其業務トシテ當
然會社財産ヲ保管シ之ヲ占有スルモノニ非サレハ取締役カ會社ノ財産
ヲ横領シタル場合ニ刑法第二百五十三條ヲ適用センニハ先ツ其業務上
占有ノ事實ヲ確定セサルヘカラス

二

一〇九〇

○他人ト共謀シテ數人ヲ傷害シタル事實ヲ判示シアル以上ハ自ラ手ヲ下
シタル事實ヲ確定シアラサルモ其傷害罪ヲ論スルニ付キ理由不備ノ違
法アルモノニ非ス

二

一一四〇

○詐欺行爲ニ因リ明治四十二年六月中加ヘタル損害ニ付テハ遲滯ニ付ス
ルノ條件ヲ要セスシテ其時ヨリ當然利息ヲ生スヘキモノナルヲ以テ同
四十四年七月一日ヨリノ利息ノミヲ請求シタル場合ニ於テ其請求ノ正
當ナル所以ヲ説示シタル判決ハ正當ナリ

二

一一五四

○自首減輕ヲ與フルト否トハ裁判所ノ專權ニ屬シ之ヲ與フルヲ適當ナラ
ストスルトキハ縱令自首ノ事實アリトスルモ特ニ之ヲ判示スルノ要ナ
シ

二

一一四七

○一ノ連續犯ヲ構成スヘキ數行爲中ニ數箇ノ同一罪名ニ觸ルル行爲ヲ包

○會スル場合ニ於テハ先ツ該行為ニ付キ刑法第五十四條第十條ニ依リテ
孰レノ罪名ヲ以テ重シト爲スヘキヤヲ說示シ而シテ後同法第五十五條
ヲ適用シ他ノ數行為ト共ニ一箇ノ連續犯ヲ構成スル旨ヲ判定スヘキモ
ノトス

○警察犯處罰令第三條ニ依リ裸程者ヲ處罰センニハ街路ノ如ク公衆ノ自
由ニ通行スル場合ニ於テ裸程シタル場合ハ格別室内ニ於テ裸程シタル
場合ノ如キハ其位置ハ如何ナル場所ヨリ如何ニシテ容易ニ公衆ノ目ニ
觸ルヘキモノナルカヲ具體的ニ說示セサルヘカラス

○森林竊盜ノ如キ贓額ヲ以テ科刑ノ標準ト爲ス犯罪ニ付キ其行為カ數月
ニ亘リ連續シテ數回ニ實行セラレタル場合ニ於テ各行爲ノ日時及ヒ其
贓額ヲ明確ニ認定シ能ハサルトキハ起頭ヨリ終局ニ至ル犯罪行為ノ行
ハレタル時期及ヒ贓物ノ總額ヲ明示スルヲ以テ足ルモノトス

○公判始末書ニハ被告ノ保管ニ係ル他人所有ノ物ヲ其者ノ承諾ヲ得テ賣
却シタリトノ不可分の供述ノ記載アルニ拘ハラヌ判決ノ證據理由中ニ
於テ單ニ該品ヲ擅ニ賣却シタル旨ノ供述ヲ爲シタルモノト説明スルニ
止マリ不可分ノ關係アル供述ノ部分ヲ排斥スルノ理由ヲ示ササルハ被
告ノ供述ノ旨趣ヲ變更シテ之ヲ判斷ノ資料ニ供シタルノ不法アルモノ

トス

○刑法第二百五條第一項ノ罪ヲ斷スルニ付テハ犯人カ他人ヲ傷害シ因テ
被害者ノ死期ヲ早メタル事實ヲ確定スルヲ以テ足り其傷害ニ因リテ早
メラレタル死期ノ遲速ノ程度ノ如キハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以
テ之ヲ判示スルヲ要セス

○犯人ノ行為及ヒ事件ノ關係ニ因リ特別ナル記載ヲ要セスシテ故意ヲ認
識スルコトヲ得ル場合ニ於テハ其故意ハ特ニ之ヲ判文ニ示スコトヲ要
セサルモ右ノ事情ニ因リ直ニ故意ノ存在ヲ肯定スルヲ得サル案件ニ在
リテハ之ヲ明確ニスルノ必要アルモノトス

○判文上支拂ノ意思キナニ拘ハラヌ支拂ヲ爲スモノノ如ク詐リ酒食ヲ供
給セシメ且藝妓ヲ招キ遊興ヲ佐ケシメ而シテ飲食代金及ヒ勞務ノ對價
ヲ支拂ハサリシ旨ノ記載アル以上ハ詐欺罪ノ目的物ヲ明示セサル違法
アルモノニ非ス

○偽造文書ノ内容ハ文書偽造罪ノ構成事實ナルヲ以テ證據ニ依リテ之ヲ
認定シタル所以ヲ説明セサルヘカラス
○贓物ニ關スル犯罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ爲スト同時ニ贓物ヲ被害者ニ還付
スル判決ヲ爲ス場合ニ於テハ其贓物ハ如何ナル犯罪ニ關スルモノナル

二

一四一六

三

一

三

二九

三

二五九

三

二六三

(同主旨)

賭博ノ前科アル事實ハ必スシモ常ニ之ニ依リテ其後ノ賭博行為ヲ常習犯ト認メサルヘカラサ
ルモノニ非サルト同時ニ前科アル事實ニ依リ常習賭博ヲ認定スルモ不法ニ非ス

○横領罪ヲ斷スルニ當リテハ其財物カ犯人以外ノ者ニ屬スル事實ヲ明示
スレハ足り必スシモ被害者ノ氏名ヲ精密ニ確定スルノ要ナシ

(同主旨)

横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領スルニ因リ成立スルモノナルヲ以テ其目的物タル金
員カ何人ノ所有ニ屬スルモノナルヤ其性質ノ判示ヲ缺クモ荷モ自己ノ所有ニ屬セス他人ノ物
ナルコト判文上明カナルニ於テハ理由不備ノ違法アルモノト云フヲ得ス

○連續犯タル犯罪事實ニ付キ刑法第五十五條ヲ適用スルニハ各行爲共通
ノ犯罪成立要素其行爲ノ複數ナルコト始期終期竝ニ財産ニ對スル罪ノ
場合ニ於テハ贓物ノ總額ヲ判示スレハ足ルモノトス

○普通横領罪ト業務上横領罪トヲ連續實行セル場合ニ於テハ一箇ノ連續
犯トシテ重キ業務上横領罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘキモノナレハ其横領シ
タル金品ノ數額ハ之ヲ各別ニ判示スルノ要ナキモノトス

○小切手ニ依ル支拂ハ現金ノ支拂ト同視スヘキコト取引上ノ通念ナルヲ
以テ横領金額ヲ判示スルニ際リ之ヲ現金ノ支拂ト合算シタルハ違法ニ
非ス

○誣告犯人カ申告書ヲ郵便ニ付シタル場合ニ在リテハ其罪ハ該申告書カ
相當官廳ニ到達シタル時ニ於テ成立ス然ルニ郵便物ハ時トシテ不著ノ
結果ヲ見ルコトナキニ非サルヲ以テ判決ニハ該申告書到達ノ事實ニ關
スル證據理由ヲ明示スルニ非サレハ理由不備ノ不法アルモノトス

○強盜犯人ニ對シ烏打帽子足袋ノ如キ唯特殊ノ場合ニ限リテノミ其犯罪
ヲ容易ナラシムルニ過キサル物品ヲ供與シタル行爲ハ其自體直ニ強盜
罪ノ幫助ナリト云フヲ得サルカ故ニ之ヲ以テ強盜罪ノ幫助ナリト爲ス
ニハ特ニ其供與カ犯罪ヲ容易ナラシメタル理由ヲ說示セサルヘカラサ
ルモノトス

○度量衡法第八條第四號違反ノ罪ノ判決トシテハ其公差以上ノ差狂カ増
加ニ因ルモノナルト減少ニ因ルモノナルトヲ說示スルノ要ナキモノト
ス

○刑法第二百四條ノ罪ノ判決ニ於テハ被害者ノ創傷ノ情況如何ヲ具體的
ニ詳叙スルノ要ナキモノトス

三

九六〇

三

二六〇二

四

八〇六

四

八七四

三

二六〇二

四

一九四

四

三三三

四

三三七

四

二四九

四

一四〇八

四

一四三七

- 犯人ノ收受シタル金圓ヲ費消シタルモノト認メ之ヲ追徴スル旨ヲ判示シタル以上ハ衆議院議員選舉法第八十七條第二項後段ニ依リテ追徴ヲ命シタルコト自ラ明カナレハ適用法條ヲ明示セサルモ違法ニ非ス
- 現今我國ニ於ケル公私人ノ取引上厘位以下ノ端數ハ之ヲ切捨ツルヲ以テ一般ノ慣習トスルカ故ニ追徴スヘキ金額ヲ二百十七圓八十九錢三厘餘ト判示シ乍ラ單ニ二百十七圓八十九錢三厘ノミノ追徴ヲ命シタル判決ハ違法ニ非ス
- 府縣知事內務部長其他ノ官吏カ地方官官制ノ規定ニ基キ發スル抽象的ノ通則タル性質ヲ有スル命令ハ訓令規程通達其他何等ノ名稱ヲ冠スルニ拘ハラズ又其適用範圍ノ廣狹如何ヲ問ハス法令ノ一種ニ屬スルモノトス
- 叙上ノ意義ニ於ケル法令ハ之ヲ判決ノ證據說明中ニ援用セリトスルモ證據トシテ之ヲ取調フルノ要ナク又判決ニ其内容ヲ示スヲ要セサルモノトス
- 賭博罪ノ判決ニ於テハ其賭財ノ額ヲ明示セサルモ違法ニ非ス
- 醫業トハ反覆繼續ノ意思ヲ以テ醫行為ニ從事スルノ謂ニシテ生活上ノ資料ヲ得ル目的ノ有無ハ其意義ヲ定ムル標準ト爲ルモノニ非ス故ニ被

四	四	四	四	四
一四五九	二〇七五	二〇七五	二〇七五	二〇七五

- 被告私ニ醫業ヲ行ヒタルハ生活上ノ資料ヲ得ル目的ニ出テタル事情ヲ判示セサリシトテ理由不備ノ違法アリト爲スヲ得ス
- 犯罪ノ場所又ハ時ニ關シテハ逐一證據ヲ舉ケテ之ヲ認メタル理由ヲ說示スルノ要ナシト雖モ少クトモ判文記載ノ事實關係ニ依リ其場所又ハ時ヲ推知シ得ルノ程度ニ於テ之ヲ判示シ上告裁判所ヲシテ裁判管轄法律適用ノ當否竝ニ公訴時効ノ成否ニ付キ之ヲ監査スルコトヲ得セシメサルヘカラス

五	五	五
三七八	一〇九	一〇九

(同案旨)

犯罪ノ場所ハ之ヲ明示セサルヘカラス然レトモ之ヲ以テ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ナリトスルヲ得ス從テ特ニ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要セス

(反對)

犯罪ノ場所ハ犯罪構成事實ノ一部ヲ成スモノニ非サルヲ以テ裁判所ノ管轄公訴ノ時効又ハ場所ニ關スル法律ノ適用等ニ付キ之ヲ判定スルノ必要アル場合ノ外必スシモ之ヲ判示スルノ要ナキモノトス

犯罪ノ場所ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ裁判ノ管轄其他場所ニ關スル法律ノ適用等ニ付キ之ヲ判定スヘキ必要アル場合ノ外必スシモ之ヲ判文ニ掲グルコトヲ要セス

○裁判所カ森林竊盜被告事件ニ對シ森林法第八十三條ヲ適用シテ自由刑ヲ選擇スル場合ニハ必スシモ贓額ノ如何ヲ明示スルノ要ナキモノトス

四	四	四	四
一八四三	一九四	六六八	六六八

○積領被告事件ニ付キ被告ニ不正領得ノ意思アルモノト認ムヘキ外部行爲ヲ費消ニ在リト認定シタルニ拘ハラズ其費消ノ事實ニ對スル證據ヲ舉示セサル判決ハ不法ナリ

七四五

○犯罪ノ日時ハ犯罪事實ニ非サレハ之ニ對スル證據ノ說示ヲ爲スコトヲ要セス從テ偶其日時ニ關スル證據ノ說示ニ瑕疵アリトスルモ之ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス

八二八

○罪ノ情狀ニ關スル事實ハ科刑ノ量定ヲ爲スニ際シ之ヲ斟酌スレハ足り必スシモ判文上ニ之ヲ明示スルコトヲ要セス

九六〇

(同主旨)

犯情ヲ斟酌シ刑量ヲ評定スルニ付キ必要ナル事情ヲ判示スヘキコトハ法ノ要求セサル所ナルヲ以テ事實裁判所ハ特ニ事情ヲ明示スルコトナク審理ノ結果ニ因リテ自由ニ評定スルコトヲ妨ケス

一一三二

○質屋業者ニ質屋取締法第五條第二項違反ノ行爲アリトシテ之ヲ處罰スルニハ質置主ニ通帳ヲ交付セサリシ事實ノ外尙ホ質札ヲモ交付セサリシ事實ヲ判示セサルヘカラス

二八九

○骨牌ノ使用ニ依ル賭博ハ其性質上偶然ノ事情ニ因リ輸贏ヲ決スルモノナルコト自ラ明カナレハ被告カ金錢ヲ賭シ骨牌ヲ使用シテ賭博ヲ爲シ

タル旨ヲ說示シタル以上特ニ其方法ヲ詳述セサルモ不法ニ非ス

一三〇六

○當該事件ニ關スル訴訟條件ノ存否ハ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ刑ヲ言渡ス判決ニ之ヲ掲記スルノ要ナシ

一三五四

(同主旨)

受訴裁判所ハ訴訟條件ノ備不備ヲ審査シ其完備セルコトヲ認メタルトキハ該訴訟ヲ受理審判スルノミヲ以テ足り特ニ之ヲ判文ニ記載シテ其條件ノ完備セル旨ヲ明示スルノ要ナシ

一〇七

○被告ノ所爲ヲ放火罪ニ問擬スルニハ故意ニ目的物件ニ對シテ火力ヲ施用シ其燒燬作用ヲ遂ケシメタル事實ヲ判示スレハ足り必スシモ被告カ

一四三七

用キタル點火ノ材料其他放火ノ方法ヲ具體的ニ詳説スルコトヲ要セス

一四三九

(同主旨)

○市會議員選舉ノ行ハルヘキ時期ハ公知ノ事實ニ屬スルヲ以テ特ニ之ヲ認メタル證據ヲ明示スルノ要ナシ

六二四

適法ニ成立シタル町村組合ハ公法人ニシテ町村ト同シク公知ノ事實ナレハ特ニ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルノ要ナシ

八三二

市會議員ハ公民ニ依リ選舉セラレタル者ニシテ其市會議員ナルコトハ公著ノ事實ナレハ判決中此點ニ付キ何等ノ證據説明ナキモ不法ニ非ス

七六四

○新聞紙ノ編輯人又ハ發行人タル資格ヲ有セサル者ニ對シ新聞紙法第四十一條ヲ適用スルニハ先ツ同法第九條ノ規定ヲ適用セサルヘカラス

○被害者ト被告トノ身分關係ニ付キ判文上特ニ明示スル所ナキ以上ハ親族又ハ家族等ノ特別關係ナキモノト認メタル旨趣ナリト解スルヲ相當トス

○織物消費稅法違反事件ニ付キ製造業者タル被告ト犯則行爲者トノ間ニ同一戸主權ノ下ニ在ル同一家族タル關係アルコトヲ確認スヘキ夫婦關係ノ存在ヲ說示シタル以上ハ被告ニ於テ犯則行爲者タル夫カ被告ノ業務ニ關シ爲シタル犯則行爲ニ付キ責ヲ負フヘキ理由ノ判示ニ欠缺アリト云フヲ得ス

○刑法第九十七條ニ於テ處罰スル公務員ノ收賄罪ヲ以テ論スルニハ止々其職務ニ關シテ他人ヨリ財物其他ノ利益ヲ收受シタリトノ法文ノ字句ヲ襲用シテ事實ヲ判示スルヲ以テ足レリトセス果シテ公務員ノ職務ニ對スル報酬若クハ謝禮ノ趣意ヲ以テ他人ノ供與セル財物其他ノ利益ヲ收受シタルモノナリヤ否ヤヲ審査シ得ヘキ程度ニ於テ具體的ニ事實ヲ說示セサルヘカラサルモノトス

○有罪破産ニ於ケル被告人カ破産宣告ヲ受ケ其決定確定セル事實ハ破産

五

一四七四

五

一五八〇

五

一六二四

五

一七二七

罪ノ處罰條件ニシテ刑事訴訟法ニ所謂罪トナルヘキ事實ナルヲ以テ之ヲ認メタル證據理由ヲ明示セサルヘカラス

○傳染病豫防法第三十條ノ罪ハ同法第三條ニ定ムル公務員ニ對シテ十二時間内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲スニ依リテ成立スルモノナレハ第三十條ヲ適用スル場合ニ併セテ第三條ヲ明示スルモ不法ナリト爲スヲ得ス

○判決ニ被告ノ職業ノ表示トシテ産婆ナル文字ヲ掲クルニ止マリ犯罪ノ事實理由トシテ被告カ犯行ノ當時刑法第二百十四條所掲特種ノ身分ヲ有シタル事實ヲ明示セサルハ同條犯罪構成ノ事實理由ヲ完備セサルモノトス

○判文上刑法第六十一條第一項ヲ適用シタル旨趣自ラ明カナル以上ハ特ニ該法條ヲ明示セサルモ擬律ノ不法アリト論スルヲ得ス

○正犯カ未タ起訴セラレス又確定判決ヲ受ケサル場合ニ於テモ從犯ノ罪ヲ論スルノ妨ト爲ルコトナシ斯ル場合ニ於テハ先ツ正犯事實ヲ確認シ而シテ從犯ノ事實ヲ判定スヘキモノトス

○新聞紙法ニ所謂風俗ヲ害スヘキ事項ヲ判示スルニハ其掲載セラレタル字句文章カ直接ニ風俗ヲ害スヘキ事項ヲ表明セル場合ハ勿論同一事項

六

四〇一

六

四〇四

六

六〇一

六

六〇四

六

七六七

其使用シタル字句文章ノ外ニ包藏セラレタリトスル場合ニ於テモ必
ス其字句文章ニ依リテ之ヲ推知シ得ヘキ程度ニ於テ明確ナラシムル叙
述ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

○竊盜未遂罪ノ事實ヲ判示スルニハ被告人カ犯罪ノ實行ニ著手シタル事
實ノ有無ヲ鑑別シ得ヘキ程度ニ於テ事實ヲ認定スルヲ要スルモノトス

○船舶検査法施行細則第三十四條以下ノ規定ニ依レハ船舶検査證書記載
ノ航行期間經過後ト雖モ尙航行スルヲ得ヘキ場合存スルヲ以テ被告ニ

船舶検査法第十條第一項違反ノ行爲アリト爲スニハ叙上施行細則ノ規
定ニ該當セサル場合ナルコトヲ判示セサルヘカラス

○被告ニ銃砲火藥類取締法第二十一條ニ依ル罪責アリトスルニハ被告カ
鑛業權者若クハ其鑛業代理人ナルコトノ外當該官廳ノ許可ヲ受ケ火藥

類ヲ使用シテ事業ヲ行フ者ナルコトヲ確定スルヲ要スルモノトス
○公訴ノ事實ヲ掲載セスシテ無罪ヲ言渡シタル判決ハ如何ナル事實ヲ以
テ罪トナラスト認メタルヤヲ知ルニ由ナシ從テ其判決ハ不法ナリ

○事實裁判所カ犯罪ノ證據充分ナラストシテ無罪ヲ言渡ス場合ニ於テハ
單ニ公訴ニ係ル犯罪事實ヲ明示シ其證據充分ナラスト判示スルノ以テ

足ル從テ犯罪ヲ構成スヘキ諸般ノ事實關係ヲ明示シ各箇ノ事實ニ對シ

之ヲ認ムル能ハサル所以ノ理由ヲ説明スルノ要ナシ
(同主旨)

證據十分ナラサルヲ以テ無罪ヲ言渡ス旨ヲ明記シタル判決ハ刑事訴訟法第二百三條第二項ニ
從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲スニ付キ其理由ヲ明示シタルモノトス

○人ヲ教唆シテ詐僞ノ婚姻届出ヲ爲サシメタル事件ニ付キ檢事ヨリ男子
ノミヲ教唆セルコトヲ指摘シ起訴シタル場合ニ於テ裁判所カ男女トモ

之ヲ教唆シテ犯罪ヲ爲サシメタル事實ナシトスルトキハ單ニ男子ヲ教
唆シタル罪責ナキ理由ヲ明示スルヲ以テ足り女子ヲ教唆シテ犯罪ヲ爲

サシメタル罪責ナキコトニ至ル迄之ヲ說示スルノ要ナシ
○一罪トシテ起訴セラレタル事實中其一部カ無罪タル場合ニ於テ他ノ部

分ヲ有罪トシテ刑ノ言渡ヲ爲シ法定ノ理由ヲ付シタル以上ハ其無罪ノ
部分ニ付キ特ニ之カ言渡ヲ爲シ且其理由ヲ付スルコトヲ要セス

(同主旨)
一罪中罪トナラス又ハ罪ヲ論セサルモノアル場合ニ於テ他ノ部分ヲ有罪トシ之ニ對シテ法律

ノ理由ヲ付シタル以上ハ其無罪ノ部分ニ付キ特ニ理由ヲ付スルノ要ナシ
○脅迫事件ニ付キ裁判所カ被告人ハ眞ニ誣告罪ノ告訴ヲ爲ス意思ヲ以テ

誣告者ニ對シ告訴ヲ爲スヘキ旨ノ通告ヲ爲シタルモノト認メ無罪ノ言
渡ヲ爲スニ當リテハ被告人自ラ眞ニ告訴ヲ爲ス意思ヲ有セザリシ事實

三五 九 一一三

三三 六 七四

三一 二 七六〇

四〇 一 七六〇

四二 二 一六八一

四三 三 二八

三五 一〇 二九

六 一四九七

七 三四四

六 六〇一

七 五三六

七 一五七九

三五 二 一四〇

一村又ハ一部落ノ共有ニ係ル山林ノ如キハ其村落人民ノ協議ニ依ルニ非サレハ村民一己ノ資
格ヲ以テ之ヲ伐採シ得ヘカラサルハ勿論ナリ故ニ原院カ被告ハ自分部落ノ共有ニ係ル山林中
ノ杉ヲ伐採シタルノ事實ヲ認メ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ事實ノ理由ヲ付セサルモ
ノト云フヲ得ス

原判文ニ新聞紙ノ記事ノ惡意ニ出テタルコトヲ明記セサルモ其記事ニ特ニ注意點ヲ附シ官吏
執務ノ體面ヲ毀損スルノ文詞ヲ掲載シテ侮辱シタルモノナルコトヲ說示シタルハ被告ノ惡意
ニ出テタルヲ示シタルモノナルコト文詞上自ラ明カナリ而シテ被告兩名カ共謀ノ有無ニ付テ
ハ判文前段ニ各自各別ノ犯意アリタルモノト爲シタル文詞ナク其末段ニ被告兩名ハ云云侮辱
シタルモノナリト說示シタルハ兩名合意共同ノ行爲タルコトヲ示シタルモノナレハ之ヲ原院
ハ「被告兩名共謀ノ侮辱ノ意ヲ以テ本件記事ヲ掲載シタルモノナルヤ否ヤヲ審理說明セス
ト云フヲ得ス

辯護士ハ金圓騙取ノ場所及ヒ時日ヲ明示セサルハ理由ヲ欠キタル違法ナリト論告スレトモ原
判文中ニ「某ノ年月日ニ某ノ裁判所ニ某ノ訴訟ヲ起シ云云某ノ年月日ニ某ノ判決ヲ受ケ某ノ
年月日ニ云云二圓七十七錢ヲ騙取シタル者ナリ」トアルニ由リ騙取ノ場所及ヒ其時日ハ自ラ
明白ナルヲ以テ本案犯罪ニ付テノ場所及ヒ時日ニ關スル理由ハ更ニ之ヲ詳記スルノ要ナシ
辯護士ハ判文證據列記ノ部ニ橋本郎ノ第二回第三回云豫審調書トアルモ本件記録中ニ橋本
郎ナル人名ナキヲ以テ如此豫審調書ノ存在ヲ認メ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ結局證據ノ明示ヲ
欠キタル違法ノ裁判ナリト論告スレトモ其論旨ハ判決原本ニ郎ノ字ノ上ニ重次ノ二字ヲ記入
シアリテ其印ナキヲ以テ記入ノ効ナシト雖モ本件被告橋本岩治郎橋本重次郎ノ外關係人中
ニ橋本某ナル者ナキニ因リ判文ニ橋本郎ノ第二回第三回及被告岩治郎ノ豫審調書ト記載シア

二元

二元

二元

六〇

三六

三九

ル上ハ其橋本郎ハ岩治郎ニ非スシテ重次郎ナルコトヲ推知スルニ足ルモノナレハ重次ノ二字
ヲ記入ノ効ナシトスルモ之ヲ以テ破毀ノ原由ト爲スコトヲ得ス
詐欺取財罪ノ判決ニハ其目的タル物件ヲ明示スルヲ以テ足レリトス
詐欺取財ノ未遂犯ヲ斷スルニ當リ特ニ刑法第三百九十七條ヲ援用セサルモ不法ニ非ス
盜竊故買罪ハ其盜犯者及ヒ被害者ノ身分ニ依リ刑ニ輕重ヲ生セテ其氏名ヲ判文ニ表示ス
ルノ要ナシ

委託金費消罪ニハ犯罪ノ場所及ヒ日時ヲ明示スルヲ要セス

私印私書偽造罪ハ使用行使ニ依リテ成立ス其結局ノ目的ヲ明示スルト否トハ判決ノ適否ニ關
係ナシ從テ其明示ナキヲ理由トシテ一審判決ヲ取消スノ必要ヲ見ス

監守盜ハ犯罪ノ手段外面ニ現出スルモノニ非ス從テ其手段ヲ明示セサル判決ハ不法ニ非ス
刑法第二百八條第二項ヲ適用シアル上ハ同第一項ヲ適用セサルモ不法ニ非ス

贓金分配ノ多寡及ヒ其方法ハ詐欺取財ノ犯罪ヲ構成スル條件ニ非ス從テ之ヲ明示セサルモ違
法ノ判決ニ非ス

代價ノ多少ハ盜竊故買罪ヲ成立スルノ要素ニ非ス從テ其代價ヲ明示セサル判決ハ不法ニ非ス
數人共犯ノ事實ヲ認メ刑法ノ各正條ヲ適用シタル上ハ特ニ同法第四百條ノ總則ヲ適用スルヲ
要セス

私書偽造罪ヲ斷スルニ當リ其物體タル文書ノ性質ヲ明カニセサル判決ハ裁判ニ理由ヲ付セサ
ル不法アルモノトス

事實ノ理由ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件タルコトヲ認定セスシテ法律ノ理由ニ至リ漫然刑
法第四十三條第二項ヲ適用シ其物件ヲ沒收シタル判決ハ事實上ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁

二元

二元

二元

二元

二元

二元

二元

二元

二元

三四八

五九

六四

一四八

一五三

一四六

一四〇

一四六

二〇三

四〇

委託金費消事件ニ付キ特ニ其場所ヲ判示セサルトキハ被告人ノ住所ニ於テ之ヲ犯シタルモノト認ム
囚徒逃走罪ハ多少ノ時間繼續スルモノトス從テ逃走ノ終リタル日時場所ヲ判示スルヲ以テ足
レリトシ逃走ノ始マリタル日時場所ヲ判示スルヲ要セス
裁判費用ノ連帶負擔ヲ命スルハ刑法第四十七條ノ法則ニ基クモノナリ從テ其判決ニ該條ヲ援
用セサルモ不法ニ非ス
恐喝取財罪ニ付キ恐怖ノ念ヲ生シタル原因ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ

甲者乙者ノ依頼ニ應ジ乙者足部ノ疼痛ヲ治療スルノ祈禱ヲ爲スト稱シ乙者ニ火傷セシメタル
場合ニ於テ甲者ノ詐辯ヲ弄シタルニ基因スルモノナルヤ將タ乙者ノ祈禱ヲ迷信シタルニ基因
スルモノナルヤ否ヤノ事實關係ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ
混成酒稅法違犯者ヲ處罰スルニ當リ其製造シタル混成酒ノ種類ヲ明示セサル判決ハ理由不備
ノ不法アリ

毒藥ノ性質及ヒ分量等ヲ明示セスシテ毒殺罪ニ問擬シタル判決ハ不法ナリ
委託物ヲ入質シタル所爲ニ對シ其入質ノ當時返還ノ意思ナカリシコトヲ明示セスシテ委託物
費消罪ニ問擬シタル判決ハ事實理由ヲ具ヘサル不法ノ裁判ナリ
偽造證書ハ行使ニ因テ犯罪ヲ構成スルモノナレハ行使ノ場所日時ヲ明示シタル以上ハ偽造ノ
場所日時ヲ詳記スルノ必要ナシ(同一判例二八年一卷九九頁)

甲者カ乙者ノ免許ヲ受ケテ調製販賣スル實藥ヲ調製販賣シタル場合ニ於テ果シテ乙者ノ許諾
ヲ得テ調製シタルモノナルヤ否ヲ説明セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ
米相場ノ高低ニ依リ勝敗ヲ決スルカ如キハ必スシモ博奕ニ限ルモノニ非ス從テ米相場ノ高低

三〇	三二	三三	三五	三六	三六	三七	三九	四〇
二九	二二	三二	三五	三六	三六	三七	三九	四〇
六五	四五	五〇	六一	六四	六四	六七	七〇	七一

ニ依リ勝敗ヲ決スル事實ヲ以テ賭博罪ニ問擬スルニハ其手段方法ヲ明示セサルヘカラス
情ヲ知リテ偽造兌換券ヲ收受シタルコトヲ明示シタル以上ハ特ニ其目的ヲ説示セサルモ不法
ニ非ス

監守盜罪ノ構成ニハ官吏ニシテ法律上監守ノ職責アルコトヲ必要トス從テ國稅事務ヲ管掌ス
ル稅務署長ノ地方稅タル戶數割ヲ徵收シテ費消シタル所爲ヲ監守盜罪ニ問擬スルニ當リ特ニ
監守ノ職責アルコトヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス

他人ノ所有ニ屬スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪ヲ構成ス從テ其所有者
ヲ明示スルヲ必要トセス

明治十三年ノ徵兵ニシテ明治二十八年ニ於テ後備役ニ在ル事由ヲ明示セス輒ク後備兵ノ召集
ニ應セサル所爲アリトシテ處罰シタル判決ハ事實理由ヲ明示セサル不法アルモノトス
誣告教唆ノ所爲ニ對シ教唆罪ニ關スル法條ヲ適用セサル判決ハ法律ノ理由ヲ具備セサル不法
アルモノトス

數箇ノ犯罪行為カ意思繼續ノ爲メ一罪ト爲ルハ變例ニ屬ス從テ意思繼續ノ事實ヲ認メサルト
キハ特ニ判文ニ於テ之ヲ説明スルノ要ナシ

刑法第三百九十五條ノ費消トハ返還ノ意思ナクシテ費消スルノ意義ナリ從テ刑事ノ判文上委
託ノ金錢ヲ費消シタル旨ヲ記載セハ返還ノ意思ナカリシ意義ヲモ包含スルヲ以テ特ニ其意思
ナカリシコトヲ表明スルノ要ナシ

議員ニ對スル犯罪ニ付テハ被害者カ議員タル證據ノ證明ヲ要セス
證書毀壞罪ハ其證書ノ他人ニ屬スルニ非サレハ構成スヘキモノニ非ス從テ該犯罪ヲ斷スルニ
當リ其證書ノ何人ニ屬スルヤヲ説明セサル判決ハ不法ナリ

三四	三四	三四	三四	三三	三三	三三	三三	三三
九	九	九	六	一	八	七	五	四
七九	八一	八二	六〇	一三	五三	八	一六	七六

森林竊盜(森林法第三十八條)ニシテ其贓額ヲ確定セザレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル
 案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ
 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタル者(取引
 所法第二十五條)トシ之ヲ處罰スルニ當リ如何ナル類似ノ方法ヲ以テ米賣買ノ取引ヲ爲シタ
 ルモノナルヤヲ詳示セザル判決ハ不法ナリ
 偽造貨幣行使罪ヲ斷スルニ當リ其貨幣方果シテ貨幣トシテ入チ欺クノ程度ニ偽造セラレタル
 ヤ否ヤハ事實裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ委スヘキモノトス而シテ其心證斷罪ノ因テ生スル
 偽造ノ程度ハ之ヲ判示スルノ要ナシ
 偽造ノ手段方法ハ犯罪ノ成立ニ影響ナキヲ以テ之ヲ判文ニ明示セザルモ不法ニ非ス
 贓物ヲ以テ物ヲ製造シタル事實ハ森林竊盜罪ニ於ケル加重ノ情狀ニ過キス從テ特ニ其製造ノ
 場所及ヒ年月日ヲ判示スルノ要ナシ
 判文法律適用ノ部ニ第一三刑法ヲ適用シ第二ニ戶籍法ヲ適用シ次ニ數罪併發例及ヒ裁判費用
 ノ點ニ對シ法律ヲ適用スルニ當リ同法第何條トアリテ文理上戶籍法ヲ承ケタルカ如キモ其前
 ニ掲ケタル刑法ナル文字ヲ指シタルコト明カナルトキハ判文妥當ヲ缺クモ以テ原判決ヲ破毀
 スルニ足ラス
 委託物費消罪ハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親族ナルトキハ其罪ヲ論セザルモノトス(刑
 法第三百九十八條)從テ被告ハ被害者ノ親族ナルコトヲ認メテ如何ナル親等ノ親族ナルカ
 ナ明示セスシテ刑ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ
 寄託ヲ受ケタル單筒中ヨリ物品ヲ取去リタル所爲ヲ斷スルニ當リ其單筒ニ鎖鑰又ハ封印ヲ施
 シアリシヤ否ヤヲ判示セザル判決ハ其所爲竊盜罪ナリヤ委託物費消罪ナリヤヲ區別スルヲ得

三五	三五	三五	三五	三五	三五
二	二	二	二	二	二
九五	九五	九五	九五	九五	九五
一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八
四八	四八	四八	四八	四八	四八
九一	九一	九一	九一	九一	九一
一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六
一四	一四	一四	一四	一四	一四
一四	一四	一四	一四	一四	一四

サレテ以テ理由不備ナリトス

私印偽造罪ヲ認定スルニ當リ常ニ必スシモ其偽造ノ日時場所方法ヲ判文ニ掲ケテ事實上及ヒ
 證據上ノ理由ヲ示スノ要ナシ

判文ニ「博奕ヲ爲シ居リタル現場ヲ巡查ニ認メラレ且現場ニ在リタル骨牌ヲ押收セラレタル
 モノナリ」ト掲ケアル以上ハ巡查力賭博ノ現行犯ヲ認メ現行犯ニ對スル手續ヲ盡シタル事實
 明カナルヲ以テ現行犯タルノ理由ニ於テ不備アルコトナシ

殺傷ニ關シテハ刑法第三百九條ノ規定ニ依リ怒ヲ發シタル原因ノ如何ハ宥恕ノ有無ニ關スル
 重要ナル事實ナリトス從テ特ニ怒ヲ發シタル原因ノ不明ナル旨ヲ判示シ其原因ヲ明示セザル
 判決ハ理由不備ナリトス

酒造税法ニ依レハ酒類ノ密造者ハ其造石税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處セラレヘキモノニシテ
 清酒ノ造石税ハ其酒精分ノ二十度以上ナルト以下ナルトニ依リ其稅額ヲ異ニス從テ密造ノ酒
 精分ニ關スル明確ノ證左ナキ爲メ密造酒ノ酒精分二十度以下ノモノト認定シタル判決ハ相
 當ナリ

監守盜罪ノ共犯人ヲ竊盜ノ罪ニ問フニハ監守者カ自己ノ手裡ニ保有セザル金品ヲ自己ノ占有
 ニ移シテ横領シタルノ事實ト共犯人カ其金品横領ノ所爲ニ干與シタルノ事實トヲ具體的ニ判
 文ニ明示スルヲ要ス

私印偽造行使罪ヲ斷スルニ當リ特ニ其印願ヲ調製シテ使用シタルモノナリヤ若クハ既存ノ印
 願ヲ使用シタルモノナリヤヲ明確ニ判示セザル判決ハ不法ナリ

官吏收賄罪ハ官吏カ其職務ノ執行ニ關シ人ノ請託ヲ容レ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル事
 實アルニ因テ成立ス從テ小學校圖書審查委員ニ選任セラレルコトヲ豫想シテ賄賂ヲ授受シタ

三五	三五	三五	三五	三五	三五
七	八	九	九	二	二
五九	五〇	二六	二六	二八	二八
七二	七二	七二	七二	七二	七二
七五二	七五二	七五二	七五二	七五二	七五二
九九八	九九八	九九八	九九八	九九八	九九八

ル場合ニ於テ收受者カ該委員ニ選任セラレタル事實ヲ確定セサル判決ハ理由不備ノ不法アルヲ免レズ

府縣尋常師範學校長ニシテ小學校圖書審査委員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノトシ刑法ヲ適用シテ處斷セシニハ必スヤ右校長カ審査委員會ノ開設ニ當リ其委員ト爲リタルコトヲ判示セサルヘカラス

人ヲ制縛監禁シタル犯人ニ對シ刑法第三百二十三條ヲ適用スルニハ其制縛監禁ノ不法ナル事實關係ヲ具體的ニ明示スルノミチ以テ足レリトシ犯人カ其行爲ノ不法ナルコトヲ認識シタル旨ヲ特ニ判示スルノ要ナシ

府縣視學官ハ小學校令第二十六條ニ依リ當然圖書審査委員タルヘキ資格ヲ有ス從テ其委員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタル行爲アリトシテ刑法第二百八十四條ヲ適用スルニハ特ニ審査委員ニ任命セラレタル事實ヲ判示セサルモ現ニ委員トシテ審査ノ事務ニ干與シタル旨ノ判示アルヲ以テ足レリトス

賭博罪ニ付テハ被告カ偶然ノ事ニ依リ勝敗ヲ決スヘキ方法ヲ以テ金錢ヲ賭シタルコト及ヒ賭事ノ現行中犯罪發覺シタル事實關係ヲ判文ニ指摘スルヲ以テ足レリトシ其勝敗ヲ決スル方法如何ノ如キ詳細ナル事實ハ之ヲ掲載スルコトヲ要セス

數人ノ共毆ニ因ル創傷中最モ重キモノノ爲メ被害者カ疾病休業二十日以上ニ至リタルコトヲ判示セル以上ハ縱令判文ニ掲ケタル數箇ノ創傷中ノ何レカ其重傷ニ該當スルヤヲ說示セサルモ理由不備ノ違法アリト謂フヲ得ズ

宣誓ニ違反シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル證人ニ對シ偽證罪ヲ以テ處斷スルニハ證人カ被告事件ニ關係アル事實ニ付キ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ明示スルヲ以テ足レリトシ其陳述カ被告

事件ノ有罪無罪ニ如何ナル關係ヲ有スルヤノ點ハ特ニ之ヲ説明スルコトヲ要セス

酒精及酒精含有飲料稅法第二條ニ依レハ如何ニ低度ナルモ既ニ酒精分ヲ含有スルモノタル以上ハ必ス一石ニ付キ十六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課スヘキモノトス而シテ該金額ハ法律上一定セル最下額ノ造石稅ナルカ故ニ此稅額ヲ超エサルヘキ場合ニハ判決ニ酒精分ノ一定ノ度數ヲ示スノ要ナシ

官署ノ處分ニ因リ差押物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル場合ニ於テ其差押カ債權者ノ委託ニ基ケルコトハ犯罪ノ構成要件タル事實ニ非サレハ特ニ事實上ノ理由トシテ之ヲ判決ニ明示スルノ要ナシ

酒造稅法ハ酒精分二十度ヲ以テ稅額ヲ定ムル單位ト爲シ二十度ヲ下ルトキハ其度數ノ差ハ毫モ稅額ノ高低ニ關係ナキモノトス故ニ被告カ單位二十度以下ノ酒精分アル濁酒ヲ密造セシ旨ヲ判示シタル以上ハ特ニ證據ヲ舉ケテ其何度ナルヤヲ說明セサルモ不法ニ非ス

酒精及酒精含有飲料稅法違反事件ニ於テ被告カ製造セシ飲料中ニ包含スル純酒精ノ二十箇未滿ナル事實ヲ確定シタル以上ハ從令其箇數ヲ精確ニ指示セサルモ不法ニ非ス

町村ノ收入役カ其管掌ニ係ル歳入出決算表ヲ偽造シ且役場備付ノ金錢受取書ヲ毀棄又ハ變造シタル事實ヲ認メテ之ヲ管掌文書ノ偽造變造毀棄罪ニ問擬スルニハ被告カ當時收入役タリシ事實ハ犯罪構成ノ必要條件ナルヲ以テ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示セサルヘカラス

數人ヨリ包括的ニ金品ノ寄託ヲ受ケタル者カ同一意思ノ發動ノ下ニ之ヲ費消シタルトキハ其所爲ヲ包括シテ一ノ委託物費消罪ヲ構成スルモノトス故ニ此場合ニ於テハ受託者ト寄託者トノ箇箇ノ關係ハ具體的ニ之ヲ判文ニ掲ケルノ要ナシ

三六 11021

三七 11379

三七 11462

三七 11633

三七 11731

三七 11921

三六 12126

三六 11110

三六 11422

三七 11133

三七 11966

三七 12125

三七 11882

事實ト賭博ノ開催者トシテ若干ノ利得ヲ受テヘキ設備ヲ爲シタル事實ト判文ニ摘示スルヲ以テ足り其以外ニ於ケル詳細ノ事實關係ハ必スシモ之ヲ掲載スルコトヲ要セス
 詐欺取財罪ヲ處斷スル場合ニ於テ被告カ其海軍經理部員ヲ欺罔シタルコトヲ判示シタル以上ハ特ニ其部員ノ何人ナルカヲ詳記シテ之ヲ證明セサルモ不法ニ非ス
 官文書偽造罪ニ對スル判決ニ於テ家老郡代ナル封建時代ノ有司ノ職名ヲ掲ケ其偽造ノ目的タル文書ヲ作成スル職務權限ノ所在ヲ明示シタル以上ハ理由不備ノ不法アリト云フヲ得ス
 刑法第三百九十五條前段ノ罪ハ委託ノ旨趣ニ反シ受寄ノ財物ヲ費消スルニ依リテ成立ス從テ寄託者カ受寄者ニ對シ委託金ノ使用ヲ承諾セサル場合ニハ特ニ費消ノ目的物ノ不得替物タルコトヲ判示スルノ要ナシ
 犯人カ盜伐ノ木材ヲ以テ樟腦ヲ製造シタル所爲ハ盜伐罪ノ構成要件ニ非スシテ加重ノ情狀タルニ過キサレハ其場所ヲ判示セサルモ違法ナリト云フヲ得ス
 毆打創傷罪ニ付キ犯人ノ與ヘタル創傷カ被害者ヲシテ疾病休業ニ至ラシメタル日時ノ二十日以上ナルヤ否ヤヲ明示セル上ハ其疾病休業ノ時期ヲ具體的ニ掲ケサルモ違法ニ非ス
 偽造證書ヲ行使シタル場所日時ノ何レナルヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボササレハ縱令判決ニ其場所ヲ判示セサルモ單ニ此一事ヲ以テ破毀ノ理由トスルヲ得ス
 委託金費消罪ヲ斷スルニ當リ被告カ集合セル多數ノ他人ヨリ金員ヲ委託セラレタルコトヲ判定說明シタル以上ハ委託者ノ誰タルヤヲ簡人的ニ一明示セサルモ不法ニ非ス
 刑法總則ノ加減例ハ各犯罪行為ニ對スル各本條ノ刑ヲ加重減輕スルニ當リ其科スヘキ刑及ヒ刑期範圍ヲ定メタルモノトス從テ判文上該規定ニ照シテ刑ヲ加減シタルコト明カナル以上ハ特ニ法條ヲ掲示セサルモ違法ニ非ス

三八	一〇七五
三九	一六
三九	二五九
三九	四〇七
四〇	一一五九
四〇	四六〇
四〇	六三〇
四〇	七〇三
四〇	一一八七

村長カ人ノ請託ヲ容レ村立小學校ノ新築工事ヲ請負ハシムルニ當リ報酬トシテ債務證書ヲ收受シタル事實ノミヲ掲ケ其處分ノ不正ナル事實ヲ明示セスシテ輒ク刑法第二百八十四條第二項ニ間擬シタル判決ハ不法ナリ
 詐欺取財罪ニ付テハ被告カ他人ニ屬スル金品等ヲ騙取シタル事實ヲ判示スルヲ以テ足り其被害者ノ何某ナルヤハ必スシモ之ヲ判決ニ明示スルノ要ナシ
 私署證書偽造行使罪ヲ判定スルニハ被告カ偽造ニ係ル私署證書ヲ他人ニ對シテ行使シタル事實ヲ明示スレハ足り其行使ヲ受ケタル人ノ何某ナルヤハ必スシモ之ヲ判決ニ明示スルコトヲ要セス
 裁判所カ被告ノ犯罪行為ハ輕罪ノ三犯以上ニ係ルコトヲ認メテ其刑ヲ加重スル理由ヲ示スニ當リ唯「各本條ニ一等ヲ加ヘ云云」ト說明シ如何ナル法條ニ依リテ一等ヲ加重シタルヤヲ判示セサルハ不法ナリ
 取引所法違犯罪ヲ處斷スルニ當リ被告カ取引所ノ定期取引ト類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタル事實ヲ判示セル以上ハ特ニ其定期取引ハ如何ナル方法ニ依リテ爲スモノナルヤヲ詳示セサルモ不法ニ非ス
 差押物件脱漏罪ヲ處斷スルニ當リ被告カ執達吏代理ノ假差押ヲ爲シタル物件ヲ他人ニ賣却シ之ヲ脱漏セル事實ヲ判定シタル以上ハ其差押ノ方法如何ヲ說示セサルモ不法ニ非ス
 公訴裁判所カ苛モ刑法第三百三條ノ規定ニ違ヒ沒收ノ處分ヲ爲シタル以上ハ法律理由ノ部ニ同法條ヲ援用セサルモ違法ニ非ス
 町村組合長ニ於テ區長ニ差出シタル辭職届ノ取扱方ニ付キ執務上疑義ヲ生シタル爲メ同書ヲ郡長ニ差出スカ如キハ法令ノ規定ニ依リ組合長ノ職務上當然爲シ得ヘキ行為ニ屬ス故ニ該何

四一	二五八
四一	三七五
四一	四六四
四一	六四二
四〇	二〇〇
四〇	一三三三
四〇	一一〇四

○出廷スルノ義務アリ

○同一裁判所ニ於テ判決言渡ヲ爲シタル後更ニ言渡ヲ爲スヲ得ス

(友對)

公廷ニ於テ裁判言渡ノ後被告人拘束ノ事實アルコトヲ發見シ直ニ其拘束ヲ解キ更ニ式ニ基キ裁判言渡ヲ爲シタル處措ハ違法ニ非ス

○判決ハ裁判所カ事件ニ對スル終局ノ斷定ニ付キ評決ヲ爲シ此評決ヲ表明スヘキ判決書ヲ作成スルト同時ニ成立ス而シテ判決言渡ハ判決以外ニ於ケル一ノ手續ニシテ判決ノ實體ヲ形成スルモノニ非サレハ必スシテ事件ノ審理評決ニ干與シタル判事ノ立會ヲ要セス

(同主旨)

判決ノ言渡ハ判決行爲タル評議及ヒ原本ノ作成ト異ナリ單ニ其公示方法タルニ過キサレハ審問ニ干與セサル判事ト雖モ之ニ干與スルコトヲ得

裁判ナル行爲ト其裁判ヲ外部ニ表示スル行爲トハ之ヲ同一視スヘキモノニ非ス而シテ裁判ヲ爲ス判事ト其言渡ヲ爲ス判事トハ同一ナルコトヲ要スル旨ノ規定ナキヲ以テ裁判ニ干與セサル判事ト雖モ其言渡ニ干與スルコトヲ妨ケス

(友對)

裁判言渡ニ立會フ判事ハ其事件ノ審問及ヒ合議ニ干與シタルモノナルヲ要ス(同一判例二八年一卷一〇八頁)

三四	三四	三六	三七	三七	三七	三六	三六
九四	九四	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
七	七	八	八	八	八	八	八
一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三
七	七	七	七	七	七	七	七
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九
三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七
九七〇	九七〇	九七〇	九七〇	九七〇	九七〇	九七〇	九七〇

○裁判所カ一旦宣告シタル言渡期日ニ判決ヲ言渡サスシテ爾後更ニ辯論再開ノ決定ヲ爲シタルトキハ曩ニ定メタル言渡期日ハ適當ノ時期ニ於テ變更セラレタルモノト認ムルヲ當然トス

(同主旨)

○更ニ審判ヲ開始シタルトキハ曩ニ爲シタル判決言渡期日ノ宣告ハ自ら變更ス

○辯論終結ノ際被告人ニ對シ追テ判決ノ言渡ヲ爲スヘシト告ケタルノミニテ其期日ヲ告ケサリシ場合ニ於テハ後日判決ノ言渡ヲ爲スニ付キ適法ナル期日呼出狀ノ送達ヲ爲ササルヘカラス

○判決言渡ノ期日ニ於テハ更ニ辯論ノ再開ヲ命セサル限り被告ヲシテ供述ヲ爲サシムヘキモノニ非ス

○判決言渡期日ノ如キハ當該訴訟關係人ニ對シテノミ告知スレハ足ルモノナルヲ以テ縱令公開禁止中ニ該告知ヲ爲シタリトスルモ違法ニ非ス

○原判文ニ「刑事訴訟法第二百六十一條二項ニ基キ原裁判中被告ニ關スル部分ヲ取消シ」ト記載シテ之ヲ取消シタルコトヲ判示シアレハ主文ト明記アル所ニ之ヲ記載セサルモ不法ノ判決ト云フヲ得ス

○判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リテ之ヲ爲スモノトス從テ既ニ判決主文ノ朗讀ニ因リ判決ノ言渡ヲ爲シタル以上ハ縱令判決原本ニ違法ノ

四三	四三	二	五	六	二七	二七	二七
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五
三七八	三七八	三七八	三七八	三七八	三七八	三七八	三七八
二九一	二九一	二九一	二九一	二九一	二九一	二九一	二九一
二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九
四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇

點アリテ無効ニ屬スト雖モ爲メニ判決言渡ハ無効ニ歸スヘキモノニ非

○裁判所カ各別ニ審理シタル二箇ノ公訴事件ノ判決ヲ一箇ノ判決書ニ基

○判決主文ヲ朗讀スルモ其理由ヲ告知セサル判決言渡ハ違法ナリトス

○判決ノ理由ヲ判決ノ言渡ト同時ニ朗讀セス又口頭ニテ其要領ヲ告知セサルハ刑事訴訟法第二

百四條第二項ノ規定ニ違背シタル不法ノ判決ナリ

○公判裁判所カ判決ノ言渡ト同時ニ該判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ケサルハ不

法ナリ

(反對) 判決言渡ノ時縱令主文ノミナ言渡シ其理由ノ説明若クハ其要領ノ告知ナキモ既ニ判決原本ノ

具備シアルヲ以テ被告ハ之ニ依リテ上訴ヲモ爲シ又刑ノ執行ヲモ受クルコトヲ得ヘケレハ一

モ被告ニ於テ不利益ノ點アルコトナシ故ニ之ヲ以テ原裁判破毀ノ原由ト爲スコトヲ得ス

○刑事訴訟法第二百四條第二項後段ハ主トシテ公訴判決ノ言渡ニ關シ規

定シタルモノナレハ私訴判決ノ理由ノ如キハ必スシモ其言渡ト同時ニ

之ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ケタルノ要ナキモノトス

(參照) 帳簿ニ詐欺ノ記載ヲ爲シ金員ヲ竊取シタル監守盜事件ヲ判決スルニ當リ其主文ニハ單ニ監守

盜ノ點ハ云々トアルモ帳簿偽造ト竊盜トヲ包含スルコト明カナルトキハ不法ニ非ス

○裁判所カ休暇事件ノ判決言渡ノ爲メ其休暇部ノ成立ヲ休暇以後ニ延長スルモ違法ニ非ス

○判決原本ニ判事ノ署名捺印ハアルモ官印ノ押捺及ヒ書記ノ署名捺印ナ

キトキハ法律ニ違背スルモノトス

○判事書ニ住所身分職業ノ誤記アルモ人違ニ非サル以上ハ瑕瑾ト爲ラス

○犯罪人ノ氏名ニシテ詳ナラサルトキハ之ヲ判文ニ明記セサルモ固ヨリ

不法ニ非ス而シテ特ニ其無能力者タル事實ヲ掲ケサル以上ハ刑法上責

任ヲ有スル能力者ナリト解釋スヘキハ當然ナリ

○認定シタル事實及ヒ適用スヘキ法則ヲ明示スルハ判決ノ形式ナリ

○認定シタル事實ニ對シ法則ニ規定シタル範圍内ニ於テ適當ノ刑ヲ當行

スルハ判決ノ實體ナリ

○判決言渡ニ付キ判決書ト公判始末書ト齟齬スルトキハ公判始末書ニ憑

據スヘキモノトス

三七	二九	三〇	三〇	三二	三三	三三	三三	三三
二九	二七	二〇	二〇	二六	二六	二六	二六	二六
二五	一五	一〇	一〇	一六	一六	一六	一六	一六
一四	一〇	〇	〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第二百五條

裁判所カ休暇事件ノ判決言渡ノ爲メ其休暇部ノ成立ヲ休暇以後ニ延長スルモ違法ニ非ス

○判決原本ニ判事ノ署名捺印ハアルモ官印ノ押捺及ヒ書記ノ署名捺印ナ

キトキハ法律ニ違背スルモノトス

○判事書ニ住所身分職業ノ誤記アルモ人違ニ非サル以上ハ瑕瑾ト爲ラス

○犯罪人ノ氏名ニシテ詳ナラサルトキハ之ヲ判文ニ明記セサルモ固ヨリ

不法ニ非ス而シテ特ニ其無能力者タル事實ヲ掲ケサル以上ハ刑法上責

任ヲ有スル能力者ナリト解釋スヘキハ當然ナリ

○認定シタル事實及ヒ適用スヘキ法則ヲ明示スルハ判決ノ形式ナリ

○認定シタル事實ニ對シ法則ニ規定シタル範圍内ニ於テ適當ノ刑ヲ當行

スルハ判決ノ實體ナリ

○判決言渡ニ付キ判決書ト公判始末書ト齟齬スルトキハ公判始末書ニ憑

據スヘキモノトス

○公訴私訴ノ判決書ハ之ヲ各別ニ作成スルヲ要セス

○公訴私訴同時ニ判決言渡ストキハ同一ノ判決書ニ併記スルモ不法ニ非ス

○審判ニ干與シタル判事ノ署名捺印ハ判決原本ノ要件ナリ

- 判決書ニ審判ニ干與セサル判事ノ署名捺印アルモ何等ノ效力ヲ生セス
- 私訴ノ爲ニ當事者ノ申立ヲ摘示スヘキノ規定ナシ
- 公判始末書ニ記載シタル立會檢事ト判決書ニ記載シタル立會檢事トノ氏名ヲ異ニスル判決ハ刑事訴訟法第二百五條ニ違背シタル不法アルモノトス
- 事件ニ干與シタル檢事ノ官氏名記載ナキ第一審判決原本ハ刑事訴訟法第二百五條ニ違背シタルモノトス從テ其判決ハ第二審ニ於テ之ヲ取消ササルヘカラス
- (同主旨)
- 其事件ニ干與シタル檢事ノ氏名ヲ裁判書ニ記載セサルハ不法ノ判決ナリ
- 地方裁判所判事カ控訴院判事ノ代理ヲ爲シタル場合ニ於テ其判事カ控訴院所屬ノ地方裁判所ノ判事ナルコトハ公知ノ事實ナルヲ以テ特ニ其所屬裁判所ヲ判文ニ明記スルノ必要ナシ
- 判決原本ニ判事ノ氏名ヲ重複ニ記載スルハ違法ニ非ス
- 法定代理人ハ民法上一種ノ代理人ナリト雖モ訴訟上法定代理人タル資格ニ於テ之ヲ當事者トシテ表示スルモ妨ナシ
- 判決書ニ原籍若クハ住所地ヲ肩書トシテ記載スルハ其人違ナキコトヲ

三五	三四	二七	三四	三三	三三
二	二四	二	三	三	三
二九	八八	二六	一九	四七	二六

表明スル爲メナレハ人違ニ非サル以上ハ肩書ノ文字ニ相違アレハトテ之カ爲メ原判決ニ瑕疵アリトスルヲ得ス

- 刑事訴訟法第二百五條ノ「事件ニ干與シタル檢事」トハ審理又ハ判決言渡ニ干與シタル檢事ノ謂ナリトス從テ判決原本ニ言渡ニ干與シタル檢事ノ官氏名記載アル以上ハ審理ニ干與シタル檢事ノ官氏名記載ナキモ違法ニ非ス

(同主旨)

- 判決ノ原本ニ記載スヘキ檢事ハ其事件ニ干與シタル檢事ニテ特ニ辯論ニ立會ヒタル檢事ニ限ラス
- 判決書ニ其判決言渡ニ立會ヒタル檢事ノ氏名ヲ記載シアル上ハ辯論ニ立會ヒタル他ノ檢事ノ氏名ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス
- 判決原本ニ言渡ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ヲ記載シタル上ハ辯論ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ヲ記載セサルモ違法ニ非ス
- 檢事ハ同一體ナルヲ以テ被告事件ノ審理判決ニハ單ニ檢事ノ立會アルノミヲ以テ足レリトシ其審理判決ニ干與シタル者ノ甲檢事タルト乙檢事タルトハ事件ノ審理ニ何等ノ影響ヲ及ボサス從テ數名ノ檢事カ前後同一事件ノ審理ニ干與シタル場合ト雖モ單ニ其中一名ノ官氏名ヲ判決書ニ記載スルヲ以テ足ルモノトス

三五	二七	二八	三五	三五	三五
九	二	二	九	三	三
一五六	四九六	一〇〇	一〇四	一五六	一五六

モノニ非ス

○被告事件ノ公判ニ干與シタル裁判所書記ハ其判決言渡ニ立會セサルモ判決原本ニ署名捺印スルコトヲ得

(同主旨)

判決原本ニ署名捺印スヘキ書記ハ其事件ニ干與セシ者ナルヲ以テ足レリトシ必スシモ判決ノ言渡ニ立會シタル書記ナルコトヲ要セス

判決原本ニ署名捺印スヘキ書記ハ其事件ニ干與セシ者ナルヲ以テ足リ必スシモ判決ノ言渡ニ立會ヒタル裁判所書記ニ於テ之ニ署名捺印スルコトヲ要セス

(反對)

判決原本ニ署名スヘキ裁判所書記ハ其判決言渡ニ立會シタル者ナルコトヲ要ス

○判決原本ニ事件ニ干與シタル検事ノ官氏名ヲ記載シアル以上ハ刑事訴訟法第二百五條ノ要求ヲ充タシタルモノナレハ會、該検事以外ニ事件ニ干與セサル検事ノ官氏名ヲ掲記シタリトスルモ無用ノ記載タルニ止

○刑事訴訟法上當事者ノ表示ニ付キ格段ノ形式ヲ定メサルヲ以テ判決全體ニ依リ當事者ノ何人ナルカヲ明認シ得ラルルニ於テハ當事者ハ表示

セラレタルモノト認ムルヲ相當トス

○合議裁判所ノ判決書ハ合議員タル關係各判事カ共同シテ作成スヘキモノナルカ故ニ苟モ右關係判事タル以上何人ニテモ適法ニ之ヲ削除ノ手續ヲ爲シ得ヘク必スシモ主任判事ニ於テノミ之カ削除ノ手續ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス

○第一審判決書ニ記載セル裁判ノ年月日カ公判始末書所載ノ判決言渡ノ年月日ト相異ナルトキハ同判決書ハ判決作成ノ手續規定ニ違背シタル不法ノモノナルヲ以テ第二審裁判所ハ此點ニ於テ第一審判決ヲ取消ササルヘカラス

(反對)

○公判始末書ト判決原本ト裁判宣告ノ日附ナ異ニスルモ謄記タルコト明白ナルトキハ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百五條ハ公訴判決及ヒ私訴判決ヲ通シテ其適用アルモノナレハ私訴判決ニ事件ニ干與シタル検事ノ官氏名ヲ掲ケサルハ違法ナリ

○訴訟手續竝ニ本案ノ事實ニ於テ交互密接ノ關係アル事案ナルトキハ裁判所ハ數名ノ被告人ニ對スル判決ニ付キ一通ノ判決原本ヲ作成スルモ

元	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

- 公判始末書ニ通常筆記スヘキ事項ヲ便宜上印刷ニ付シ筆記ニ代用スルモ不法ニ非ス
- 公判手續ニ關スル評決ハ必スシモ公判始末書ニ記載スヘキモノニ非ス
- 判決ヲ以テ公判始末書ニ於ケル記事ヲ誤謬ナリト認定スルコトヲ得
- 訊問辯論ノ文字ニハ合議ヲ包含セス
- 併合審理ノ事件ニ於ケル公判始末書ハ各件ヲ通シテ作成スルヲ以テ足レリトシ必スシモ各件毎ニ合綴スルヲ要セス
- 罰金ニ該ルヘキ輕罪事件ニ付テハ公判始末書ニ被告ノ身體ニ拘束ヲ受ケタルコトナキ旨ノ記載ヲ要スヘキモノニ非ス
- 合議ノ事實ハ公判始末書ニ記載スルノ必要ナシ
- 公判開廷ノ都度各別ニ公判始末書ヲ作成シタルトキハ前回公判始末書ト後回公判始末書トノ間ニ契印ヲ押捺スルノ必要ナシ
- 公判始末書ニ瑕瑾アリテ判決ノ當否ヲ審査スルニ由ナキトキト雖モ一件記録中判決原本存在シ且闕席判決ノ告知ニ依リ故障ヲ申立テタル事實アレハ判決ナキモノト云フヲ得ス
- 始末書ヲ整頓シタル裁判所書記ノ署名アルモ書記カ辯論ニ立會ヒタルコトヲ記載セサル公判始末書ハ無効ナリ

二九	三〇	三〇	三二	三三	三三	三四	三四
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	二	二	六	一〇	一〇

- 被告ニシテ保釋中ノ者ナルトキハ公判始末書ニ特別ノ記載ナキ以上ハ公判廷ニ於テモ拘束ヲ受ケサリシモノナルコト明カナリトス
- 公判始末書ニ檢事ハ豫審終結決定書ノ記載ニ於ケルト同一ニ事實關係ヲ陳述シタル旨ノ記載アルモ豫審ヲ經サル事件ニシテ決定書存在セサルトキハ此記載ヲ以テ檢事カ被告事件ヲ陳述シタルノ證ト爲スコトヲ得ス
- 一通ノ公判始末書ノ冒頭ニ被告人身體ノ拘束ヲ受ケタルコトナク出廷シタル旨ノ記載アル以上ハ縱令開廷ハ數回ニ涉ルトキト雖モ其記載ハ全體ニ通スルモノトス
- 公判ニ出廷シタル辯護人ノ氏名ハ之ヲ公判始末書ニ記載スヘシトノ規定アルコトナシ從テ單ニ辯護人出廷セリトノミ記載シ其氏名ヲ明記セサルモ違法ニ非ス
- 公判ノ辯論竝ニ判決ニ付キ一通ノ始末書ヲ作成シタル場合ニ於テハ其各部相共ニ一ノ始末書ヲ形成スルモノナレハ苟モ其重用ナル部分ニ違法ノ點アルトキハ該始末書ノ全部ヲ無効タラシムルモノトス
- 如上ノ場合ニ於テ其始末書ニ記載セラレタル鑑定ハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得ス

三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
五	九	九	九	九	九	九	九
八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八

○書類ノ空白ニ關シテハ刑事訴訟法上別段ノ規定ナキヲ以テ空白ニ依リ
 ○離隔セラレル前後ノ記載ノ連絡ヲ表示スル爲メ特ニ外形的ノ符徴ヲ施
 ○ササルモ書類上其記載カ互ニ相連續シテ一體ヲ爲スコトヲ認識シ得ル
 ○以上ハ之ヲ有效ト爲スヘキモノトス

(同主旨) 刑事訴訟法中空白ヲ存シタル調書ハ當然無効ナル旨ノ特別規定アルコトナシ從テ公判始末書
 ○空白アルハトテ爲メニ其調書ノ效力ヲ失フモノニ非ス

○訴訟記録トハ訴訟ニ關スル一切ノ記録ヲ包含スルモノニシテ必スシモ
 ○法律ノ規定ニ從ヒ作成シタルモノニ限ルニ非ス
 ○裁判所カ刑事訴訟法第九十七條第二項ノ規定ニ違反シ退廷セル共同
 ○被告人ニ相被告ノ供述事項ヲ告知セサルハ不法ナレトモ公判始末書其
 ○モノハ之カ爲メ全然無効ニ歸スヘキモノニ非スシテ唯其退廷中相被告
 ○カ爲シタル供述ノ部分ノミ共同被告人ニ對シテ無効ナルニ過キス

○裁判所書記カ公判始末書ノ中間ニ鑑定書ヲ綴込ミタル場合ト雖モ該鑑
 ○定書ニハ每葉鑑定人ノ契印ヲ施シ且其始末書ニ接續スル首尾各葉トニ
 ○書記ノ契印存スル以上ハ縱令鑑定書ノ各葉ニ其契印ナキモ該始末書ヲ
 ○目シテ無効ナリト云フヲ得ス

三七	七九四
三五	一四三
三六	二
三六	五七
四一	八九五

○公判始末書ハ公文書ナルヲ以テ縱令被告事件カ事務分配ノ都合ニ依リ
 ○地方裁判所支部ヨリ本廳ニ移サレタル場合ニ於テモ一旦適法ニ成立シ
 ○タル該文書ハ無効ニ歸スヘキモノニ非ス

○第一審公判始末書中判決言渡ノ部分ニ於ケル裁判長署名ノ下部燒損シ
 ○タルカ爲メ該判決手續ノ適法ナルヤ否ヤヲ認メ難キ場合ト雖モ其言渡
 ○アリタル事實カ被告ノ控訴申立書及ヒ第一審裁判所檢事正ノ控訴事件
 ○送致書等ニ徴シテ明確ナル以上ハ該始末書ノ無効ナル故ヲ以テ直ニ言
 ○渡ナカリシモノト云フヲ得ス

○裁判官及ヒ原告官カ辯護人ヨリ公廷ニ提出セシ證據物件ヲ實見シタル
 ○事實ハ之ヲ公判始末書ニ掲載スルコトヲ要セサレハ其掲載ナキ一事ヲ
 ○以テ該手續ニ違法アリト云フヲ得ス

(同主旨) 受訴裁判所ヲ組織スル判事及ヒ檢事カ被告人又ハ其辯護人ヨリ公廷ニ提出セシ證據ノ調査ヲ
 ○爲シタルヤ否ヤハ公判始末書ニ記載シテ明確ニスヘキモノニ非サレハ反對ヲ認ムヘキ事跡存
 ○セサル以上ハ適法ニ其調査ヲ爲シタルモノト推定セサルヘカラス

○公判始末書ニ辯護人カ被告ノ爲メ證人ノ訊問ヲ申請シタル旨及ヒ裁判
 ○所カ其申請ヲ却下スル決定ヲ言渡シタル旨ノ記載アル以上ハ證據調申

四三	一一二
四三	二〇
四三	一一三
四二	一八四三

請ノ理由竝ニ該申請却下ノ理由ヲ詳記セサルモ違法ニ非ス

四三

九二八

○裁判所書記カ公判始末書ヲ作成スルニ當リ其末尾裁判長及ヒ書記署名捺印ノ後ニ裁判長ハ辯護人ノ提出シタル書類ヲ陪席判事竝ニ檢事ト順次檢閲ノ上還付セシ旨ヲ掲載スルモ其附記ハ書記ノ權限内ニ屬セサルヲ以テ無効ナリトス

四三

二九二

○公判始末書ハ刑事訴訟法第二百八條ニ遵據シテ其記載ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ辯論中ニ於ケル附帶控訴ニ付テハ唯該始末書ノ記載ヲ以テ其申立アリタルコトヲ明確ニスレハ足ルモノトス

四三

一九五九

○被告ノ代理人ニ對シ其氏名年齢身分等ヲ問查スルハ公判手續上ノ要件ニ非サルノミナラス其訊問ヲ爲シタル旨ヲ記載スルコトモ亦公判始末書作成ノ要件ニ屬セス

四四

九六

○被告ノ利益ノ爲メ取寄セタル書類ノ如キハ之ヲ公判ニ顯出スルヲ以テ足り特ニ被告ノ答辯辯解ヲ徵スルノ要ナキモノナレハ縱令公判始末書ニ之カ記載ヲ缺クト雖モ之ヲ以テ證據決定ヲ適法ニ履踐セサルモノト云フヲ得ス

四四

一八九一

○訴訟手續ノ遵守ニ關スル判決書ノ記載カ正確ナルヤ否ヤハ惟リ公判始末書ニ依リテノミ證明シ得ヘキモノナレハ公判始末書ニ立會檢事ノ何

人ナルヤヲ知ルヲ得ヘキ錄取ヲ缺ク以上ハ該判決ハ訴訟手續ニ瑕瑾アル不法ノ裁判ナリトス

四五

九二〇

○第一回ヨリ第三回ニ亘ル公判手續ヲ一通ノ文書ニ記載シタル場合ニ於ケル公判始末書末尾ノ年月日及ヒ場所ノ記載應印竝ニ裁判長及ヒ書記ノ署名捺印ハ該始末書全部ニ通スルモノナレハ縱シヤ該始末書中第三回公判ニ關スル部分カ無効ナリトスルモ第一回及ヒ第二回公判ニ關スル部分ニ付キ之ヲ缺如スルモノト云フヲ得ス

元

二四二

○公判始末書ニ被告人ハ辯護人ト共ニ出廷シタリトノミ記載シアリテ公廷ニ於テ拘束ヲ受ケサリシ事實ノ明記ナキ以上該公判手續ハ適法ニ行ハレタルモノト云フヲ得ス

二

三七八

○豫審判事カ刑事訴訟法第二百二十四條ノ各事項ヲ調査スルモ其之ヲ調査スルニ付キ訊問其他外顯ノ方法ヲ採ラサリシ場合ニ在テハ裁判所書記ニ於テ其調査ノ内容ヲ知ル能ハサルヲ以テ公判始末書中同事項ヲ調査シタル旨ノ記載ナキヲ理由トシテ之ヲ調査セサルモノナリト論斷スルヲ得ス

二

六九二

○被告事件ノ審理カ何時行ハレタリヤハ唯リ公判始末書ノ記載ヲ以テ之ヲ證明スヘキモノナルヲ以テ公判始末書自體ニ依リ右審理ノ日時カ認

- 得ヘカラサルトキハ該始末書ハ無効ナルニ依リ探テ以テ犯罪事實認
- 定ノ資料ニ供スルヲ得ス
- 被告人カ不勾留ノ儘審判ヲ受ケタルモノナルトキハ判決言渡期日ニ於
- テモ任意ニ出廷シタルモノト認メ得ヘキヲ以テ公判始末書中特ニ身體
- ノ拘束ヲ受ケサル旨ノ記載ナシトスルモ其審判ヲ以テ違法ナリト爲ス
- ヲ得ス
- 公判始末書ハ裁判所書記之ヲ整頓シ記録ニ添附スルニ因リテ完結スル
- ヲ以テ其以前ニ於テ爲シタル訂正ハ有効ナレトモ其以後ニ於テ爲シタ
- ルモノハ無効ナリトス
- 友對 未書ニ被告人ハ辯護人ト共ニ出頭スルニ依リテ其辯護人ト共ニ公
- 公判始末書ハ現ニ實踐セラレタル公判ノ手續ヲ證明スヘキ具ナルカ故ニ事實ノ誤謬アルコト
- ヲ發見シタルトキハ當該官吏ニ於テ之ヲ訂正スルヲ妨ケス
- 第三回公判始末書ト第四回公判始末書トノ間ニ一葉ノ宣誓書介入スル
- モ契印ノ存スル以上ハ之ニ因リ連絡セラレテ一通ノ文書ヲ組成スルモ
- ノナルヲ以テ作成ノ年月日及ヒ場所ノ記載竝ニ裁判長裁判所書記ノ署
- 名捺印及ヒ廳印ノ押捺ハ其末尾ニ存スルノミヲ以テ足ルモノトス
- 公判廷ニ於テ或物體ヲ實驗スルカ如キ證據調ヲ爲スニハ檢證調書ヲ作

二	二九三
二	二九二
二	二九一
三	二九〇
三	二八七
三	二八五
三	二八四
三	二八三
三	二八二
三	二八一
三	二八〇
三	二七九
三	二七八
三	二七七
三	二七六
三	二七五
三	二七四
三	二七三
三	二七二
三	二七一
三	二七〇
三	二六九
三	二六八
三	二六七
三	二六六
三	二六五
三	二六四
三	二六三
三	二六二
三	二六一
三	二六〇
三	二五九
三	二五八
三	二五七
三	二五六
三	二五五
三	二五四
三	二五三
三	二五二
三	二五一
三	二五〇
三	二四九
三	二四八
三	二四七
三	二四六
三	二四五
三	二四四
三	二四三
三	二四二
三	二四一
三	二四〇
三	二三九
三	二三八
三	二三七
三	二三六
三	二三五
三	二三四
三	二三三
三	二三二
三	二三一
三	二三〇
三	二二九
三	二二八
三	二二七
三	二二六
三	二二五
三	二二四
三	二二三
三	二二二
三	二二一
三	二二〇
三	二一九
三	二一八
三	二一七
三	二一六
三	二一五
三	二一四
三	二一三
三	二一二
三	二一一
三	二一〇
三	二〇九
三	二〇八
三	二〇七
三	二〇六
三	二〇五
三	二〇四
三	二〇三
三	二〇二
三	二〇一
三	二〇〇
三	一九九
三	一九八
三	一九七
三	一九六
三	一九五
三	一九四
三	一九三
三	一九二
三	一九一
三	一九〇
三	一八九
三	一八八
三	一八七
三	一八六
三	一八五
三	一八四
三	一八三
三	一八二
三	一八一
三	一八〇
三	一七九
三	一七八
三	一七七
三	一七六
三	一七五
三	一七四
三	一七三
三	一七二
三	一七一
三	一七〇
三	一六九
三	一六八
三	一六七
三	一六六
三	一六五
三	一六四
三	一六三
三	一六二
三	一六一
三	一六〇
三	一五九
三	一五八
三	一五七
三	一五六
三	一五五
三	一五四
三	一五三
三	一五二
三	一五一
三	一五〇
三	一四九
三	一四八
三	一四七
三	一四六
三	一四五
三	一四四
三	一四三
三	一四二
三	一四一
三	一四〇
三	一三九
三	一三八
三	一三七
三	一三六
三	一三五
三	一三四
三	一三三
三	一三二
三	一三一
三	一三〇
三	一二九
三	一二八
三	一二七
三	一二六
三	一二五
三	一二四
三	一二三
三	一二二
三	一二一
三	一二〇
三	一一九
三	一一八
三	一一七
三	一一六
三	一一五
三	一一四
三	一一三
三	一一二
三	一一一
三	一一〇
三	一〇九
三	一〇八
三	一〇七
三	一〇六
三	一〇五
三	一〇四
三	一〇三
三	一〇二
三	一〇一
三	一〇〇
三	九九
三	九八
三	九七
三	九六
三	九五
三	九四
三	九三
三	九二
三	九一
三	九〇
三	八九
三	八八
三	八七
三	八六
三	八五
三	八四
三	八三
三	八二
三	八一
三	八〇
三	七九
三	七八
三	七七
三	七六
三	七五
三	七四
三	七三
三	七二
三	七一
三	七〇
三	六九
三	六八
三	六七
三	六六
三	六五
三	六四
三	六三
三	六二
三	六一
三	六〇
三	五九
三	五八
三	五七
三	五六
三	五五
三	五四
三	五三
三	五二
三	五一
三	五〇
三	四九
三	四八
三	四七
三	四六
三	四五
三	四四
三	四三
三	四二
三	四一
三	四〇
三	三九
三	三八
三	三七
三	三六
三	三五
三	三四
三	三三
三	三二
三	三一
三	三〇
三	二九
三	二八
三	二七
三	二六
三	二五
三	二四
三	二三
三	二二
三	二一
三	二〇
三	一九
三	一八
三	一七
三	一六
三	一五
三	一四
三	一三
三	一二
三	一一
三	一〇
三	〇九
三	〇八
三	〇七
三	〇六
三	〇五
三	〇四
三	〇三
三	〇二
三	〇一

- 成スルコトヲ要セサルハ勿論公判始末書ニ裁判所ノ實驗ニ因リテ得タ
- ル判斷ノ結果ヲ記載セシムヘキモノニ非ス
- 檢事カ被告ニ對シ一ノ犯罪ニ付キ既ニ適法ナル公訴ヲ提起シ公判開廷
- セラレタル場合ニ於テ新ナル公訴事實ヲ追加セントスルニ當リ必ス
- シモ更ニ新ナル起訴狀ヲ提出スルコトヲ要セス認廷ニテ其追訴ノ事實
- ヲ陳述シ公判始末書ヲ以テ之ヲ明確ニスルハ足ルモノトス
- 證人カ刑事訴訟法第二百二十三條ニ該當スルヤ否ヤヲ取調フルニ當リ被
- 告ノ氏名及ヒ犯罪事實ヲ告知シタルコトハ公判始末書ニ記載スヘキ事
- 項ニ非サレハ其記載ナキ故ヲ以テ之ヲ告知セサリシモノト云フヲ得ス
- 契印ヲ缺ケル公判始末書ハ無効ナルモ其記載ニシテ事實上存續セル限
- ハ他ノ書類ノ新ナル記載ニ代ヘテ之ヲ援用スルハ妨ナキモノトス
- 同案 被告事件ニ付キ審理ヲ更新セル場合ニ其公判始末書ニ於テ前回公判始末書ノ記載ヲ引用シタ
- ルトキハ前回公判始末書ノ法律上ノ效力如何ヲ論セズ現ニ引用事項ノ記載アル以上ハ後回ノ
- 公判始末書中ニモ亦同一ノ記載アルモノト謂ハサルヘカラス
- 被告事件ニ付キ審理ヲ更新シタル場合ニ其公判始末書ニ於テ前回公判始末書中ノ記載ヲ引用
- シタルトキハ前回始末書ノ法律上ノ效力如何ヲ論セス現ニ引用セラレタル事項ノ記載アル以
- 上ハ後回ノ始末書ニモ亦同一ノ記載アルモノト謂ハサルヘカラス

三	二〇〇
三	一九九
三	一九八
三	一九七
三	一九六
三	一九五
三	一九四
三	一九三
三	一九二
三	一九一
三	一九〇
三	一八九
三	一八八
三	一八七
三	一八六
三	一八五
三	一八四
三	一八三
三	一八二
三	一八一
三	一八〇
三	一七九
三	一七八
三	一七七
三	一七六
三	一七五
三	一七四
三	一七三
三	一七二
三	一七一
三	一七〇
三	一六九
三	一六八
三	一六七
三	一六六
三	一六五
三	一六四
三	一六三
三	一六二
三	一六一
三	一六〇
三	一五九
三	一五八
三	一五七
三	一五六
三	一五五
三	一五四
三	一五三
三	一五二
三	一五一
三	一五〇
三	一四九
三	一四八
三	一四七
三	一四六
三	一四五
三	一四四
三	一四三
三	一四二
三	一四一
三	一四〇
三	一三九
三	一三八
三	一三七
三	一三六
三	一三五
三	一三四
三	一三三
三	一三二
三	一三一
三	一三〇
三	一二九
三	一二八
三	一二七
三	一二六
三	一二五
三	一二四
三	一二三
三	一二二
三	一二一
三	一二〇
三	一一九
三	一一八
三	一一七
三	一一六
三	一一五
三	一一四
三	一一三
三	一一二
三	一一一
三	一一〇
三	一〇九
三	一〇八
三	一〇七
三	一〇六
三	一〇五
三	一〇四
三	一〇三
三	一〇二
三	一〇一
三	一〇〇
三	九九
三	九八
三	九七
三	九六
三	九五
三	九四
三	九三
三	九二
三	九一
三	九〇
三	八九
三	八八
三	八七
三	八六
三	八五
三	八四
三	八三
三	八二
三	八一
三	八〇
三	七九
三	七八
三	七七
三	七六
三	七五
三	七四
三	七三
三	七二
三	七一
三	七〇
三	六九
三	六八
三	六七
三	六六
三	六五
三	六四
三	六三
三	六二
三	六一
三	六〇
三	五九
三	五八
三	五七
三	五六
三	五五
三	五四
三	五三
三	五二
三	五一
三	五〇
三	四九
三	四八
三	四七
三	四六
三	四五
三	四四
三	四三
三	四二
三	四一
三	四〇
三	三九
三	三八
三	三七
三	三六
三	三五
三	三四
三	三三
三	三二
三	三一
三	三〇
三	二九
三	二八
三	二七
三	二六
三	二五
三	二四
三	二三
三	二二
三	二一
三	二〇
三	一九
三	一八
三	一七
三	一六
三	一五
三	一四
三	一三
三	一二
三	一一
三	一〇
三	〇九
三	〇八
三	〇七
三	〇六
三	〇五
三	〇四
三	〇三
三	〇二
三	〇一

○公判ニ於テ訊問シタル證人又ハ參考人ノ供述ニ付キ被告人ノ意見ノ有無ヲ問ハサルモ其公判始末書ハ有效ナルノミナラス該供述モ無効ニ非ス止タ其訊問ヲ爲シタル裁判所ニ於テハ證據調手續ニ違法ノ點アルヲ以テ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得サルモノトス

○公判ニ立會ハサル書記ハ公判始末書ヲ作成スル權限ナケレハ其權限ナキ書記ノ作成シタル公判始末書ハ無効ナリ

(同主旨)

公判ニ立會ハサル裁判所書記カ作製整頓シタル始末書ハ無効ナリ

公判始末書ハ公判ニ立會ヒタル裁判所書記ニ限り之ヲ作成スヘキ權限ヲ有スルモノトス從テ

(反對)

公判ニ立會シタル書記ト公判始末書ヲ整頓シタル書記トハ必スシモ同一ナルヲ要セス

○絶對的ニ公開ヲ必要トスル判決言渡ノ手續ニ付テハ其公開ノ事實ヲ公判始末書ニ記載スルコトヲ要スルモノニシテ其記載ナキトキハ判決ハ

不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○記録ニ依リ代人ノ何人ナルカヲ知り得ヘキ場合ニハ縱令公判始末書ニ其氏名ノ記載ナシト雖モ之カ爲メ其公判手續ヲ無効ト爲スキモノニ非

六	三九	四〇	三九	六	六
六	三九	四〇	三九	六	六
二九	五七	一六五	一三二	四六一	四五七
二九	五七	一六五	一三二	四六一	四五七

ス

○公判廷外ニ於テ事件ノ併合分離ニ關スル合議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ公判始末書ニ記載スヘキモノニ非サレハ公判始末書ノ記載ノミニ依リ事件ノ併合分離ノ言渡ニ付キ合議ナカリシモノト斷定スルコトヲ得サルモノトス

○公判始末書ニ辯論ヲ公行シタル旨ノ記載ナキトキハ其辯論ハ果シテ公行セラレタルヤ否ヤヲ確認スルニ由ナケレハ結局違法ノモノタルヲ免

レス故ニ該辯論ニ基キテ爲シタル判決モ亦違法ナリ

○公判始末書ニ要旨左ノ如シト記シ被告ノ陳述シタル事項ヲ一一記載シアリテ其問答ノ始末自ラ明瞭ナルトキハ不法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百八條第二號ノ規定ハ必スシモ被告ニ對スル一問毎ニ一答ヲ明記スヘキ律意ニ非サレハ各訊問事項ニ對スル被告ノ供述ヲ總括シテ記載スルモ其問答ノ旨趣明瞭ナル以上ハ審理手續ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○刑事訴訟法第二百八條第二號ニ所謂「其供述」トハ同第二百十九條第一項ノ判事ノ訊問ニ對スル被告人ノ供述ヲ謂フモノニシテ同第二百二十條第三項所定ノ辯論ニ關スル最終ノ供述ヲ包含スルモノニ非ス

六	三七	三四	三七	六	一四九
六	三七	三四	三七	六	一四九
四七	一九〇	一六三	一	四七二	四七二
四七	一九〇	一六三	一	四七二	四七二

○(同主旨) 刑事訴訟法第二百八條第二號ニ所謂被告人ノ供述トハ裁判長ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ヲ指示セルモノトス從テ同法第二百二十條第三項所定ノ辯論ニ關スル最終ノ供述ノ如キハ之ニ包含スルコトナシ而シテ此最終ノ供述ニ付テハ其内容ヲ記載スヘキコトヲ命シタル規定ナクハ縱令公判始末書ニ該供述ノ内容ヲ記載セサルモ違法ニ非ス

○公判始末書ニ證人ニ宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ記載ナキハ公判始末書作成ノ規定ニ違背シタルモノトス然レトモ公判始末書ニ宣誓書ノ添附アル以上ハ其記載ナキノ一事ヲ以テ直ニ證人ニ宣誓ヲ爲サシメサリシモノト云フヲ得ス

○公判ニ於ケル鑑定人ノ供述ハ公判始末書ニ之ヲ記載スヘキモノニシテ常ニ鑑定書ヲ作成スルノ必要ナキモノトス

○公判始末書ニ掲ケラレタル證人ノ供述ハ人證ニシテ書證ニ非ス
○公判ニ於ケル證人訊問ニ付テハ特ニ調書ヲ作成スヘキモノニ非スシテ其供述ハ刑事訴訟法第二百八條第三號ニ依リ之ヲ公判始末書ニ記載スヘキモノトス

(同主旨)

○公判廷ニ於テ訊問スル證人ノ供述ニ付テハ別ニ調書ヲ作成スルヲ要セス
○公判廷ニ於ケル證人ノ訊問ハ直ニ其供述ヲ採用スヘキモノニシテ其供述ハ單ニ公判始末書ニ記載スルニ止マリ別ニ調書ヲ作成スルヲ要セス

三六	三七	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

第二百八

○記載スルニ止マリ別ニ調書ヲ作成スルヲ要セス
○公判廷ニ於ケル證人ノ陳述ハ單ニ公判始末書ニ記載スルニ止マリ豫審ニ關スル法則(刑事訴訟法第三百一十一條)ヲ履踐シ別ニ調書ヲ作成スルヲ要セス
○公判廷ニ於ケル證人ノ供述ハ公判始末書ニ記載スヘキモノニシテ特ニ調書ヲ作成スヘキモノニ非ス而シテ其供述ハ之ヲ證人ニ讀聞カスヲ要セス

○刑事訴訟法第二百八條第三號ノ旨趣ニ於テ裁判所書記ニ於テ證人ノ供述ヲ公判始末書ニ明確ニ記載スルコトヲ要求スルニ在リト雖モ事實證人ノ供述ニシテ其要領ヲ得サルニ於テハ其旨ヲ記載スルモ違法ニ非ス

○通事ノ供述ヲ公判始末書ニ錄取シタル場合ト雖モ證人ノ供述ヲ之ニ錄取シタルトキト同シク通事ニ之ヲ讀聞ケ署名捺印セシムヘキモノニ非ス

○刑事訴訟法第二百八條第四號ノ規定ハ公判廷ニ顯出シ被告ノ辯解シタル證據物件ハ之ヲ公判始末書ニ記載セシムルノ旨趣ナリトス從テ被告事件ニ付キ押收シタル證據物件カ公判開廷前火災ノ爲メ燒失シタル場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

○公判廷ニ於テ被告人ノ利益ノ爲メニ辯護人ヨリ提出セル證據物件ニ付キ其説明ヲ聽キタル以上ハ證據調ノ手續ハ完了セルモノトス而シテ其

三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

種類點數ノ如キハ之ヲ公判始末書ニ記載セサルモ違法ニ非ス

○辯論中公判手續ニ付キ異議ノ申立アリタル場合ノ手續ハ刑事訴訟法第百九十九條ノ規定スル所ナレハ公判始末書中之カ反對ノ記載ナキ以上ハ裁判所ニ於テ該手續ヲ履行シタルモノト認ムルヲ相當トス

○公訴ノ辯論ハ私訴ノ審理ニ著手シタル後ニ於テモ之ヲ爲シ得ヘキモノトス從テ裁判所カ私訴ノ審理ヲ終結セントスルニ當リ被告ヲシテ公訴ニ付キ最終ノ陳述ヲ爲サシムルハ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百八條第六號ハ被告人自身ヲシテ最終ニ供述セシメタル場合ノ外辯護人ヲシテ最終ニ供述セシメタル場合ニ於テハ亦其旨ヲモ記載スヘシトノ趣意ヲ包含スルモノトス

〔同主旨〕

刑事訴訟法第二百八條第六號ノ規定ハ辯護人カ最終ノ辯論ヲ爲シタル場合ナモ包含スルモノトス

刑事訴訟法第二百八條第六號ニ所謂被告人ノ最終ノ供述中ニハ同法第二百二十條第二項但書ニ依リ辯護人カ被告人ノ爲メニ爲シタル最終ノ供述ヲモ包含スルモノトス

〔第二百九條〕

○裁判所構成法(第三十六條第二號)ニ從ヒ地方裁判所判事カ控訴院判事

五	一一七
四三	五五一
四	八七三
四	九三三
四三	一八〇一
四	二二六〇

ヲ代理シタル場合ニ於テ公判始末書等ニ代理ノ肩書ナキモ不法ニ非ス

○公判始末書ニ檢事ノ氏名記載ナキトキハ檢事ノ立會アリシヤ否ヤ明確ナラスシテ受命判事ノ作リタル檢證調書ハ適法ニ構成セラレタル裁判所ニ於テ爲シタル決定ニ基キタルモノト認メ難シ從テ其檢證調書ハ違法ナリ

○刑事訴訟法第二百九條第一項ハ裁判長又ハ陪席判事ト爲リ裁判ニ干與セル判事ヲ明記スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ何人カ裁判長若クハ陪席判事タルヤノ文字ヲモ附記スルコトヲ要ストノ旨趣ニ非ス

○公判始末書ニ檢事氏名ノ記載ナキニ於テハ法律ノ要求セル立會檢事ノ官氏名ノ記載ナキニ等シク其判決ハ適法ナル裁判構成ノ下ニ言渡サレタリヤ否ヤヲ認識スルニ由ナキヲ以テ破毀セラレヘキモノトス

〔同主旨〕

公判始末書ニ立會檢事ノ氏名ヲ記載セサルトキハ原判決ハ破毀スヘキモノトス

○公判ニ立會ヒタル裁判所書記ノ氏名ノ記載ヲ缺如スル始末書ハ刑事訴訟法第二百九條ノ規定ニ違背シタル無効ノモノナリトス

○公判始末書ニ出廷シタル警部ノ官氏名ヲ掲ケタルノミニシテ檢事事務取扱者トシテ立會シタル記載ナキトキハ其公判ニ檢事カ立會シタルヤ

三四	一〇	六二
三五	二	九三
三七	八二	
二	九八〇	
三三	一〇	二七
三	一五七七	

否ヤ明確ナラサルヲ以テ違法ナリト謂ハサルヲ得ス從テ同公判始末書ハ無効ナリ

○檢事ノ官ニ在ラサル者カ檢事ヲ代理シテ公判ニ立會ヒタルトキハ單ニ其者ノ官制上於ケル固有ノ資格ト共ニ檢事代理ヲ揭ケ又ハ單ニ檢事代理ト揭ケテ氏名ヲ記載スルモ法令ニ依リ檢事ヲ代理スル有資格者タルコトヲ認メ得ヘキヲ以テ刑事訴訟法第二百九條ニ所謂檢事ノ官氏名又記載シタルモノニ該當スルモノトス

○裁判所構成法第十八條ニ依リ檢事代理ヲ命セラレタル者カ事件ニ干與シタル場合ニ於テ單ニ其者ノ檢事代理ナルコト及ヒ其氏名ヲ公判始末書及ヒ判決原本ニ記載スルニ止マリ其者ノ司法官試補若クハ郡市町村長タル記載ヲ缺クモ猶刑事訴訟法第二百五條及ヒ同第二百九號ノ律意ニ適合スルモノトス

○公判始末書ニ前回ト同一ナル判事ノ氏名ヲ掲ケ同判事ニ依リテ審理セラレタルコトヲ記載シタル以上ハ特ニ辯論數日ニ渉ル旨並ニ其間同一ノ判事出席シタルコトヲ明記セサルモ違法ニ非ス

○(參照) 檢事ハ同一體ノ運用ヲ爲スモノナルカ故ニ公判始末書ト裁判書ト立會檢事ノ名ヲ異ニスルモ

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

第二百十條

上告ノ理由ト爲ラス

○公判始末書ニ裁判長判事ノ署名ノミニテ捺印ナキトキハ法律ニ違背スル文書ナリ是ニシテ違法ナル上ハ正當ニ法則ヲ履行シタル公判ナルヤ否ヤヲ鑑定スルニ由ナキヲ以テ破毀ノ原因ヲ免レサルモノトス

○公判始末書整頓ノ後之ヲ作成シタル書記契印ノ遺脱ヲ覺知スルモ其補足ヲ爲スヲ許サス

○公判始末書整頓ノ際其遺脱アルコトヲ認メタルトキハ紙葉ヲ挿入シ之ヲ補綴スルモ不法ニ非ス

○公判ニ關與シタル裁判長ト公判始末書ニ署名捺印シタル裁判長ト異ナルトキハ其公判始末書ハ法律上效力ヲ有セス

○裁判長差支アリテ署名捺印スル能ハサル場合ニ於テ其審判ニ干與シタル上席ノ判事代テ署名捺印シタル公判始末書ハ有效ナリ

第二百十條

二四	二九	二九	二六	二六	二七	二七	二七	二七	二七
一	九	三	五	二	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二四	二二	二四	七三	一〇九	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇

- 華押ハ捺印ノ一種ナリ從テ刑事訴訟法第二百十條ニ所謂捺印中ニハ華押ヲ包含ス
- 同一ノ被告事件ニ付キ前後數回ノ公判始末書ヲ一括ト爲シ裁判長及ヒ裁判所書記ニ於テ其末尾ニ署名捺印スルハ違法ニ非ス
- 公判始末書ハ判決言渡後三日内ニ整頓スヘキモノナレハ公判開廷中立會書記交代スルモ一通ノ始末書ヲ作成スルヲ以テ足レリトス而シテ立會書記二名ニテ一通ノ始末書ヲ整頓シタル場合ニ在テハ二名共ニ署名捺印スヘキモノナルモ其一名ノ契印アレハ書類作成ノ要件ニ缺クル所ナシ

(同主旨)

公判始末書ハ判決言渡後ニ整頓スヘキモノナレハ公判ノ開廷數度ニシテ立會書記ノ異ナル場合ト雖モ一通ノ始末書ヲ作ルヲ以テ足ル而シテ整頓者二名アルトキハ其一名ノ契印アレハ書類作成ノ要件ニ於テ欠クル所ナシ

公判始末書ハ判決言渡後三日内ニ整頓スヘキモノトス從テ開廷數回ニ涉リ其都度立會書記ヲ異ニスルモ始末書ハ一通ヲ作ルヲ以テ足ル而シテ書記二名ニテ一通ノ始末書ヲ整頓シタル場合ニ在テハ二名共ニ其末葉ニ署名捺印スヘキモノトス

公判ノ開廷數回ニ涉リ其都度立會書記ヲ異ニスルモ公判始末書ハ一通ヲ作成スレハ足ル而シテ書記二名ニテ一通ノ始末書ヲ整頓シタル場合ニ其一名ノ契印アルニ於テハ書類作成者ノ契

三五	三九	四一	四二	四五
五	六	六六	一〇六	九四

印ヲ缺キタルモノト云フヲ得ス

- 第一審公判始末書中判決言渡ノ部分ニ於ケル裁判長署名ノ下部燒損シタルカ爲メ該判決手續ノ適法ナルヤ否ヤヲ認め難キ場合ト雖モ其言渡アリタル事實カ被告ノ控訴申立書及ヒ第一審裁判所檢事正ノ控訴事件送致書等ニ徴シテ明確ナル以上ハ該始末書ノ無効ナル故ヲ以テ直ニ言渡ナカリシモノト云フヲ得ス
- 公判始末書ハ判決言渡後三日内ニ整頓スルヲ要スルノミ裁判所カ被告ノ請求ニ對シ直ニ公判始末書ノ閱覽ヲ許サス其他謄本ノ下付ヲ爲ササルモ該判決ヲ違法ナラシムルモノニ非ス
- 公判始末書ハ必スシモ證人訊問ト同時ニ之ヲ作成スルヲ要セス判決言渡後三日内ニ之ヲ整頓スルヲ以テ足ルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第三百一十一條ノ規定ハ公判ノ證人ニ對シ之カ適用ナキモノトス
- 公判始末書ハ裁判所書記之ヲ整頓シ記録ニ添附スルニ因リテ完結スルヲ以テ其以前ニ於テ爲シタル訂正ハ有效ナレトモ其以後ニ於テ爲シタルモノハ無効ナリトス

(反對)

公判始末書ハ現ニ實踐セラレタル公判ノ手續ヲ證明スヘキ具ナルカ故ニ事實ノ誤謬アルコト

三六	三九	四一	四二	四五
一九	二〇	八五	一四七	四二七

○發見シタルトキハ當該官吏ニ於テ之ヲ訂正スルヲ妨ケス
 ○裁判所書記印ノ六字ヲ表ハシタル印ト雖モ刑事訴訟法ニ所謂印ナルカ
 故ニ書記カ公判始末書ノ作成上之ヲ使用シタル以上ハ刑事訴訟法第二
 百十條ノ捺印ヲ具備スルモノトス

第二章 區裁判所公判

○區裁判所判事カ犯罪ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スニ際シ證人ノ訊問ヲ爲ス
 ○ニハ豫メ之カ決定ヲ宣告スルノ要ナク又其訊問ハ必スシモ檢證ノ當日
 其現場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要セス其檢證ニ接近シタル日時ニ現場附
 近ノ便宜ノ場所ニ於テ之ヲ爲スモ妨ナシ
 ○正式裁判ノ請求ハ一ノ刑事訴訟行爲ニ外ナラサルニ刑事訴訟法中代人
 ヲシテ之ヲ爲サシメ得ル旨ノ明文ナケレハ該請求ハ必ス本人ニ於テ之
 ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

(第二百十
三條)

『第二百十三條』

○在監人ヲ呼出スニ呼出狀ヲ以テセサルモ被告人公延ニ出頭シ異議ナキ
 ○事實ヲ陳述シタル上ハ不當ト爲スコトヲ得ス
 ○被告人ノ呼出狀ヲ受取リタル典獄ノ氏名ニシテ印刷ニ係ルコトアリト

三五	六	三	三	二九
七				九
五	九七二	六六七	二五七	八〇

スルモ呼出狀ハ典獄自身ノ作成スヘキ文書ニ非サルヲ以テ之カ爲メニ
 呼出狀ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

○公判ヲ開廷スルニハ被告人ヲ呼出スヘキハ當然ナルヲ以テ既ニ檢事カ
 公判ノ開廷ヲ求メタル以上ハ公判請求書ニ特ニ其呼出ヲ求ムル旨ノ記
 載ナキモ呼出ヲ求メタルニ異ナルコトナシ從テ刑事訴訟法第二百十三
 條ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○刑事訴訟法第二百十三條ハ檢事ノ職務ニ關スル訓示の規定ニシテ公判
 審理開始ノ必要條件ヲ定メタルモノニ非ス

(同主旨)

刑事訴訟法第二百十三條第一項ハ檢事ニ對スル訓示の規定ナリトス故ニ事件ノ繫屬シタル後
 ハ裁判所ハ檢事ヨリ呼出ノ請求ナキモ被告人ヲ呼出シ審判スルコトヲ得
 刑事訴訟法第二百十三條第一項ハ檢事ノ職務執行ニ關スル訓示の規定ニ外ナラスシテ受訴裁
 判所ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ被告人ヲ呼出スコトヲ得サルノ旨釋ニ非ス

○裁判所カ公判期日ニ出頭セル辯護人ニ對シ次回ノ開廷日ニ辯論ヲ續行
 スヘキ旨ヲ通知シタル以上ハ其呼出手續ハ正當ニ踐行セラレタルモノ
 ○トス從テ爾後更ニ期日呼出狀ヲ發シタルハ不用ノ手續ニ外ナラサレハ
 縱令同呼出狀ニ違法ノ點アルモ之カ爲メ該呼出手續ニ何等ノ影響ヲ及

三四	三九	三七	三九	三〇七
九		七一		
八一		五三九	四三三	

非ス

○被告人ニ對スル呼出狀ノ送達ト公判出頭トノ間ニ刑事訴訟法第二百十五條規定ノ猶豫ヲ存セサルモ公判審理ノ開始ニ當リ異議ヲ申立テス審理ヲ受ケタル以上ハ右猶豫期間ニ關スル利益ハ之ヲ拋棄シタルモノト認ムヘキヲ以テ其審理ノ中途ニ於テ始メテ之カ利益ヲ主張シ公判ノ延期ヲ求ムル權利ナキモノトス

○刑事訴訟法第二百十五條ニ依ル猶豫期間ハ辯論準備ノ爲メニ與フルモノニ外ナラサレハ事件ノ最初ニ定ムヘキ公判期日ニ付テハ之ヲ與フルノ要アルモ爾後ノ公判期日ニ付テハ其要ナキモノトス

(同主旨)

公判ニ於ケル辯論ノ準備ハ之ヲ爲スノ機會ナ一回與フルノミニテ足レリトス從テ刑事訴訟法第二百十五條ノ規定ハ第二ノ公判及ヒ其以後ノ公判ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

○受命判事ノ爲ス證人訊問ハ單ニ公判ノ準備手續タルニ過キスシテ公判其モノニ非サルヲ以テ縱令辯護人ニ對シ呼出狀ヲ發シタルトキト雖モ送達ト出頭トノ間ニ二日ノ猶豫ヲ存スルノ要ナシ

○被告人ヲ勾引狀ニ依リ引致シタル場合ニ於テハ公判ノ開廷ニ付キ辯論準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ與フルコト能ハサルヲ以テ開廷ニ先チ辯護人

四三

一八五二

四四

一〇二六

元

二七九

四〇

一〇一

三

一〇〇三

選任ノ届出アリト雖モ刑事訴訟法第二百十五條ニ依リ呼出狀ヲ發スルコト能ハサルモノトス從テ其呼出狀ヲ發セサルヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス

(同主旨)

被告ヲ勾引狀ニ依リ裁判所ニ引致シタル場合ニ於テ勾留狀ヲ發スルニハ被告人訊問ノ手續ヲ履踐スル必要アルニ依リ裁判所ハ勾引狀ニ依リ引致シタル被告ニ對シ之カ勾留ノ要否ヲ甄別スルノ必要上引致後四十八時間内ニ公判ヲ開キ被告人ヲ訊問スルハ審理ヲ完全ニ遂行スルニ於テ適宜ノ處置ナリトス隨テ此時間内ニ於テ公判期日ノ指定ニ先チ辯護人選任ノ届出アリト雖モ該辯護人ニ對シ刑事訴訟法第二百十五條ニ定ムル猶豫期間ヲ與フルコト能ハサレハ此猶豫期間ヲ與ヘサルヲ以テ違法ナリト謂フヲ得サルモノトス

(第二百十七條)

『第二百十七條』

○證人カ訊問ヲ受クヘキ場所ニ現在スルトキハ之ニ對シテ呼出狀ヲ發スルノ必要ナク又證人カ即時ニ供述ヲ爲スコトヲ得ヘキ位地ニ在リテ即時ノ訊問ヲ甘諾シタルトキハ呼出ニ付テノ猶豫期間ヲ存スルノ必要ナシ

○刑事裁判所カ出頭シタル證人ニ對シテ直ニ訊問ヲ開始シ決定ノ言渡ヲ省畧スルモ之ヲ以テ被告ノ辯護權ヲ縮少シタルモノト云フヲ得ス

(第二百十八條)

『第二百十八條』

刑事訴訟法 公判 區裁判所公判

七

二五

六

一五二七

三六

一〇一五

四〇

九八八

○刑事訴訟法第二百十八條第一項ノ訊問事項ハ専ラ被告人ノ人違ナキコトヲ確保スル爲メニ規定セラレタルモノトス故ニ縱令受訴裁判所カ其全部若クハ一部ニ付キ訊問ヲ遺脱スルモ苟モ被告人ノ人違ナキコトヲ調査確認シ事件ヲ審理判決セル以上ハ其公判手續ヲ目シテ無効ナリト云フヲ得ス

○公判裁判所カ審理ヲ更新シタルニ拘ハラズ被告ノ氏名年齢身分等ヲ調査セサリシトキト雖モ記録上此等ノ事項明白ニシテ現ニ人違ナキ場合ニ於テハ公判手續ノ無効ヲ惹起スルコトナシ

○被告ノ代理人ニ對シ其氏名年齢身分等ヲ調査スルハ公判手續上ノ要件ニ非サルノミナラス其訊問ヲ爲シタル旨ヲ記載スルコトモ亦公判始末書作成ノ要件ニ屬セス

(同主旨)

刑事訴訟法第二百十八條ノ氏名年齢身分等ノ訊問手續ハ代人ニ對シテハ委任狀等ニ就キ其人違ニ非サルコトヲ知り得ヘキヲ以テ被告人ニ準シ之ヲ踐行セサルモ違法ニ非ス

○裁判所ハ審理併合ノ必要ヲ認メ其併合ヲ爲ス場合ニハ必スシモ之ニ關スル決定ノ告知ヲ爲スヲ要セス又被告人ノ氏名年齢住所職業等ヲ訊問スルハ人違ナキコトヲ確ムル方法ニ外ナラサレハ右決定ノ告知前之ヲ

四〇 一四五
四 六〇二
四 九六
三七 四四四

爲スモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百十八條ニ依リ被告ノ年齢ヲ取調フルニハ犯時十四歳未滿ナルヤ否ヲ識別スルニ付キ必要アル場合ノ外出生日ヲ訊問スルコトヲ要セサルノミナラス記録ニ依リ之ヲ判決ニ表示スルモ不法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百十八條ノ檢事ノ陳述ハ書面ノ朗讀ヲ以テ之ニ代フルモ毫モ法意ヲ害セス

○檢事カ公訴ヲ提起スルニハ起訴狀ヲ提出スルノミヲ以テ足レリトセス公判ニ於テ被告事件ヲ陳述スルコトヲ必要トシ且公判ノ起頭ニ於テスルヲ普通ノ順序トス

○檢事ハ被告事件ヲ陳述スヘシトノ規定(刑事訴訟法第二百十八條第二項)ハ第一審ノ公判ニ於テハ常ニ之ヲ嚴守セサルヘカラスト雖モ第二審ノ公判ニ於テハ必スシモ之ニ準據スルコトヲ要セス

(同主旨)

刑事訴訟法第二百十八條第二項ノ檢事カ被告事件ヲ陳述スルコトハ第一審裁判所ニ適用スヘキモノニテ第二審裁判所ニ適用スヘキモノニ非ス
被告ノ控訴ニ係ルトキハ被告ヨリ先ツ控訴ノ趣意ヲ申立ツヘキモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百十八條第二項(檢事ノ陳述)ヲ適用スヘキモノニ非ス
檢事ハ被告事件ヲ陳述スヘシトノ法則(刑事訴訟法第二百十八條第二項)ハ第一審公判ニ適用

五 一七四二
七 三
六 四五九
七 一六
四 六六二
二七 一二二
二七 三七六

スヘキモノニシテ第二審公判ニ適用スヘキモノニ非ス

○第一審裁判所ニ於テ檢事カ公訴事實ヲ陳述セサリシニ拘ハラズ被告ニ對シ取調ヲ爲シタル場合ト雖モ控訴裁判所カ其點ニ關スル原判決ヲ取消シ更ニ被告ノ控訴ニ付キ適式ノ審理ヲ爲シタル以上ハ適法ノ起訴ナキ事實ニ對シテ刑ヲ科シタル違法アリト云フヲ得ス

○被告事件ニ關スル檢事ノ陳述ハ口頭辯論主義ニ於テ最モ重要ナル事項ニ屬シ之ニ依リテ始メテ訊問事項又ハ證據調ノ範圍ヲ判斷スヘキモノナレハ該陳述ヲ竣タスシテ爲シタル被告人ノ訊問及ヒ證據調等ハ全然無効ニ歸スヘキモノトス

(同主旨)

檢事カ公判ニ於テ被告事件ヲ陳述シタル事跡ナキトキハ其公判ニ於ケル被告ノ供述ハ全然無効タルヲ免レンス

○刑事訴訟法第二百二十六條及ヒ第二百二十七條規定ノ場合ニ於テハ檢事ノ被告事件ノ陳述ハ闕席シタル被告人ニ對シテモ其效力アルモノナレハ最初闕席シタル被告人カ審理期日ノ中途ヨリ出廷シ又ハ其續行期日ニ出廷スルコトアルモ檢事ニ於テ重ネテ被告事件ノ陳述ヲ爲スノ要ナシ

三三 八 二九

四二 六六八

四四 二〇七七

三七 一三三四

元 一三五四

○第一審公判始末書ニ於テ檢事カ被告事件ヲ陳述シタルモノト認ムルヲ得サル場合ト雖モ單ニ訴訟手續上ノ違法タルニ止マリ之ヲ以テ適法ノ起訴ナキモノト云フヲ得サルヲ以テ第二審裁判所カ右事件ニ對シ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ナリ

○檢事カ被告ニ對シ一ノ犯罪ニ付キ既ニ適法ナル公訴ヲ提起シ公判開廷セラレタル場合ニ於テハ新ナル公訴事實ヲ追加セントスルニ當リ必スシモ更ニ新ナル起訴狀ヲ提出スルコトヲ要セス認廷ニテ其追訴ノ事實ヲ陳述シ公判始末書ヲ以テ之ヲ明確ニスレハ足ルモノトス

○被告人ヨリ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル場合ト雖モ檢事ハ公判ニ於テ必ス被告事件ノ陳述ヲ爲スコトヲ要ス從テ第一審裁判所カ檢事ノ陳述ヲ竣タス事實ノ審問ヲ開始シ證人ヲ訊問シタルトキハ其訊問供述ハ全部無効ノモノタルヲ免レンス

○連續犯ヲ構成スヘキ甲事實ニ付キ檢事ノ陳述アリタルトキハ乙事實ニ付キ其陳述ナシトスルモ之ヲ連續犯ノ一部トシテ論スルニ妨ナキモノトス

○檢事ノ口頭起訴ハ適法ニ構成シタル判決裁判所ニ於ケル口頭辯論ノ際檢事カ口頭ニテ起訴事實ヲ陳述スルニ依リテ成立シ公訴ハ之ニ依リテ

二 二九六

三 二〇六七

三 二四二七

四 一八七二

裁判所ニ繫屬スルモノニシテ其效力ハ裁判所ノ構成ニ變更アルニ依リテ消滅スルモノニ非サレハ縱令裁判所ノ構成ニ變更ヲ生シ辯論ヲ更新スルコトアルモ檢事ハ更ニ口頭ニテ同一事實ヲ起訴スルノ要ナキモノトス

(第二百十九條)

『第二百十九條』

○審問事項ノ順序ヲ定ムルハ裁判長ノ職權ニ屬ス

○列席判事異動アルニ拘ハラズ審理ヲ更新セスシテ訴訟手續ヲ進行シ單ニ前回ニ於ケル申立ノ相違アリヤ否ノ一事ヲ訊問シタルニ止マリ直ニ證據調ニ移リ依テ審理ヲ終了シタルハ刑事訴訟法第二百十九條ニ背反スル不法ノ處置ナリ

(同主旨)

列席判事異動アルニ拘ハラズ審理ヲ更新セスシテ訴訟手續ヲ續行シタル處措ハ口頭審理ノ定則ニ背キタル不法アルモノトス

○新聞紙ノ發行所ハ新聞紙ニ掲記シアリテ顯著ナル事實ナルヲ以テ特ニ之ヲ訊問セサルモ不法ニ非ス

○被告事件ヲ訊問スルコトナクシテ之ヲ處罰シタルハ不法ナリ

(同主旨)

五	二七九五
二六	二二〇
三〇	二二〇
三〇	二七〇
三〇	二七〇
三六	一三六九

公廷ニ於テ判事カ被告人ニ對シテ其被告事件ヲ訊問スヘキハ法律ノ規定スル所ナリ然ルニ其事件ヲ訊問セスシテ判決ヲ爲シタルハ背法ノ裁判ナリ

○公判ノ審理ヲ續行スルニ當リ裁判所ノ構成ニ異動アリタル場合ニハ其續行公判ニ於テ先ツ審理ヲ更新シ被告人ニ對シテ事實ノ訊問ヲ爲シタル後證據ノ取調ヲ爲スヲ以テ順序トスト雖モ此順序ハ絶對的ニ遵守スルヲ要スルモノニ非サレハ縱令之ニ違ハサルモ直ニ其審理手續ヲ無効ナリト論斷スルヲ得ス

○公判廷ニ於テ訊問調書ハ讀聞カスヘキモノニシテ示スヘキモノニ非ス

○書類朗讀ノ省畧ニ付テハ檢事ノ意見ヲ徵スルヲ要セス(同一判例二八年四卷五五頁、同九二頁)

○既決犯罪表ハ訴訟記録ノ一部ナリ

○證據書類ノ一部ヲ指示シテ朗讀ノ省畧ヲ訊問シタルニ止マリ全部ニ及ハス而シテ其指示以外ノ書類ヲ罪證ニ供シタル裁判ハ公廷ニ顯出セサル證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アリ

○刑事ノ公判ハ實體的眞實ノ發見ヲ以テ目的トスルモノナリ從テ裁判官ハ職權ヲ以テ必要ナル證據ヲ取調ヘ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得ヘク檢事若クハ被告ヨリ提出シタル證據ノミニ拘束セラルヘキモノニ非ス

二六	二九四
二六	二九四
二九	二七〇
二九	二七〇
三三	二六
三三	二六

○キ資料ニ付テハ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ手續ヲ踐行スヘキモノニ非ス

三七

一六一

○刑事訴訟法第二百十九條ニ依リ朗讀スヘキ書類ノ必要ナルヤ否ヤヲ判斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス故ニ事實裁判所カ或書類ヲ以テ犯罪事實ノ有無ヲ確定スル爲メ必要ナキモノト認メ其朗讀ヲ省畧スルモ不法ニ非ス

三七

1001

(同主旨)

刑事訴訟法第二百十九條ノ規定ニ從ヒ朗讀スヘキ調書ノ必要ナルト否トヲ判別スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

三三

七七

○被告人ニ對シ證人トシテ訊問セラレタル者ノ調書ヲ讀聞ケタル以上ハ縱令公判始末書ニ參考人ノ調書ヲ讀聞ケタリトアルモ之カ爲メニ被告人ヲシテ其信憑力ニ誤信ヲ生セシメタルモノト云フヲ得ス

三七

一八五

○公訴ノ審理ニ際シ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ規定ニ從ヒ既ニ證據調ノ手續ヲ踐ミタルモノハ私訴ノ審理ニ付キ別ニ證據調ヲ爲ササルモ之ヲ私訴判決ノ證據ト爲シ得ヘキモノトス

三六

五

○苟モ被告ニ對シ一應證人調書ヲ讀聞ケ其辯解ヲ求メタル以上ハ爾後審理更新ノ際再ヒ之ヲ朗讀スルト否トハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス

三六

五

從テ該調書ヲ證據ニ採用セサル限ハ縱令朗讀ヲ爲ササルモ不法ニ非ス

三六

七七

○豫審調書ノ末尾ニ表記トシテ贓額等ヲ掲ケタル場合ニハ該表記ハ調書ノ一部ナルヲ以テ苟モ之ヲ讀聞ケタル以上ハ特ニ其部分ヲ被告人ニ示ササルモ不法ニ非ス

三九

一六

○繪圖面ノ如キ朗讀ノ方法ヲ以テ證據調ノ手續ヲ爲スコト能ハサル證據ハ該圖面カ他ノ文書ニ附屬シテ存在スル場合ト否トヲ問ハス之ヲ被告ニ示シテ辯解セシムルノ手續ヲ履行スルニ非サレハ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得ス

四二

一八七

(同主旨)

圖畫筆蹟若クハ印影等ノ如キ朗讀シ得ヘカラサルモノ又ハ朗讀スルモ證據ノ旨趣ヲ了解シ得ヘカラサルモノハ之ヲ被告人ニ示スヲ以テ適當ノ方法トス

三九

一九七

○鑑定書ヲ被告人ニ示スト之ヲ朗讀スルトハ其書面ノ如何ニ因リテ定マルヘキモノトス

四二

七六一

(同主旨)

鑑定書ヲ朗讀スルト被告人ニ示ストハ其鑑定書ノ如何ニ因ルモノトス從テ筆跡ニ關スル場合ニ於テ朗讀ヲ爲サスシテ之ヲ被告人ニ示シタルハ相當ナリ

三五

三七

○刑事訴訟法ニ所謂證據書類トシテ朗讀ヲ要スルモノハ當該刑事被告事件又ハ之ト密接ノ關係ヲ有スル他ノ刑事被告事件ノ證據トシテ特ニ作

成セラレタル訴訟書類ヲ指スモノトス

(同三三)

刑事訴訟法ニ所謂證據書類トシテ朗讀ヲ要スルモノハ被告人證人ノ訊問調書公判始末書檢證調書等其被告事件又ハ之ト密接ノ關係ヲ有スル他事件ノ證據トシテ特ニ作成セラレ入ノ供述ヲ錄取シタル訴訟書類ニ限ルモノトス

○或文書ノ内容記載ヲ證據ト爲ス場合ニ於テハ必スシモ其文書自體ヲ被告人ノ面前ニ展開査閲セシムルコトヲ要セス當該官吏之ヲ朗讀シ其記載事項如何ヲ知ラシムルヲ以テ法定ノ手續ヲ履踐シタルモノトス
(同三三)

證據タル證書ハ之ヲ被告ノ面前ニ提示シ被告ヲシテ自ラ朗讀セシメサルモ書記ノ朗讀ニ依リ其記載事項如何ヲ知ラシムルハ足ルモノトス

○或事實カ記錄ニ掲載セラレサルニ因リ其存在ヲ否認スルトキハ該記錄ヲ被告人ニ讀聞カスノ要ナシ

○公判廷ニ於テ訴訟ノ各關係者カ當然目撃シ得ヘキ被告人(證人參考人等)ノ容貌(音聲舉動等)ヲ他ノ證據判斷ノ用ニ供スルニ當リテハ此等

ノ徵憑ニ付キ檢證其他ノ證據調ヲ爲スコトヲ要セス

○受訴裁判所ヲ組織スル判事及ヒ檢事カ被告人又ハ其辯護人ヨリ公廷ニ提出セシ證據ノ調査ヲ爲シタルヤ否ヤハ公判始末書ニ記載シテ明確ニ

四二

四〇

四二

三九

四二

四二

九八六

一〇九二

六四八

一一〇三

一七九

スヘキモノニ非サレハ反對ヲ認ムヘキ事跡存セサル以上ハ適法ニ其調査ヲ爲シタルモノト推定セサルヘカラス

四二

一八四三

○裁判所カ鑑定書中特ニ圖面ヲ引用シタル部分ヲ除キ文字ノミニテ完全ニ説明セル部分ヲ擇ミ其記載ヲ罪證ト爲スニ當リ該書面ヲ讀聞ケタル以上ハ別ニ之カ展示ヲ爲ササルモ違法ニ非ス

四四

三九七

○證人カ訊問事項ヲ記載シテ豫審判事ニ送付シタル葉書ハ一種ノ供述書ニシテ證據書類ニ屬スルモノナルヲ以テ公判ニ於テ被告ニ示ササルモ之ヲ讀聞ケ辯解セシメタル以上ハ之ヲ罪證ニ供スルモ違法ニ非ス

四四

九〇六

○刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀ノ有無ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ之ヲ判定スルノ資料ニ供スヘキ證據ニ付テハ證據調ノ手續ヲ履踐スルノ要ナキモノトス

四四

二七六

○圖面ヲ證據トスルハ即チ其圖面ノ記載全部ヲ證據トスル旨趣ナルヲ以テ苟モ之ニ關スル適法ノ證據調ヲ爲シタル以上ハ更ニ之ヲ判決ニ寫出スルノ要ナキモノトス

四五

三四七

○刑事訴訟法ニ所謂證據書類トハ裁判所ノ作成シタルモノノミニ限ラス當該刑事被告事件ノ證據トシテ特ニ作成セラレタルモノナルトキハ訴訟關係人ノ提出シタルモノト雖モ證據書類タルコト論ヲ俟タス

四五

八二

○裁判所ヲ受、判事ニ於テ檢證ノ必要ト隨時證人ヲ訊問スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲ該決定ニ基キ證人ノ訊問ヲ爲シタル場合ニ其後ノ公判ニ於テ右訊問調書ヲ顯出シテ之カ取調ヲ爲ササルハ違法ナリトス

○告訴狀ノ欄外ニ押捺シアル區裁判所檢事局ノ受付印ハ告訴狀ノ内容ヲ成スモノニ非サルヲ以テ之ヲ罪證ニ供セントセハ公廷ニ於テ該告訴狀若クハ右印影自體ヲ被告ニ示スカ否ラサレハ右印文ヲ讀聞ケ被告ヲシテ之カ辨解ヲ爲サシムルコトヲ要ス

○證人ノ筆記カ手蹟對照ノ資料ニ供センカ爲メ之ヲ徵シタルモノナルトキハ縱令同證人ノ訊問調書ニ添附セラレタル書類ナルモ證人ノ供述ヲ錄取シタル書面ニ非サルヲ以テ證憑書類ニ非ス性質上一箇ノ證據物件ナリトス

○刑事訴訟法第二百十九條第二項及ヒ第百九十八條ヲ對照スレハ其事件ニ付キ證據ト爲リ得ヘキ一切ノ書類竝ニ差押ノ證據物件全部ニ付キ被告ノ意見辯解ノ有無ヲ問フコトヲ必要トスルモノニ非スシテ裁判所ニ於テ事實認定ノ爲メ必要ナリト認ムル證憑及ヒ證據物件ニ付キテノミ右ノ手續ヲ經ルコトヲ要シ其手續ヲ經サルモノヲ被告ノ不利益ニ援用スルコトヲ許ササルノ旨趣ナリトス

四五

九〇八

四五

九二

二

八七四

二

一三七九

(同前)

刑事訴訟法第二百十九條第二項ノ規定ハ必要ナル證憑書類ヲ朗讀セシメ朗讀セサル證憑書類ヲ被告人ノ不利益ニ援用セシメサルノ旨趣ニシテ一切ノ證憑書類ノ朗讀ヲ命ジタルモノニ非ス

四四

六七

○受訴裁判所ニ現在スル押收ノ證據物件タル書類ノ如キハ縱令其内容カ錯綜複雑シテ容易ニ事件ノ關係ヲ判明ナラシメ能ハサル場合アリトスルモ裁判所自ラ之カ證據調ヲ爲スヘキモノニシテ受命判事ニ之カ調査ヲ命スヘキモノニ非ス

三

三九八

○刑事訴訟法第二百四十一條第二項ノ規定ニ依リ受命判事ノ爲シタル一切ノ處分ハ之ヲ續行公判ノ辯論ニ現出セシムヘキコトヲ命シタル法令ナキヲ以テ裁判所カ其職權ニ因リ該報告書其他受命判事ノ取調ノ結果ヲ以テ被告ノ罪責ノ有無輕重ヲ判斷スルニ必要ナラスト認メタルトキハ刑事訴訟法第百九十八條及ヒ第二百十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハサルモノトス

三

四五〇

○證據トシテ提出セラレタルモノハ證據力ノ有無ニ拘ハラズ裁判所ニ於テ之ヲ取調ヌヘキモノトス

三

一三五三

○證憑物件カ公判ニ顯出セラレタル以上ハ被告人其他訴訟關係人ニ於テ

之ヲ實驗シ得ヘキ状態ニ措カレタルモノナレハ該物件ノ特殊ナル徵候ヲ罪證ニ供スル場合ト雖モ特ニ其徵候ヲ指摘シ被告人ニ示ササレハトテ證據調ヲ爲シタルモノト謂フニ妨ナシ

○押收文書ノ形狀筆蹟印影等ヲ罪證ニ供スルトキハ之ヲ被告ニ展示シテ辯解ヲ爲サシメサルヘカラス

○證據調ニ於テ記名下ニ押印アルコトハ何某印ト讀下シ以テ之ヲ告示スルコトヲ得ヘケレハ特ニ之ヲ被告ニ展示セサルモ該證據調ノ手續ハ違法ニ非ス

○印影ヲ證據ニ援用センニハ之ヲ被告ニ展示シ辯解ヲ爲サシメサルヘカラス

○親告罪ニ於ケル告訴ハ訴追條件タルニ止マリ犯罪構成事實ニ非サルカ故ニ裁判所カ親告罪ニ付キ告訴アリタル事實ヲ證明スルカ爲メニ告訴狀ヲ援用スルニ當リテハ必スシモ證據調ノ手續ヲ爲スノ要アルコトナシ

○判決書ハ之ヲ書證ト稱スルコトヲ得サルモノナレハ原審公判始末書中各記録ノ書證一切ニ付キ證據調ヲ爲シタル旨ノ記載アルモ原判決ニ援用セル判決書ニ付キ證據調ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

三	三	三	四	四	四	四	四
二〇〇一	二四四	一一一	四九四	八七五	一九九〇		

○受託判事ノ作成シタル證人訊問調書ヲ受訴裁判所ノ公判ニ於テ被告人ニ讀聞ケス又其意見辯解ヲ徵セシテ結審シタルハ違法ナリ

(同主旨)
囑託ニ係ル證人訊問ハ公判手續ノ一部ヲ組成スルモノニ非サレハ其訊問調書カ公廷ニ於テ讀聞ケラレサル以上ハ證據調ヲ施行シタルモノト謂フヲ得ス

○裁判所カ部員異動ノ爲メ審理ヲ更新シタル場合ニ其更新前ノ公判ニ於ケル證人ノ供述記載ヲ有效ニ援用スルニハ之ヲ被告ニ讀聞ケ辯解ヲ爲サシムルコトヲ要ス從テ此手續ヲ履行スルコトナク直ニ其證言ヲ援用シタル判決ハ違法ナリ

(同主旨)
部員ノ變更ニ因リ審理ヲ更新シタル後證據書類ヲ朗讀シタル形跡ナキニ其朗讀セサル證據書類ヲ採用シ罪證ニ供シタルハ不法ナリ

○豫審判事カ其集取シタル證憑ニ基キテ自ラ判斷セル事項ヲ摘録シタル表ノ如キハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ作成スル書面ニ非サルハ勿論同法第九十一條ニ依リ集取スヘキ證據徵憑ニ屬セサレハ其記載ノ内容ハ公訴事實ニ對シ證明文書タル效力ヲ有セス從テ其表ヲ判斷ノ資料ニ供スル場合ニ於テモ之ヲ開示シテ辯解ヲ爲サシムレハ足り朗讀ノ手續ヲ經ルノ要ナシ

四	四	四	四	五	五	五	五
一〇九三	八八二	七四一	五	三	三	三	三

○ 證人ノ供述ニ付キ一旦被告人ノ意見辯解ヲ求メタル以上ハ其後更ニ該證人ノ訊問供述アル場合ト雖モ被告人ニ對シ再ヒ意見辯解ヲ求ムルコトヲ要セサルモノトス

○ 公判裁判所ノ證據決定ニ基キ受命判事カ檢證ヲ爲シタル結果檢證調書竝ニ檢證圖面ヲ作成シタル場合ニ於テ調書ト圖面ト相違テ檢證ノ顛末ヲ明カニシタルトキハ公判ニ於テハ單ニ檢證調書ヲ讀聞カシムルヲ以テ足レリトセス必スヤ其圖面ニ付テモ證據調ヲ爲スニ非サレハ證據決定ハ完全ニ施行セラレタルモノト謂フヲ得ス

○ 刑事訴訟法第二百十九條第三項及ヒ第二百三十九條ハ裁判所ノ審理手續ヲ規定シタルニ止マリ證據ノ取捨判斷ニ關スル裁判所ノ職權ヲ制限シタルモノニ非サレハ被告人ノ自白ノミニ依據シテ事實ヲ認定スルモ不法ニ非ス

【第二百二十條】

○ 凡ソ訴訟ハ原被告兩造ノ陳述ヲ聽キ斷案ヲ下スヲ以テ通則トス刑事ノ訴訟ニ在リテモ被告ノ辯論ノミナラス原告官タル檢事ノ意見ヲ聽キテ判決ヲ下スヘキハ勿論ナリ故ニ刑事訴訟法第二百二十條第一項ノ規定アリ

二七	三	七	七
三〇一	二四九二	五八九	一七五

○ 事實竝ニ法律適用ニ付キ檢事ノ意見ヲ聽カサル判決ハ不法ナリ

(同三三)

法律適用ニ付キ檢事ノ意見ヲ聽カサル判決ハ不法ナリ(同一判例二八年五卷一〇八頁)

○ 檢事ノ意見ハ裁判所ヲ拘束セス

○ 檢事ハ法律ノ正條ヲ援引シテ其適用ヲ求ムルノ外仍ホ進テ刑期ノ長短罰金ノ多寡ヲ指定シテ其適用ヲ求ムルノ權ヲ有ス

○ 法律適用ニ關スル檢事ノ意見ハ必スシモ法文ノ明示アルヲ要セス其意思ヲ表明スルヲ以テ足レリトス

○ 證據書類取寄ノ申請ニ對スル棄却ノ決定ハ檢事ノ意見陳述後ニ在ルモ其決定後被告及ヒ辯護人ニ於テ數回陳述ヲ爲シタル事蹟アルヲ以テ不法ナリトセス

○ 私訴ニ付テハ特ニ檢事ノ意見ヲ聽クヲ要セス

(同三三)

私訴ニ付テハ其辯論終結後檢事ノ意見ヲ聽クヲ要セス

○ 裁判所カ證據取調濟ノ後事實及ヒ法律適用ニ付キ檢事ニ意見陳述ノ機會ヲ與ヘタル以上ハ縱令檢事ニ於テ其意見ヲ陳述セサルトキト雖モ尙ホ審理ヲ終結シテ判決ヲ爲スニ妨ナキモノトス

四	二元	三	二元	二元	二元	二元	二元
	八	二	二	三	四	三	二
一一三	五〇	四九	二二	六	三	二四	九九

(同主旨)

法律適用ニ付キ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ求メタル上ハ檢事其意見ヲ陳述セサルモ不法ニ非

ス
證憑調濟ノ後檢事ニ於テ事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述(刑事訴訟法第二百二十條)スル
ハ其職責ナリトス從テ裁判所ハ檢事ニ意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與フルヲ以テ足ルヘキモノニ
シテ之ヲ強ユルノ要ナシ

裁判所カ事實及ヒ法律適用ニ付キ檢事ニ意見ヲ陳述スヘキ機會ヲ與ヘタル以上ハ縱令檢事ニ
於テ陳述ヲ爲ササルモ之カ爲メニ其判決ヲ目シテ不法ナリト云フヲ得ス

○辯護人ハ公判ニ於テ辯論ヲ爲ス權利ヲ有スレトモ之ヲ行使スルト否ト
ハ隨意ナルカ故ニ裁判所ハ辯護人ニ辯論ヲ爲スノ機會ヲ與フルヲ以テ
足り必スシモ之ヲ強ユルノ要ナシ

○辯論ノ最終ニ被告人ヲシテ供述セシメヌ直ニ本案ノ裁判ヲ言渡シタル
判決ハ不法ナリ

○辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシムヘシトノ規定(刑
事訴訟法第二百二十條第三項)ハ公訴ノ辯論ニ關スル規定ニシテ私訴
ノ辯論ニ付テハ別ニ刑事訴訟法第二百二十一條ノ規定アリ從テ私訴ニ
付テハ最終ニ被告ノ意見ヲ聽カサルモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百二十條第三項但書ニ所謂辯論トハ被告人ノ罪ノ有無

三〇	三五	三七	四二	四二	五二
五	五	二〇三五	一七四二	二六	二二
一六	一三六			七三	一一

(第二百一十一條)

ヲ定ムル本案判決ノ基本ト爲ルヘキ口頭辯論ヲ指稱スルモノニシテ中
間ノ争ニ關スル辯論ハ之ヲ包含セス

○被告カ辯論ノ終ニ際シ辯護人ヲシテ自己ニ代リ供述セシメタル以上ハ
自ラ最終ニ供述シタルト同一ノ結果ニ歸スルヲ以テ其公判手續ニ違法
アリト云フヲ得ス

○辯護人ニ於テ最終ノ辯論ヲ爲シタル以上ハ更ニ被告人ヲシテ其辯論ヲ
爲サシムルコトヲ要セス

『第二百一十一條』

○公訴附帶ノ私訴ハ刑事訴訟法ニ從ヒ審判スヘキハ言ヲ竣タスト雖モ元
來民事ニ屬スルモノナルヲ以テ刑事訴訟法ニ規定ナクシテ法理上己ム
ヲ得サル場合ニ於テハ民事訴訟法ノ手續ヲ準用スルヲ得ルモノトス
○法律上代理人ナキ未成年者ノ私訴ヲ受理審判シタル裁判ハ不法ナリ
○刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルニハ總テ民事訴訟法
ニ則ルヘキモノニ非ス

(同主旨)

刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルニハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ則ルヲ要セス
從テ其攻撃方法ニ對シ特ニ判定ノ理由ヲ付スルヲ要セス

三七	三六	三三	三三	四三	四三	五七
三八	二〇二	二〇	二〇	一八〇	一六四〇	三六
二九	二	八	一九			二〇二

ヲハ縱合其物件ハ公廷ニ現レサルモ之ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲スヲ妨ケス

三六

一五〇

○訴ヲ受ケタル裁判所ハ其有罪タルト無罪タルトヲ問ハス一罪ニ付テハ何レカ其一ノ言渡ヲ爲スヲ以テ足レリトス故ニ連續犯トシテ起訴セラレタル數箇ノ行爲中縱合罪トシテ處罰スヘカラサルモノアリトスルモ其部分ニ對シ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

三

二四三七

○一箇ノ行爲カ甲乙二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ起訴セラレタル場合ニ審理ノ末甲罪名ニ觸ルルモ乙罪名ニ觸レスト認メタルトキハ甲罪名ニ適合スヘキ法條ヲ適用處斷スレハ足り乙罪名ニ付テ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

五

九一三

○沒收ハ一ノ附加刑ニシテ本刑ニ隨伴スヘク又刑ハ共同被告總員ニ對シ各別ニ科スヘキモノナレハ縱令第一審ニ於テ既ニ共同被告ノ一人ニ對シ供用物件沒收ノ言渡ヲ爲シ該判決確定スルモ第二審ニ於テ更ニ他ノ共同被告ニ對シ同一沒收刑ヲ言渡ス妨ト爲ルモノニ非ス

五

一四五六

(參照)

犯罪ノ日時場所ニ異動アルモ意思ノ繼續アル以上ハ一罪トシテ處斷スヘキモノトス而シテ其意思ノ繼續ヲ認定スルハ事實問題ニ屬ス

二九

一

其職ニ在ラスシテ擅ニ官ノ文書ヲ偽造シタル上ハ其目的權利ノ回復ニ在ルチ口實ト爲シ惡意ナキ證據ト爲スヲ得ス
主タル物件ヲ沒收スルノ判決ハ從タル附屬物件ニ及フ
是非ノ辨別有無ハ各所爲ニ付キ之ヲ判定スヘキモノトス
再犯ノ事實ヲ認定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス
竊盜トシテ公訴ヲ提起シタル事實ニ對シ盜賊寄藏ノ所爲アリト認メテ判決ヲ爲スハ不法ニ非ス

三

五八

數箇ノ重罪中刑期ノ長短定後ノ有無ニ依テ輕重ヲ區別スルコト能ハサル場合ニ於テハ事實承審官ハ犯情ノ輕重ニ依リ其輕重ヲ定ムヘキモノトス

三

三五

第二百二十四條

第二百二十四條

○判決確定以前ニ於テ法律ノ廢止セラレタルトキハ被告事件罪ト成ラサルモノトシテ無罪ヲ言渡スヘキモノトス

三

一三

○公訴提起後ニ至リ法律ノ效力ニ變動アリタル爲メ新舊法ヲ比照シテ判決スル場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲スコトアルモ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スコトナシ

三

四五

○一罪中ニ數箇ノ行爲ヲ包含スルモノトシテ起訴セラレタル場合ニ裁判所カ其行爲中犯罪ヲ構成セサルモノアリト認ムルトキハ縱令起訴狀又ハ豫審終結決定書ニ該事實ヲ明記シアルモ之ヲ罪トシテ處罰セサルヲ

三

二

以テ足り必スシモ該事實ニ付キ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ要セス
(同主旨)

二箇ノ犯罪行為カ實質上ノ一罪ナルトキニ於テ其一箇ノ行為カ罪トナラサル事實アル場合ハ
唯其理由ヲ示スニ止リ其點ニ對シ別ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス
公訴事實中ニ包含セラレタルモノニシテ獨立ノ犯罪ニ非サル以上ハ其一部ニシテ罪トナラサ
ルモノニ對シ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

○親告罪ニ付キ告訴ノ拋棄アリタル場合ニ於テハ刑事訴訟法第六十五
條ノ旨趣ニ依リ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

○被害者カ被告ノ爲シタル一箇ノ所爲ヲ名譽及ヒ信用毀損ノ二罪名ニ該
當スルモノトシテ告訴ヲ提起シタルモ檢事ノ起訴後之ヲ取下ケタルト
キハ名譽毀損罪ニ對スル公訴權ハ消滅ニ歸スルモ業務妨害罪ニ付テハ
公訴權存續スルヲ以テ裁判所カ名譽毀損ノ部分ニ對シテハ處罰規定ヲ
適用セサルニ止メ別ニ免訴ヲ言渡サス單ニ業務妨害ノ事實ニ對シ刑法
第二百三十三條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ

○一罪ヲ構成スヘキ公訴事實ニ付キ確定判決ヲ以テ罪ノ有無ヲ決シタル
トキハ同罪ニ對スル公訴權ハ之ニ依リテ消滅スルヲ以テ爾後同公訴事
實ハ勿論法律上之ト一罪ヲ構成スヘキ他ノ事實ニ付キ起訴アリタルト

キハ裁判所ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヲ相當トス

○縱令公訴事實カ親告罪ニ係リ其確定判決後之ト連續シテ一罪ヲ構成ス
ル事實ニ付キ被害者ヲ異ニスル爲メ新ニ告訴アリタリトスルモ本來一
罪ヲ組成スルモノナレハ公訴權消滅ノ理由ニ依リ免訴ノ言渡ヲ爲スヘ
キモノトス

(參照)

第一審ノ認メテ本案ノ犯罪行為ナリト爲シタルモノハ即チ前キニ約束手形ヲ騙取シタル詐欺
既遂罪ノ結果ニシテ本罪ノ餘波タルニ過キサルトキハ別ニ單獨ナル一罪ヲ成スヘキニ非サル
カ故ニ原院カ詐欺未遂ノ點ニ付テ特ニ無罪ノ判決ヲ與ヘサルコソ當然ナレ
竊盜被告事件ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケ其判決確定シタルニ拘ハラス其後ニ至リ同一ノ
事實ニ對シ冒認被告事件トシテ公訴ノ提起アリタルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス
詐欺取財ヲ爲スニ因テ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ナリ從テ詐欺取財ノ所爲ヲ
無罪トスルモ之カ爲メ特ニ判決ヲ與フヘキモノニ非ス

(第二百二十五條)

(民) ○贓物ノ返還ヲ目的トシテ提起シタル私訴ニシテ犯罪ハ之ヲ贓物ナリト
論定シ得サル事實ナリトスルモ附帶トシテ受ケタル裁判所ハ之ヲ以テ
直ニ私訴ヲ斥クヘキモノニ非ス他ノ相當ノ理由ヲ以テ之カ判決ヲ與フ
ヘキモノトス

七

七

二七

二九五

二九

一〇六

三一

六五

二七

三五〇

四二

一八四

三四

三六

三五

一七四

四

一六六

五

二五三

- 私訴請求ノ金額ヲ査定スルハ裁判官ノ職權ニ屬ス
- 民事原告人私訴トシテ或實物ノ返還ヲ請求シ若シ實物存在セザルトキハ金圓ノ賠償ヲ請求スル旨ノ申立ヲ爲スモ不確定ノ請求ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス
- 過失殺ヨリ直接ニ生シタル費用ハ被告人ヲシテ賠償セシムヘキモノトス
- 不法行爲ニ原因スル損害賠償ノ債權ハ損害ノアリタルトキヨリ發生ス從テ其當時ヨリ利子ヲ生ス
- 民事原告人ノ私訴ヲ裁判スルニ當リテハ民法ノ法則ニ遵據スヘキモノニシテ公訴判決ノ理由ニ拘束セラルヘキモノニ非ス
- 公訴判決ニ於テ犯罪事實ノ明瞭ナラサル場合ト雖モ私訴ニ付テハ請求ノ多寡ニ拘ハラズ本案ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス
- 公訴ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ既ニ確定シタル事實ヲ犯罪ナリトシテ損害ノ賠償ヲ命シタル判決ハ不法ナリ
- 冒認ニ係ル樹木ノ買主カ之ヲ伐倒シ角材ト爲シタル場合ニ於テ被害者ヨリ贓物返還ノ私訴ヲ提起シタルトキハ民法第二百四十六條ノ規定ニ依リ其請求ノ當否ヲ斷定スヘキモノトス

二九	七	五
三〇	六	一三
三〇	六	五九
三〇	六	五九
三〇	七	四三
三一	四	二
三一	三	三
三七		九八

- 私訴ニシテ公訴事項ノ範圍外ニ屬スル無關係ノ事實ヲ原因ト爲ストキハ公訴判決ノ如何ニ拘ハラズ不適法トシテ却下スヘキモノトス
- 私訴ニ關シテハ刑事訴訟法中民事訴訟法第五十條ノ如キ明文ナシト雖モ必要的共同訴訟人ニ對シ各抵觸スル判決ヲ下スカ又ハ其一人ニ對シ判決ヲ與ヘサル場合ニ於テハ權利ノ執行ヲ爲シ得サルカ故ニ同條ノ規定ニ存スル法理ハ私訴ニ付テモ亦之ヲ適用セサルヘカラス
- 刑事裁判所ハ私訴ノ原因ヲ變更シテ犯罪タラサル事實ニ基キ裁判スルコトヲ得

(同案)

- 私訴ニ付テハ訴ノ原因ヲ變更スルヲ許ササルノ規定ナシ
- 被告事件罪トナラサル場合ニ於テモ私訴ニ對シテ判決ヲ爲スヘキモノト定メタル以上ハ法律上私訴ニ付テハ原因ノ變更ヲ許シタルモノトス
- 誹毀事件ノ民事原告人カ廣告文ノ始ニ掲クヘキ廣告ナル文字ノ上ニ謝罪ノ二字ヲ冠スヘキ旨ヲ請求シタルコトナキ場合ニ謝罪廣告ト題シテ廣告スヘキコトヲ言渡スハ請求以外ニ渡リタル不法ノ判決ナリ
- 商標主カ商標侵害ノ犯罪ヲ原因ト爲シ損害賠償ノ私訴ヲ提起シタル場合ニ裁判所カ被告ニ商標公報ノ公示ヲ知ラサル過失アリトシ損害ノ賠償

三七		一四五七
三六		四五二
三六		六〇七
三三	四	八五
三四	一	二二
三八		七三九

償ヲ命スルモ之ヲ以テ請求ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス

○裁判所カ私訴ヲ審理スルニ當リテハ單ニ原告人ノ請求原因トスル事實

ノミニ局限セラレズ縱令被告人ノ抗辯ニ依リテ顯ハレタル事實ト雖モ

係爭權利關係若クハ訴ノ目的物タル特定ノ物件ニ關聯スル以上ハ之ヲ

憑據ト爲シ以テ請求ニ係ル權利ノ存在ヲ判定シ得ルモノトス

○數名ノ被告人ニ對シ連帶シテ贓物ヲ返還スヘキ旨ノ請求アリタル場合

ト雖モ裁判所カ其事實關係ヲ以テ各自單獨ノ犯罪行爲ト認メタル以上

ハ各被告人ニ對シ全部義務ノ履行ヲ命スルモ不法ニ非ス

○公判裁判所カ公訴判決ニ於テ被告人ノ騙取ニ係ル紙幣數枚ヲ贓物トシ

テ被害者ニ還付スル旨ヲ言渡シタルニ拘ハラズ私訴判決ヲ以テ損害金

全部ノ支拂ヲ被告人ニ命スルハ不法ナリ

○公訴ニ附帶スル私訴ノ原因ハ公訴ノ審理ニ依リ自ラ變更ヲ生シ得ヘキ

モノナルヲ以テ特ニ民事原告人ヨリ變更ノ申立ヲ爲ササルモ裁判所ハ

直ニ民法上其請求權ノ有無ヲ審査シ請求ノ當否ヲ判決セサルヘカラス

(同主旨)

私訴ノ原因ノ變更ハ公訴ノ取調ニ依リテ生スヘキモノナレハ特ニ民事原告人ヨリ變更ノ申立

ヲ爲ササルモ裁判所ハ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

三九	七〇
四〇	五八
四〇	六七
四〇	八七
四二	七八
四四	二

○詐欺行爲ニ因リ明治四十二年六月中加ヘタル損害ニ付テハ遲滯ニ付ス

ルノ條件ヲ要セスシテ其時ヨリ當然利息ヲ生スヘキモノナルヲ以テ同

四十四年七月一日ヨリノ利息ノミヲ請求シタル場合ニ於テ其請求ノ正

當ナル所以ヲ説示シタル判決ハ正當ナリ

○公訴附帶ノ私訴ニ於テ裁判所カ損害ノ原因アルコトヲ認メタル以上ハ

其數額ノ點ニ付テモ相當ノ審理ヲ盡シ之ヲ算定シテ賠償ノ言渡ヲ爲ス

ノ職責アルモノトス

○公訴事實ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テモ私訴ニ付キ其請求價額

ノ多寡ニ拘ハラズ判決ヲ爲スヘキモノニシテ此場合ニ於テハ裁判所ハ

必ス實體上ヨリ當事者相互間ノ權利關係ヲ審判シ民事原告人ニ損害賠

償其他ノ給付ヲ請求スル權利アリヤ否ヤヲ確定スヘキモノトス

(同主旨)

犯罪ノ證據充分ナラスシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テモ民事原告人ノ請求ニ對シテハ

本案ノ判決ヲ爲ササルヘカラス判決ヲ以テ私訴ヲ棄却スヘキモノニ非ス然ルニ第一審裁判所

カ此場合ニ於テ無罪ノ言渡アル以上ハ私訴ニ就テハ犯罪ニ因テ生シタル被害ト認メ難シトシ

テ之ヲ棄却シ本案ノ判決ヲ爲ササルトキハ控訴院ハ之ヲ取消シ其事件ヲ其裁判所ニ差戻スヘ

キモノトス

公訴ニ附帶シテ私訴ノ提起アリタルトキハ其公訴ニ係ル犯罪ノ有無ニ拘ハラズ私訴ニ對シ必

二六	二
二七	一七四
二八	二
二九	一三五
三〇	二
三一	二五四
三二	二
三三	二五〇

ス相當ノ判決ヲ爲スヘキモノトス
 公訴ニ附帶シテ私訴ノ提起アリタルトキハ公訴ノ原因ニ變更ヲ來シタル場合ト雖モ私訴ニ付
 テハ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス
 犯罪ノ證據十分ナラサル場合ト雖モ私訴ニ關スル請求權ノ有無ハ之ヲ裁判セサルヘカラス
 私訴提起ノ當時ニ於テ犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ目的トシタルモノナルトキハ縱令
 公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲スモ私訴ノ適法ナルコトヲ認メタルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ相當
 ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス
 公訴ニ附帶シ被告人ノ犯罪行爲ヲ原因トシテ刑事裁判所ニ私訴ノ提起アリタル場合ニ裁判所
 ハ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキト雖モ此一事ヲ以テ私訴ノ請求ヲ理由ナシトシ直ニ
 之ヲ却下スルヲ得ス從テ裁判所ハ私訴ヲ以テ主張シタル民事原告人ノ賠償又ハ返還ノ請求ハ
 民法上其理由アリヤ否ヤヲ審査シ其請求ノ當否ヲ判決セサルヘカラサルモノトス
 公訴ニ附帶シ犯罪行爲ヲ原因トシテ刑事裁判所ニ私訴ノ提起アリタル場合ニハ裁判所ハ公訴
 ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキト雖モ此一事ヲ以テ直ニ私訴ノ請求ヲ却下スルコトヲ得ス
 縱令原因ヲ變更スルモ依然私訴トシテ民法上其理由ノ有無ヲ審査シ請求ノ當否ヲ判決セサル
 ヘカラサルモノトス
 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ト雖モ裁判所ハ尙ホ私訴ニ付キ裁判ヲ爲ササルヘカラス從
 テ裁判所ハ常ニ實體上ヨリ當事者相互間ノ權利關係ヲ審判シ民事原告人ニ訴ノ目的タル損害
 賠償其他ノ給付ヲ請求スルノ權利アリヤ否ヤヲ根本的ニ確定スヘキモノトス
 ○他人ノ所有ニ係ル證券ノ横領ニ因リテ其所有者ニ生セシメタル損害ニ
 付キ賠償ノ請求アリタル場合ニ於テ横領當時ニ於ケル證券ノ價格ヲ以

二九	四	四	四	四
三二	一四	三五	三五	三五
三三	四	八四	八四	八四
三六		四三五	四三五	四三五
四〇		一三五八	一三五八	一三五八
四〇		六七七	六七七	六七七

第二百二十六條

テ賠償請求額ト爲シタルトキハ横領行爲以後辨濟期ニ達シ所有者カ受
 領スルコトヲ得サリシ證券利札ノ對價即チ法定果實ノ對價ニ付キ爲シ
 タル請求ハ之ヲ許容スヘキモノニ非ス
 ○如上ノ場合ニ於テ請求當時ニ於ケル證券ノ價格ヲ以テ賠償請求額ト爲
 シタルトキハ其以外ニ横領行爲以後ニ於テ辨濟期ニ達シ所有者カ受領
 スルコトヲ得サリシ證券利札ノ對價ニ付キ爲シタル請求ハ相當ナレハ
 之ヲ許容スヘキモノトス

第二百二十六條

○被告人ニ於テ辯論ノ當日出廷シテ審理ヲ受ケタル以上ハ判決言渡ノ當
 日出廷セサルモ其判決ハ關席判決ニ非ス

(同第三)

被告カ對審理ヲ受ケ辯論終結シタル上ハ裁判言渡ノ當日出廷セサルモ關席判決ヲ爲スヘキ
 モノニ非ス故ニ裁判言渡ノ當日被告出廷セサルヨリ其辯護人ニ對シ對審裁判トシテ判決言渡
 チ爲シタルハ違法ニ非ス則チ關席裁判ニ關スル法條(刑訴二二六條二〇七條)ノ規定ヲ適用セ
 サルハ當然ナリ

○其代人公判ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ關席判決ヲ爲
 スヘシ(刑事訴訟法第二百二十六條)トノ法則ハ代人カ被告ニ代リテ公

六	六	七三	七三	七三
三三	二二	二五	二五	二五
二六		一五六	一五六	一五六

判廷ニ出頭セサリシトキハ被告ニ對シテ闕席判決ヲ言渡スヘシトノ主旨ニ外ナラス從テ此法則アルカ爲メ故障ノ申立ヲ代人ニ許シタルモノト解釋スルヲ得ス

○罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付キ共犯者中ノ一人カ他ノ共犯者ヲ代理トシテ公判廷ニ出頭セシムルハ違法ニ非ス

○或判決カ闕席判決ナルヤ否ヤハ其判決自體ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス故ニ闕席判決トシテ言渡シタル以上ハ縱令其手續ニ違法アルモノニ對シテ該判決タル效力ヲ認ムヘキハ當然ナリ

○刑事訴訟法第二百二十六條ニ「檢事ノ請求スル所ヲ聽キ闕席判決ヲ爲スヘシ」トアルハ檢事ノ請求ヲ以テ闕席審理手續ノ要件ト爲シ其請求アルニ非サレハ闕席審理ヲ開始スルヲ得ストノ旨趣ニ非ス裁判所カ闕席判決ヲ爲スニハ被告事件ノ陳述其他科刑等ニ付キ檢事ノ請求スル所ヲ聽クコトヲ要ストノ法意ナリト解スヘキモノトス

○刑事訴訟法第二百二十六條ハ被告人出頭セサル場合ニ證據調ヲ禁シタル規定ニ非サルヲ以テ被告人カ公判期日ニ出頭シタル場合ハ勿論出頭セサル場合ト雖モ既ニ決定シタル證人訊問ヲ爲スモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百二十六條及ヒ第二百二十七條規定ノ場合ニ於テハ檢事ノ被告事件ノ陳述ハ闕席シタル被告人ニ對シテモ其效力アルモノナレハ最初闕席シタル被告人カ審理期日ノ中途ヨリ出廷シ又ハ其續行期日ニ出廷スルコトアルモ檢事ニ於テ重ネテ被告事件ノ陳述ヲ爲スノ要ナシ

○裁判長ニ於テ民事訴訟上國ヲ代表スル檢事ニ對シ一般民事原告人ノ席ニ著キタル上陳述スルニ非サレハ民事原告人ノ陳述トシテ聽許セサル旨ノ宣言ヲ爲シタルニ拘ハラス民事原告人タル檢事ニ於テ其宣言ニ從ハスシテ爲シタル陳述ハ民事原告人ノ陳述トシテ效力ナキモノトス從テ之ヲ以テ期日ニ出頭セサルモノト看做シ闕席判決ヲ與ヘタル裁判ハ相當ナリ

○訴訟當事者ノ出頭セリヤ否ハ其者ノ相當ノ座席ニ著キタルト否トニ依テ定マルヘキモノニシテ訟廷内ニ居ルト否トニ依テ定マルヘキモノニ非ス

○控訴審ニ於テ控訴ノ相手方闕席シタルトキハ刑事訴訟法第二百六十六條ヲ適用スヘキハ勿論公訴附帶ノ私訴ニ付テハ職權審理ノ原則 牴觸セサル範圍ニ於テ同法第二百二十六條第二項ノ旨趣ニ則リ闕席判決ヲ爲スニハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノトス

三五	三
四二	二
四五	一
四九	六五〇
四五	五八三
四二	七七二
四三	六八九
三五	九

元	一三五
三〇	二七
三〇	二七
三	八二九

『第二百二十七條』

○刑事訴訟法第二百二十七條ハ被告本人ヲシテ事件カ其裁判所ノ公判ニ付セラレタルコトヲ確知セシムルノ旨趣ナリトス從テ控訴裁判所カ關席判決ヲ爲スニハ豫審終結決定書ノ本人送達アリタルトキト雖モ更ニ呼出狀ノ本人送達ヲ爲シタルコトヲ要ス而シテ被告カ第二審ノ公判ニ付セラレタルコトヲ確知セル場合ニ於テハ特ニ其必要ナシ

○或判決カ關席判決ナルヤ否ヤハ其判決自體ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス故ニ關席判決トシテ言渡シタル以上ハ縱令其手續ニ違法アルモノニ對シテ該判決タル效力ヲ認ムヘキハ當然ナリ

○刑事訴訟法第二百二十六條及ヒ第二百二十七條規定ノ場合ニ於テハ檢事ノ被告事件ノ陳述ハ關席シタル被告人ニ對シテモ其效力アルモノナレハ最初關席シタル被告人カ審理期日ノ中途ヨリ出廷シ又ハ其續行期日ニ出廷スルコトアルモ檢事ニ於テ重ネテ被告事件ノ陳述ヲ爲スノ要ナシ

○裁判所ハ關席判決ヲ以テ管轄違申立ノ却下ヲ言渡スコトヲ得從テ其判決ニ對シテハ刑事訴訟法第二百二十八條第二項ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス

三五	四五	七五
三	元	四
二五七	一三五	七七一

○刑事訴訟法第二百二十五條ノ猶豫期間ハ同法第二百二十七條第二項ノ規定ニ從ヒ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間内ニ被告人出頭セサルトキハ關席判決ヲ爲スヘキ告知書ヲ發スル場合ニ於テモ之ヲ與ヘサルヘカラス從テ此猶豫期間ヲ與ヘスシテ告知書ヲ送達シタル場合ニ於テハ縱令被告人出頭セサルモ關席判決ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○被告人ニ對シ適法ナル猶豫期間ヲ置キ一旦其期間内ニ出頭スヘキ旨ノ告知ヲ爲シタル以上ハ其後更ニ發セラレタル再度ノ告知書ニ付キ之ヲ發スルニ當リ猶豫期間ヲ與フルコトヲ要セサルモノトス

○豫審ヲ經由セサル事件ニ付キ第一審裁判所カ檢事ノ起訴アルヤ被告ニ對シ直ニ刑事訴訟法第二百二十七條第二項ノ告知書ヲ發シタルハ失當ナレトモ其後被告ノ公判延期申請ニ因リ新ニ期日ヲ指定シ被告及ヒ辯護人ニ對シテ該期日ノ呼出狀ヲ發シ當日被告等出廷シタル上審理ヲ遂ケ對席判決ヲ爲シタルトキハ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

『第二百二十八條』

○權義ノ基本タル證書カ刑事裁判所ニ於テ偽造ノ判決ヲ爲シ確定シタルトキハ民事裁判所ハ此證書ニ依テ債務者ノ義務ヲ認ムルコトヲ得ス然レトモ刑事ノ判決關席判決ナルトキハ未確定ナルヲ以テ民事裁判所ニ

三	元	三六
二三四	一二五	一〇一

於テ該判決ニ依ラサルモ不法ニ非ス

○闕席判決ハ故障ニ依リ不服ヲ申立ツルヲ以テ一般ノ原則トス從テ故障ヲ爲サスシテ直ニ上告ヲ爲スヲ許サス但控訴ノ場合ハ此限ニ在ラス

○其代人公判ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ闕席判決ヲ爲スヘシ(刑事訴訟法第二百二十六條)トノ法則ハ代人カ被告ニ代リテ公判廷ニ出頭セサリシトキハ被告ニ對シテ闕席判決ヲ言渡スヘシトノ主旨ニ外ナラス從テ此法則アルカ爲メ故障ノ申立ヲ代人ニ許シタルモノト解釋スルヲ得ス

○闕席判決ヲ受ケタル者ニシテ刑ノ期滿免除ヲ得タルトキハ之ト同時ニ故障申立ノ權ヲ失フモノトス

○被告人闕席ノ儘言渡シタル判決ニ對シ檢事ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シタル場合ト雖モ被告人ハ之カ爲メ該闕席判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ妨ケラルヘキモノニ非ス

○裁判所ハ闕席判決ヲ以テ管轄違申立ノ却下ヲ言渡スコトヲ得從テ其判決ニ對シテハ刑事訴訟法第二百二十八條第二項ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス

(參照)

二四	一	二〇二
二八	三	四〇
三五	三	九
三七		二八九
元		二五三
三		二五七二

刑法第六十一條二期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス云云闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ストアリ然ラハ其闕席判決ヲ受ケタル日ヨリ同法第五十九條ニ規定スル年限ヲ經過シタルニ於テハ其闕席判決ハ確定シ既ニ期滿免除ヲ得タルモノニ付キ其闕席判決ヲ受ケタル者ヨリ故障ノ申立ヲ爲スモ之ヲ受理スヘキモノニ非サルナリ
故障ハ上訴ニ非サルヲ以テ(刑法第五十一條ニ關シ)故障ニ要シタル日時ハ刑期計算ニ入ルヘキモノニ非ス

第二百二十九條

『第二百二十九條』

○刑ノ言渡ヲ受ケタル判決ニ對スル控訴ノ棄却セラレタル場合ニ於テハ其對審タルト闕席タルトヲ問ハス刑ノ言渡ヲ是認シタルモノナレハ該判決ハ刑事訴訟法第二百二十九條ニ所謂刑ヲ言渡シタル判決ナリ

○刑事訴訟法第二百二十九條後段ノ規定ハ闕席判決ニ依リ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ自ラ判決ノ送達ヲ受ケルカ又ハ判決執行ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知りタル場合ニ非サレハ縱令被告人ニ於テ他ノ原由ニ依リ闕席判決アリタルコトヲ知ルモ故障申立ノ期間ヲ進行セシメストノ旨趣ニシテ被告人自ラ判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知りタル場合ニ非サレハ故障申立ノ權ナシトノ法意ニ非ス

(同旨)

二八		二一〇
三〇	九	二四
三三	二	四八
三		七二

〔第二百三十二條〕

○ 闕席判決原本ノ有無ヲ以テ故障ノ受理不受理ヲ判スヘキモノニ非ス
○ 被告人カ故障申立ノ書面中ニ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ヲ記載セルニ
止マリ之ヲ其裁判所宛ト爲ササルトキ若クハ全ク其裁判所ノ表示ヲ缺
クトキト雖モ書面ノ記載ニ徴シテ故障ノ申立ナルコトヲ認ムルニ足ル
場合ニ於テハ無効ナリト云フヲ得ス

〔第二百三十三條〕

○ 故障ハ一旦之ヲ受理シタル以上ハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スハ
キモノトス從テ被告ニシテ故障ノ申立ヲ取消シタル場合ト雖モ裁判所
ノ審理權ヲ妨クルモノニ非ス
○ 闕席判決ニ對シ適法ナル故障ノ申立アリタルトキハ其判決ハ當然消滅
ス從テ故障後ノ判決主文ニハ闕席判決ヲ廢棄ストノ宣言ヲ爲スヘキモ
ノニ非ス

〔同三三〕

○ 闕席判決ハ故障ノ受理ニ依リテ消滅ス(同一判例二九年三卷七七頁)
故障ヲ適法トシテ受理シタル以上ハ前闕席判決ハ當然消滅ニ歸ス從テ更ニ其判決ヲ爲スニ方
前闕席判決ヲ廢棄スルノ要ナシ

二九	五
三〇	二
三一	六
三二	九
三三	二
三四	四
三五	七
三六	九
三七	二〇

○ 一旦故障ノ申立アリタルニ裁判所カ其取下ヲ聽許シタルハ不法ナリト
スルモ訴訟記録中裁判所カ故障ノ申立ヲ受理シタル事蹟ノ見ルヘキモ
ノナキ以上ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○ 闕席判決前ノ公判手續ハ該判決ノ基本辯論トシテ其效用ヲ了ヘ故障ニ
基キ爲スヘキ判決ニ何等ノ關係ヲ有セス故ニ縱令闕席判決前ノ公判ニ
於テ證據調ノ申請ヲ爲シ又ハ其申請ニ對シテ許否ノ決定アリタルトキ
ト雖モ故障申立後ノ公判裁判所ハ之ニ羈束セラルルコトナシ
○ 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲
スヘキモノニシテ其更新スヘキ審理手續ハ公判ナルト公判前ノ準備手
續ナルトヲ區別セサルカ故ニ闕席判決前ノ下調手續ハ故障受理後ノ公
判ニ其效力ヲ及ホスモノニ非ス

〔同三三〕

○ 闕席判決前ニ行ハシタル訴訟手續ハ該判決ノ基本手續トシテ其效用ヲ終ヘ故障申立ニ基キテ
爲スヘキ判決ニ何等ノ關係ヲ有セス從テ故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニハ公判準備ノ手續ヨ
リ公判開始後ノ手續ニ至ル迄總テ通常ノ規定ニ從ヒ新ニ之ヲ履行セサルヘカラス

○ 闕席判決ニ對シ適法ナル故障ノ申立アリタルトキハ該判決ハ當然消滅
ス歸スルモノナルヲ以テ之ニ對スル檢事ノ控訴申立ハ其基礎ヲ失ヒ結

三六	五
三七	二
三八	六
三九	九
四〇	二
四一	四
四二	七
四三	二〇
四四	二
四五	六
四六	九
四七	二〇

局不適法ニ歸スルモノトス

○舊刑法ニ所謂重罪トシテ取扱フヘキ事件ノ闕席判決ニ對スル故障ノ申立カ適法ナル場合ニ於テハ所謂通常ノ規定ニ依リ先ツ刑事訴訟法第二百三十七條ノ下調手續ヲ履踐シ然ル後公判期日ヲ開キ新ニ審理手續ヲ開始スヘキモノニシテ決シテ故障ヲ受理スヘキモノト決シタル後ニ於テ右下調手續ヲ爲スヘキモノニ非ス

○闕席判決前ニ爲サレタル證據決定ハ闕席判決ト同時ニ消滅スルモノトス

○闕席判決前行ハレタル訴訟手續ハ故障申立ニ因リ通常ノ手續ニ從ヒ爲シタル判決ト何等ノ交渉ナキモノトス

○再度ノ闕席判決ニ對シ故障ノ申立ヲ許ササル法則(刑事訴訟法第二百三十三條第二項)ハ故障ノ申立ヲ受理シ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ本案ノ辯論ヲ開始セサル前故障申立人ノ闕席ニタルトキニ限ル

第三章 地方裁判所公判

○第二百二十五條

元	三	七	七	三
二六	一	一〇三	四九二	六
二	三	一	二	三

○被告事件ヲ公判ニ付スル豫審終結決定ニシテ一旦確定シタル以上ハ公判裁判所ニ其事件ヲ審判スヘキ職責ヲ生スルモノニシテ縱令終結決定ノ手續ニ不當ノ點アルモ之ヲ以テ事件ノ受理ヲ拒ムノ權ナシ

○豫審ヲ經タル事件ニ在テハ裁判所ハ豫審終結決定ニ依リ公訴ヲ受理スルモノナルカ故ニ犯罪事實ノ記載ナキ終結決定ニ依リテ公訴カ適法ニ受理セララルヘキモノニ非サルハ勿論ナリ

○豫審終結決定中犯罪構成事實ノ記載ニ缺クル所アルカ爲メ該決定ニ依リテハ公訴事實ノ罪トナラサル場合ト雖モ受訴裁判所ハ一應事實ノ審理ヲ爲シ果シテ犯罪構成ノ事實ヲ具備スルヤ否ヤヲ明確ニシ相當ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

(參照)

檢事方同時ニ豫審ヲ求メタル事件ト雖モ豫審終結決定ヲ以テ公判ニ付セラレサル以上ハ實質上ノ一罪トシテ處分スヘキ犯罪行為ヲ除ク外公判判事ハ之カ裁判ヲ爲スノ權限ナキモノトス

(第二百三十七條)

『第二百三十七條』

○重罪事件ノ公判ニ於テハ其辯護人ハ開廷ノ初ヨリ立會フコトヲ要ス
○重罪事件ニ付キ辯護人ノ一名ヲ呼出サスシテ公判ヲ開廷スルモ他ノ辯護人ニ於テ出廷シタルトキハ辯護人ナクシテ重罪ノ公判ヲ開キタル不

三七	三	三	三〇
一六一	二七五	二四八	八
二	三	一三三	八

法アリト謂フヲ得ス

○重罪事件ニ付キ辯護人ノ一名ヲ呼出サスシテ審理ヲ結了シタル判決ハ不法ナリ

○受命判事トハ裁判所ノ部員ニシテ裁判長ヨリ或事項ノ取調ヲ命セラレタル判事ノ謂ナリトス從テ刑事訴訟法第二百三十七條ニ所謂受命判事モ亦其事件ヲ裁判スヘキ裁判所ノ部員ナラサルヘカラス

(反對)

刑事訴訟法第二百三十七條ニハ受命判事ヲ部員ニ限ルヘキ旨ノ規定アルコトナシ從テ重罪事件ノ下調ヲ爲シタル受命判事カ判決裁判所ヲ構成シタル部員ニ非サルモ不法ニ非ス

○重罪事件ノ下調ハ公判ノ準備手續ニシテ公判ノ一部ヲ成スモノニ非ス從テ爾後部員ニ變更ヲ生シ其下調ヲ爲シタル判事カ公判及ヒ判決ニ干與セサリシトテ之カ爲メ既ニ有效ニ成立シタル下調ノ無効ニ歸スヘキ謂レナシトス

(同意)

下調ヲ爲シタル受命判事公判廷ニ立會ハサルモ裁判ノ構成ニ瑕瑾アリト云フヲ得ス重罪公判ノ下調ハ其事件ヲ裁判スル裁判長又ハ受命判事ニ於テ爲スヘキモノトス然レトモ其判事ニシテ疾病事故アリテ公判ニ參座スルコト能ハサルカ爲メ他ノ判事之ニ代リテ參座スルコトアルモ其下調ハ不法ニ非ス

三三	三五	三六	三六	三六	三六	三六
五	五	五	五	五	五	五
八	八	八	八	八	八	八
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七

重罪事件ノ公判下調ハ公判開廷前ノ手續ナリ從テ公判中判事ニ異動アリシ爲メ審理ヲ更新スルモ下調ノ手續ヲ更新スルヲ要セス

重罪事件ノ下調ハ必スシモ其事件ノ判決ニ干與シタル判事ニ於テ之ヲ爲スヲ要セス其下調ヲ爲シタル當時ニ於ケル裁判長若クハ受命判事ニ於テ爲スヲ以テ足ル

○重罪事件ニ於テ第一回ノ公判開廷後始メテ下調ヲ爲シ爾後公判ノ手續ヲ更新スルコトナク引續キ審理ヲ遂ケタルトキハ重要ナル訴訟手續ニ違背セルモノニシテ其手續ニ基キタル判決ハ違法ナリ

○刑事訴訟法第二百三十七條所定ノ訊問ハ公判準備ノ爲メニスルモノナレハ其準備ニ必要ナル程度ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ足レリトス而シテ其程度ハ裁判長又ハ受命判事ノ定ムヘキ所ナリ

○重罪事件ノ下調手續ノ遺漏ハ公判手續ヲ無効ナラシメ且其手續ニ基キテ宣告セラレタル判決ヲ違法ナラシムルモノトス

○公訴裁判所ニ繫屬スル被告事件カ刑事訴訟法第二百三十七條ノ意義ニ於テ重罪事件ナルヤ否ヤハ公訴ノ目的タル被告ノ犯罪行為カ重罪ヲ構成スルヤ否ヤニ依リテ定マルヘキモノニシテ被告カ重罪ノ刑ニ處セラレタルヤ否ヤニ據リテ定マルヘキモノニ非ス

重罪事件ノ下調ハ公判裁判所ニ於ケル一種ノ準備手續ニシテ豫審ノ如

三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	三	三	三	三	三	三
五	五	五	五	五	五	五
八	八	八	八	八	八	八
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七
一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七	一七四七

ク密行ヲ要スルモノニ非ス

○刑事訴訟法第二百三十七條ニ定ムル下調ノ手續ニ付テハ法律上何等ノ制限條件ヲ設ケサルヲ以テ數名ノ共同被告ニ對シ包括的ニ之ヲ爲スト各別ニ之ヲ行フトハ受訴裁判所ノ機宜ノ處分ニ屬スルモノトス

(同主旨)

重罪事件ノ下調ハ各被告人別個ニ之ヲ爲スヘシトノ規定ナシ故ニ共犯者ヲ同一ノ法廷ニ於テ訊問シ其問答ヲ同一ノ調書ニ記載スルモ不法ニ非ス

數人共犯ニ係ル重罪事件ノ下調ハ各被告人ニ對シテ各別ニ之ヲ爲スヘキコトヲ命ジタル規定ナケレハ各被告人ヲ同時ニ訊問シ且同一ノ調書ニ其問答ヲ記載スルモ違法ニ非ス

○被告人ニ對スル公判前ニ於ケル訊問ノ欠缺ハ該被告人ニ對スル公判手續ヲ無効ナラシムルニ止マリ延テ他ノ被告人ニ對スル公判手續ノ瑕瑾ヲ來スヘキ理由ナシ

(同主旨)

刑事訴訟法第二百三十七條ニ定メタル下調手續ノ遺漏ハ其手續ヲ爲サザリシ被告ニ對スル公判手續ヲ無効ナラシムルニ過キスシテ他ノ被告ニ對スル公判手續ニハ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

○豫審ニ於テ舊刑法ノ重罪ニ該ル被告事件トシテ第一審裁判所ノ公判ニ付セラレタル場合ニ於テ第一審裁判所カ刑事訴訟法第二百三十七條所

四三

一三二六

四三

一〇三三

三七

一四四五

四三

一三一九

四四

一五二七

四三

二〇〇五

定ノ手續ヲ履行セサルトキハ第一審ノ公判手續ハ無効ナルヲ以テ右公判ニ於ケル被告ノ供述ハ之ヲ適法ノ證據トシテ採用スルヲ得サルモノトス

(同主旨)

裁判所カ重罪事件ヲ開廷スルニ當リ下調ノ手續ヲ履踐セサルトキハ其公判手續ハ無効ニ歸スルモノトス從テ之ニ基キタル被告ノ陳述ハ適法ノ證據力ヲ有セス

○豫審判事カ重罪トシテ公判ニ移シタル事件ニ付キ重罪下調ヲ爲サスシテ開キタル公判ハ無効ナルヲ以テ其下調ヲ爲シタル後審理ヲ更新セサルヘカラス

○豫審終結決定ニ於テ重罪及ヒ輕罪ニ該ル二箇ノ事實ヲ認メ之ヲ公判ニ付シタル場合ニ第一審裁判所カ重罪下調手續ニ依ラスシテ審理ヲ遂ケ且第一事實ヲ認メサリシトスルモ之カ爲メニ事件ノ性質ヲ變スヘキモノニ非ス從テ第二審裁判所ニ於テ公判前重罪下調ノ手續ヲ履踐セザリシハ重要ナル訴訟手續ニ違背スルモノト云ハサルヘカラス

○重罪事件ノ下調ハ公判ノ準備手續ニシテ公判ノ一部ヲ成スモノニ非サレハ其下調ニシテ適法ナル以上ハ爾後同事件ヲ裁判スヘキ部ニ變更アリタルトキト雖モ下調ヲ更新スルノ要ナキモノトス

元

一三七

四三

三二

元

一四三

二

三八七

二

六〇九

○業務上占有者タル身分ヲ有セサル者カ右身分ヲ有スル者ト共ニ刑法第
二百五十三條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其身分ヲ有セサル者ハ同第
六十五條第二項ニ依リ同第二百五十二條ニ定ムル五年以下ノ懲役ニ該
ル刑ヲ科スヘキモノナルヲ以テ其罪ハ刑法施行法第三十條ニ所謂舊刑
法ノ輕罪ニ該當スルモノトス從テ右犯罪ニ關スル被告事件ヲ審理スル
ニハ公判前被告人ヲ訊問スルノ手續ヲ必要トスルモノニ非ス

(同旨)

○刑法第二百五十三條ハ業務上ノ占有者ナル犯人ノ身分ニ依リ特ニ刑ヲ加重シタルモノナレハ
該身分ナキ者カ同條ノ罪ニ加功シタルトキハ其身分アル者ニ對シテノ舊刑法ノ重罪ト看做
シ下調ヲ爲スヲ以テ足レリトス

○業務上他人ノ物ノ占有者タル身分ナクシテ他人ノ業務橫領行爲ニ加功シタル所爲ハ刑法第六
十五條第二項第二百五十二條ニ依リ處斷スヘキ事件ナレハ下調手續ヲ爲スノ要ナシ

○豫審ヲ經タル事件ニ付テハ裁判所ハ豫審終結決定ニ依リ之カ公訴ヲ受
理スルモノナレハ事件ノ罪質如何ハ終結決定ノ表示スル事案ノ内容ニ
因リテ定マルモノトス

○刑事訴訟法第二百三十七條ニ依リ重罪事件ニ付キ下調ヲ要スルハ獨リ
對席判決ヲ爲ス場合ニ限リ闕席判決ヲ爲ス場合ニハ必スシモ之ヲ要セ
サル旨趣ナリトス

三	四	二	三	六
七四	六三	二七	九六	七七

○重罪事件ニ付キ被告數名ニ對シ一名ノ辯護人ヲ選定スルモ不法ニ非ス

○官選辯護人ニシテ疾病其他ノ事故ニ依リ出廷スルコト能ハサル場合ニ
於テハ他ノ辯護士ニ代理ヲ委任スルコトヲ得而シテ其代理ヲ聽許スル
ト否トハ裁判長ノ職權ニ屬ス

○辯護人ハ官選ニ係ルモノト雖モ裁判所構成員ニ非ス

○官選辯護人ニハ代理ヲ許サストスルノ理ナキカ故ニ辯護士ニシテ辯論
ニ與ル者アル以上ハ被選任者タルト其代理人タルトヲ問ハス重罪事件
ノ裁判手續ヲ踐行シタルモノトス

○裁判長カ重罪事件ニ付キ辯護人ヲ選任シタル後被告自ラ辯護人ヲ選定
シ之ヲ届出テタル場合ニ裁判所ニ於テ其選任取消ノ手續ヲ爲ササルハ
穩當ナラサレトモ之カ爲メ被告ノ辯護權ヲ侵害スルコトナケレハ其訴
訟手續ヲ目シテ不法ナリト云フヲ得ス

○重罪事件ニ付キ裁判長カ辯護人ヲ選定シタル後被告人ニ於テ辯護人ヲ
自選スルモ之カ爲メニ官選辯護人ノ辯護權ハ當然消滅スヘキモノニ非
ス

○被告ノ官選辯護人カ期日ヲ懈怠シタル場合ト雖モ被告自選ノ辯護人出
廷シテ審理ヲ結了セル以上ハ其公判ヲ目シテ不適法ニ行ハレタルモノ

三〇	三	三	三	三
一〇	六	七	七	九
七	六	八	八	八
七	五	八	八	八
三	六	七	七	七
二	七	七	七	七
一	七	七	七	七

ト云フヲ得ス

○裁判長カ數名ノ被告ニ對シ一名ノ辯護人ヲ選定シタル場合ニ於テ被告等ヨリ何等ノ異議ヲ申立ツルコトナク辯論ヲ終了シタル以上ハ縱令公判下調ノ際受命判事カ共通ノ辯護人一名ニテ異議ナキヤ否ヤヲ訊問セザリシトスルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○刑事訴訟法第二百三十七條ニ依ル辯護人ノ選任ハ裁判長ノ職權ニ屬スルヲ以テ裁判長ハ隨時之ヲ選任及ヒ解任シ得ヘキハ勿論ニシテ其選任又ハ解任ハ裁判長ノ意思表示ト同時ニ其效力ヲ生スルモノトス

○公判下調調書ニハ被告人ニ於テ身體ノ拘束ヲ受ケスシテ出廷シタル旨ヲ記載スルヲ要セス

○重罪事件ノ下調調書ニハ公判始末書ニ於ケルカ如ク一切ノ手續ヲ記載スヘキモノニ非サレハ該調書ニ被告人カ拘束ヲ受ケサル旨ノ記載ナキヲ以テ直ニ拘束ヲ受ケタルモノト爲スコトヲ得ス

○刑事訴訟法第二百三十七條ニハ書記ハ重罪事件ノ下調ニ付キ調書ヲ作ルヘキ旨ノ規定アルモ供述者ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘキ規定ナシ從テ該調書ニ供述者ノ署名捺印ナキモ違法ニ非ス

(同旨)

三九	一三七二
四〇	一八五二
六一	三〇
三二	七四
三七	四七
三八	三六〇

刑事訴訟法第二百三十七條ニハ被告人ニ讀聞ケ署名捺印セシムルノ法規ナキノミナラス同條ニ從ヒ作ルヘキ調書ハ豫審調書ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ同法第九十五條ノ式ヲ履行セザルモ違法ニ非ス

重罪公判ノ下調調書ニハ被告人ノ署名捺印アルヲ必要トセス

重罪事件ノ下調調書ニ付テハ被告人ニ之ヲ讀聞ケ署名捺印セシムヘキトノ規定ナシ

○重罪事件ノ下調書ニハ受命判事ノ署名捺印ヲ必要トセサルモ其署名捺印アルカ爲メニ該下調手續ヲ目シテ違法ナリト謂フヲ得ス

(同旨)

重罪事件下調訊問調書ニハ判事ノ署名捺印ヲ必要トセス

○重罪事件ニ付キ共同被告人ノ一人ニ對スル下調調書ニ書記ノ契印ヲ遺脱シタルトキハ同被告ニ對スル公判ハ下調ナクシテ行ハレタル結果ヲ生シ手續上違法タルヲ免レスト雖モ其公判始末書ニシテ適法ナル限り之ニ錄取セル供述ハ他ノ被告ニ對スル案件ニ付キ證據トシテ毫モ無効ノモノニ非ス

○被告人ニ對スル公判前ノ訊問調書ハ其文書ノ性質上即時ニ作成スルコトヲ要セサルモノナルヲ以テ訊問ノ日ト調書作成ノ日ト相異ナルモ違法ニ非ス

○重罪ノ下調手續ニ於ケル被告人ノ訊問調書ニ被訊問者カ其年齡以下ノ

二七	二〇三
三〇	一〇
三二	三六
四一	二四
三三	一〇
四二	八九五
四四	一五二七

○點ニ付キ答ヲ爲シタル旨ノ記載ナシト難モ受命判事ニ於テ被訊問者カ被告人ニ相異ナキコトヲ認メ下調ヲ爲シタルコト明カナル以上其下調手續ノ有效ナルハ勿論該下調調書モ亦無効ニ非ス

(參照)

自首減輕ニ依リ輕罪ノ刑ニ處セラレルモ罪實重罪ナル上ハ重罪事件ノ手續ヲ履踐シテ審判スヘキモノトス

裁判上重罪輕罪ヲ區別スルハ罪實ニ依ル

受命判事ノ訊問調書ニ刑事第二部休暇第二部ト記載シ何レノ部ニ於テ訊問シタルヤ判明セサルモ爲メニ其調書全體ヲ無効ニ歸セシムヘキモノニ非ス

重罪公判ニ付スル豫審終結決定ノ抗告期間内ニ於テ公判ノ豫備訊問ヲ爲スハ違法ニ非ス

【第二百三十八條】

○刑事訴訟法第二百六十四條及同第二百三十八條ノ場合ニ非スシテ計算調ノ如キ場合ニ於テ控訴院カ公判開廷ノ上其公判ヲ止メ受命判事ヲシテ被告及ヒ參考人等ヲ訊問シテ調書ヲ作り報告ヲ爲サシメタルハ違法ノ處分ナリ

○當該裁判官全部カ臨檢處分ヲ爲スハ受命判事之ヲ行フ場合ト同シク公判ニ於ケル證據調ノ準備手續タルニ過キサレハ公判審理ノ手續規定ヲ履踐スルノ要ナキモノトス

二	七〇
二九	六六
二九	六六
三三	六五
四〇	一〇一
二六	二二
二六	二二
六二	六二

○受命判事カ數日ニ涉リ檢證ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ一通ノ調書ニ作成スルハ不法ニ非ス而シテ其調書ノ末尾ニ所屬廳印ヲ用ユルコト能ハサル事由ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記ノ署名捺印アル以上ハ此等ノ表示ハ前數回ノ檢證ニモ併用セラレタルモノト認ムルヲ當然トス

○證據調ヲ爲スヘキ受命判事ノ員數ハ法律ノ限定スル所ニ非サルヲ以テ裁判所ハ便宜ニ從ヒ數名ノ受命判事ヲ任スルコトヲ得ルモノトス

○數名ノ受命判事アル場合ニ於テ其受命判事カ共同シテ其任務ヲ行フヘキヤ又ハ各分擔シテ單獨ニテ之ヲ行フヘキヤハ取調事項ノ性質及ヒ時ノ宜キニ從ヒテ定ムヘキモノトス

○公判裁判所ヲ構成スル判事全部カ檢證處分ヲ爲スハ受命判事カ之ヲ行フ場合ト同シク公判ニ於ケル證據調ノ準備手續タルニ過キササルノミナラス此場合ニ於ケル檢證調書ノ作成ニ付キ法律上何等ノ規定ナキヲ以テ立會ノ書記ト共ニ裁判長一名ノ署名捺印アルヲ以テ足り必スシモ立會各判事ノ署名ヲ要スヘキモノニ非ス

○裁判所カ自ラ檢證ヲ爲ス場合ニ於テハ檢證ノ爲メ必要アル場合ハ勿論檢證ノ結果必要ト認メタルトキハ臨檢出張先ニ於テ證人訊問ヲ爲スモ敢テ不法ニ非サルノミナラス其訊問ハ必スシモ檢證ノ場所ニ於テ之ヲ

四三	八八
四五	八八
四六	一三四

爲スコトヲ要セス他ノ便宜ノ場所ニ於テ之ヲ爲スモ不法ニ非ス
○實地臨檢ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問シ鑑定ヲ命スルカ如キハ臨檢處分上
必要ノ事項ナルヲ以テ其證據調ハ自ラ臨檢ノ決定中ニ包含セララルモ
ノトス

〔同主旨〕

裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトシ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲スコトヲ許シタル
以上(刑事訴訟法第二百三十八條)ハ其臨檢處分ノ必要上證人ヲ訊問スルハ違法ニ非ス
裁判所ハ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得ルト同時ニ臨檢ノ場所ニ於テ證人
又ハ參考人ノ訊問ヲ必要トスルトキハ受命判事ヲシテ其訊問ヲモ爲サシムルコトヲ得
刑事訴訟法第二百三十八條ノ場合ニ於テハ受命判事ハ臨檢ノ上證人ヲ訊問シ鑑定ヲ爲サシメ
若クハ證據物ヲ差押フル等必要ナル處分ヲ爲シ得ヘキモノトス從テ公判始末書ニ特ニ右等證
據調ノ決定ヲ爲シタル旨ノ記載ナキモ之カ爲メニ受命判事ノ爲シタル處分ヲ不法ナリト云フ
ヲ得ス

實地臨檢ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問シ鑑定ヲ命スルカ如キハ臨檢處分上必要ノ行爲ナルヲ以テ
其證據調ハ臨檢ノ決定中ニ包含スルモノトス從テ受命判事カ臨檢ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問シ
タルハ不法ニ非ス

公判裁判所ハ受命判事ヲシテ檢證處分ヲ爲サシムルコトヲ得故ニ檢證ノ場所ニ於テ鑑定又ハ
證人訊問ヲ必要トスル場合ニハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルモ違法ニ非ス
實地臨檢ノ場所ニ於テ鑑定ヲ命スルカ如キハ臨檢處分上必要ノ所爲ナルヲ以テ臨檢ノ決定中

三	六〇七
五	五六五
三五	六
三五	五九
三五	七
三六	六六
三六	五六六
三六	八六
三九	一五八
三九	二三八

ニ當然包含セルモノトス

臨檢ノ場所ニ於テ鑑定ヲ命スルカ如キハ臨檢處分上必要ノ事項ナルヲ以テ當然該處分ノ決定
中ニ包含セララルモノトス

受命判事カ臨檢ノ場所ニ於テ被告人ヲ訊問スルカ如キハ當然臨檢處分ノ決定中ニ包含スルモ
ノナレハ受命裁判所ニ於テ特ニ之カ決定ヲ爲ササル場合ト雖モ該訊問ハ違法ニ非ス
受命判事カ臨檢ニ際シ必要ナル證人ヲ訊問スルカ如キハ自ラ其證據調ノ決定中ニ包含スル事
項ナルヲ以テ該訊問ハ違法ニ非ス

○裁判所カ實地臨檢ノ決定ヲ爲スニ當リテハ況ク受命判事カ其他ノ證據
調ヲ爲シ得ヘキコトヲ宣言スルノ要ナシト雖モ其旨ヲ宣言シタリトテ
之ヲ目シテ不法ノ決定ト爲スヲ得ス

〔同主旨〕

受命裁判所カ受命判事ヲシテ犯所ニ臨檢セシムルノ決定ヲ爲ス場合ニ受命判事ニ於テ必要ト
認ムル證人ヲ訊問スヘキ旨ヲ併セテ決定スルモ之ヲ禁シタル規定ナキヲ以テ違法ニ非ス

○受命裁判所カ受命判事ヲシテ檢證セシムル以上ハ之ニ必要ナル鑑定人
ノ選任ヲ受命判事ニ委託スルモ不當ニ非ス

第二百三十九條

○刑事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ被告人カ公訴ノ原因タル犯罪事實
ヲ自白セル場合ト雖モ尙ホ證據ヲ取調フヘキ旨ヲ命シタルニ過キスシ

三九	九三一
四三	六七八
四四	二三八
四五	八二八
五	五六五
四	二三八
六	八

○止シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘキコトヲ命シタルニ止マルヲ以テ受命判事ノ報告アリタル後審理更新ヲ必要トスル他ノ原因發生セサル限ハ其中止以前ノ公判手續ヲ續行スルヲ以テ足ルモノトス

(同主旨)

○刑事訴訟法第二百四十一條第二項ニ所謂公判ヲ止メトハ所定ノ手續ヲ爲ス爲メ一時公判ヲ停止スルノ謂ニシテ其以前ノ公判手續ヲ無効ニ歸セシムルモノニ非サレハ後ニ至リ右公判手續ヲ更新スルノ必要ナシ

○第一審裁判所カ豫審判事ノ輕罪トシテ公判ニ移シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ刑事訴訟法第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ唯公判ヲ止メ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ爲サシメタル後前審理ヲ繼續スルヲ以テ足り之ヲ更新スルノ要ナキモノトス

○刑事訴訟法第二百四十一條第二項ノ規定ニ依リ受命判事ノ爲シタル一切ノ處分ハ之ヲ續行公判ノ辯論ニ現出セシムヘキコトヲ命シタル法文ナキヲ以テ裁判所カ其職權ニ因リ該報告書其他受命判事ノ取調ノ結果ヲ以テ被告ノ罪責ノ有無輕重ヲ判斷スルニ必要ナラスト認メタルトキハ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハサルモノトス

(參照) 第二百四十一條

刑事訴訟法第二百四十一條ノ場合ニ於テ輕罪ナリトシテ受理シタル裁判所カ之ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事カ更ニ重罪ナリトシテ追索スルコトヲ申立テタルトキハ法律上當然重罪公判ノ手續ニ從テ審判セサルヘカラス

○受命判事ノ證人訊問ハ之ヲ被告人及ヒ辯護人ニ通知シ及ヒ立會ハシムルコトヲ必要トセス強盜罪ヲ構成スルモノト思料スルヲ以テ地方裁判所刑事部ニ移付ストノ支部ノ決定ハ事件移付ノ決定ニ過キス從テ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ナリト云フヲ得ス

○地方裁判所カ支部ノ移送ヲ受ケタル事件ニ付キ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲サスシテ直ニ受命判事ヲシテ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメタルハ訴訟手續ヲ誤リタルモノトス然レトモ之カ爲メ檢事ノ提起シタル公訴ニ何等ノ影響ナキヲ以テ控訴裁判所ハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スノ要ナシ

○刑事訴訟法第二百四十一條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事ヨリ適法ナル報告ヲ受ケタル後ニ非サレハ中止セル公判ノ審理ヲ續行シ得サルモノトス從テ其報告ナキニ拘ハラズ審理ヲ續行スルトキハ該手續ニ於ケル證據調其他裁判所ノ行爲ハ總テ無効ニ歸スヘシ
○刑事訴訟法第二百四十二條第二項ノ場合ニ於テ裁判所カ受命判事ヨリ適法ナル報告ヲ受ケタル後更ニ公判ヲ開キ該判事ノ訊問調書ヲ朗讀セシメ一被告人ノ意見ヲ聽取リ且證據調其他ノ手續ヲ爲シタル以上ハ縱令起訴事實全部ニ對シテ審理ヲ更新セサルモ違法ニ非ス

第五編 上訴

第一章 通則

三

四五

元

三

四五〇

三三三

一四二三

四五〇

二八

三三

三五

三五

四二

四二

四〇五

一四

六七

六七

三

六七

○上訴權ハ公益ニ關スルモノナレハ其發生前豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモ既ニ發生シタル以上ハ隨意ニ拋棄シ得ルモノトス而シテ其明示タルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

○裁判所構成法第六條第四項ニ所謂事件ノ猶豫スヘカラサルモノナルヤ否ヤハ同條所定ノ權限ヲ有スル者ニ於テ專決スヘキ事項ナルヲ以テ右命令ノ當否ニ付テハ上級裁判所ニ於テ之ヲ爭フコトヲ許ササルモノトス

○裁判所カ發シタル略式命令ニ對シ適法ナル正式裁判ノ申立アリタルコトハ訴訟條件ニ屬スルヲ以テ獨リ同裁判所ノミナラス爾後事件ノ繫屬スル各審級ニ於テ職權上之カ調査ヲ爲スヘキモノトス

○上訴審ニ於テ爲シタル公訴不受理ノ判決確定シタルトキハ下級審ニ於テ爲シタル本案ノ判決ハ無効ニ歸スト雖モ箇箇ノ手續ニ付テハ手續自體ニ瑕疵ナキ限ハ之カ爲メ無効ト爲ルヘキモノニ非ス

(參照)

懲治處分ハ裁判權ニ付セラレタル特別ノ處分ニシテ刑ヲ言渡シタル公訴判決ト其性質ヲ異ニス從テ該處分ニ對シテ上訴スルヲ得ス

第二百四十二條

第二百四十二條

○民事原告人ノ代表者ニ指定シタル上ハ其訴訟委任ノ範圍ハ上訴ニ及フ

○被告ハ公訴不受理ノ判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○刑事訴訟法上罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ被告ハ代人ヲシテ出頭セシムルヲ得ヘキモ代人ヲ以テ上訴スルコトヲ認許シタル法條ナシ

(同主旨)

罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ト雖モ上告審ニ於テハ代人ヲ以テ上告ヲ爲スコトヲ許サス
刑事訴訟法ハ代人ヲ以テ上訴ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テ定則トス故ニ縱令罰金刑ニ處セラレタル場合ト雖モ上訴ノ申立ハ特ニ之ヲ許スノ明文ナキヲ以テ代理人ニ依リテ爲サレタル控訴ノ申立ハ不合法ナリ

○上訴ハ訴訟關係人各自ノ利益ノ爲メ前裁判ノ不當ヲ矯正スルコトヲ得セシムルノ旨趣ニ出テタルモノナレハ縱令前裁判ニ不當ノ點アルモ之カ矯正ヲ求ムルニ付キ利益ヲ有スル者ノ外上訴ヲ爲シ得サルモノトス
○前審ニ於テ單ニ被告ノ代理人ト爲リタル者ハ被告ニ代リテ上訴ヲ爲スノ權限ヲ有セス

(同主旨)

第一審ノ訴訟行爲ノミチ委任セラレタル代人ハ上訴提起ノ權限ヲ有セス從テ其代人ノ提出シタル控訴申立書ハ無効ナリ

三九	三七	三四	三三	三四	三三	二九
一四六	一四六	一七	二二	五九	九一	五
一四六						
九六						

三六	七	五	四	三六	二	七〇
八〇	二四六	一三四	五八五			